

ス而シテ假出獄ヲ許ス可キ者ニハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日  
 典獄ヨリ其証票ノ謄本ヲ添ヘ其地ノ警察署ニ護送シ特別監視ヲ執  
 行セシム、犯人ハ刑期滿限ノ日ニ至レハ仮出獄証票ヲ警察所ニ還納  
 シ警察所ヨリ証票ヲ渡シタル獄司ニ遞送ス若シ其犯人主刑滿限ノ  
 後尙ホ監視ニ付スヘキモノタルハ刑法第三十七條刑法附則第二  
 十一條以下ノ規則ニ從ヒ之レカ處分ヲ爲ス又仮出獄ヲ許ス可キ者  
 住所ナク及ヒ引取人ナキハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サ  
 シメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ  
 流刑ハ第二十一條ニ於テ無期ノモノハ五年有期ノモノハ三年ヲ經  
 過スレハ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルコト爲セリ  
 而シテ此免幽閉ハ則チ仮出獄ニ齊シキモノナルヲ以テ流刑ニハ別  
 ニ仮出獄ヲ許スコトナキナリ、徒刑流刑ハ至重ノ刑ナルヲ以テ他刑ニ

於テ仮出獄ヲ許サレタル者ノ如ク我住所ニ歸リ來ルコトヲ許サス皆  
 島地ニ在テ居住セシムルナリ、但徒刑ノ仮出獄ト流刑ノ免幽閉トチ  
 許スノ年限ニハ大差アリテ無期流刑ニハ其年限五年ナレハ無期徒  
 刑ニハ十五年有期流刑ニハ三年ナレハ有期徒刑ニハ刑期四分ノ三  
 ナリ、其如此ク大差アルハ我輩カ嘗テ説明シタルカ如ク流刑ノ性質  
 ト徒刑ノ性質トハ大ニ異ナル所アレハナリ  
 又免幽閉ハ特リ流刑ノミニ施用シ他ノ定役ナキ刑ニ付テハ此事ナ  
 シ故ニ今十年ノ禁獄ニ處セラレタル者アランニ其刑期四分ノ三即  
 チ七年六月ヲ經過スルニ非サレハ假出獄ヲ得ル能ハス然ルニ無期  
 流刑ハ五年有期流刑ハ三年ニシテ免幽閉ヲ得ルニ至ル夫レ同質ノ  
 刑ニシテ如此差異アリ蓋シ不權衡ト云ハサルヲ得サルナリ、草按ニ  
 ハ重禁獄ノ囚ハ二年輕禁獄ノ囚ハ一年ヲ經過シタル後島地ニ移ラ



ント請フ者ハ幽閉ヲ免シテ其刑期間島地ニ發遣シ居住セシムルヲ得トアリタリ故ニ此不權衡ヲ生スルコトナカリシ

第五十四條

徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、ト雖モ仍

ホ島地ニ居住セシム

徒刑ノ囚假出獄ヲ許サ、ルト雖モ仍ホ島地ニ止メテ居住セシメ内地ニ歸ルコトヲ許サ、ルモノハ若シ假出獄中重輕罪ヲ犯スキハ直チニ出獄ヲ停止シ其刑ヲ執行スルカ故ニ内地ニ歸ラシムルキハ復タ更ニ島地ニ發遣セサルヲ得ス是レ甚タ煩雜ノコトニシテ且費用モ亦僅少ナラサレハナリ

假出獄ヲ許サレ島地ニ居住スル者ハ妻子眷屬ヲ招テ同居スルコトヲ得ヘク又島地ニ在テ嫁娶セントスル者ハ監署ニ申告シ獄司ノ許可ヲ受ケ之ヲ行フコトヲ得可シ其此ノ如キ寛大ノ處置アルモノハ不毛

ノ地ヲ開キ殖民ノ道ヲ廣メ永ク此地ニ移住セシムルノ目的ナリ外國ノ例ヲ見ルニ島地ニ發遣セラレタル囚徒多クハ死亡ス佛國ニ於テハ百人ニ付一年間ニ死亡スル者二十二人ノ統計ナリト是レ畢竟島地卑惡ニシテ氣候不順ナレハナリ我北海道ノ如キハ地質良好ニシテ氣候モ亦惡カラサルニ因リ其囚徒ニ取テハ大ニ幸福ナリト云フ可シ

第五十五條

假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ

以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但本刑期限内

特別ニ定メタル監視ニ付ス

假出獄ヲ許サレ身体ノ自由ヲ得タル上ハ自活ノ途ヲ立テサルヲ得ス故ニ治産禁ノ幾分ヲ免セサル可ラス本條ハ即チ假出獄ヨリ出タ

(第五十四條) (第五十五條)



ル自然ノ結果ナリトス然レモ全ク此禁ヲ解クモ或ハ害ナキニ非  
 ス故ニ其幾分ヲ免スルナリ而シテ本條ニ免スルヲ得トアルヲ以テ  
 見レハ或ハ免セサルコアルカ如シト雖モ必ス之ヲ免セサル可ラス  
 然ラサレハ假出獄モ其效ナク却テ糊口ニ窮迫シ遂ニ道路ニ彷徨ス  
 ルノ慘怛ヲ來ス可シ故ニ實際ニ於テハ律文ニ拘ハラズ必然其幾分  
 ヲ免スルナラン

又行政ノ處分ヲ以テ之ヲ免ストアリ何人ノ之ヲ許スカ刑法附則ニ  
 モ明支ナシト雖モ内務司法兩卿ノ許可ヲ受クルハ當然ノコナリ何  
 トナレハ治産禁ヲ免スルハ假出獄ト密着シタル事件ナレハ假出獄  
 ヲ許可スルト同時ニ必ス此禁ヲ免スルノ許可ナカルヘカラサレハ  
 ナリ

假出獄ヲ許サレタル者ハ其所好ノ地ニ居住スルヲ得ルト雖モ全ク

自由ヲモ與ヘタルニ非サレハ本刑ノ期限内特別ノ監視ニ付ス此特  
 別ノ監視ハ附加刑ニ非スシテ行政上取締ノ處分ナリ故ニ此規則ニ  
 違背スルモ刑法第百五十五條ヲ以テ論スルコトヲ得ス監獄則ニ由リ  
 之ヲ懲罰スルノミ此特別監視規則ハ通常監視ニ同シ唯其守ルヘキ  
 條件ニ付キ僅ニ差異アリ

一通常監視ハ毎月二度所轄警察署ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監  
 視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クルモ特別監視ハ毎週間ニ一度ナ  
 リトス但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能ハ  
 サルモ其事由ヲ届ケ出ツルハ共ニ同シ  
 二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サ、ル  
 ハ同一ナリ

三事故アリテ住居ヲ移轉セントスルモ警察署ニ申請シ許可ヲ



受クルコハ同一ニシテ特別監視ハ他ノ府縣ニ轉住スルコトヲ許サ  
、ルノ但書アルノミ

四通常監視ハ擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ  
得サル事故アルトハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ得可シトア  
レト特別監視ハ往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サスト  
アリ

### 第五十六條

出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ

直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入ス  
ルコトヲ得ス

本條ハ假出獄ノ制裁ナリ抑モ假出獄ヲ許ス所以ノモノハ改悛ノ狀  
顯ハレタルヲ以テナリ然ルニ改悛セス却テ重罪輕罪ヲ犯ス者ナレハ

之ヲ取消シ仮出獄ノ日數ヲ刑期ニ算入セス如此スルモノハ即チ罪  
ヲ犯シタルノ制裁ニシテ又再犯スルコトナカラシメントスル警戒ノ  
一方法ナリ若シ此制裁ナキモハ本出獄ト仮出獄トノ區別ナキニ至  
ルヘシ然レモ少シク嚴ニ失スルノ點ナキ能ハス何トナレハ仮出獄  
中過テ火ヲ失シ他人ノ家屋ヲ燒毀スルカ如キ輕罪ヲ犯シタルモ  
仮出獄ヲ停止セラレ且仮出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサルニ因リ  
其刑期大ニ長キニ至ルヘケレハナリ故ニ惡意ニ出テ罪ヲ犯シタル  
モトセハ或ハ妥當ナランカ草按ニハ禁錮以上ノ罪ヲ犯シタルモト  
アレモ亦不可ナリ或ハ改悛ノ狀ナキモトセハ可ナランカ何トナレ  
ハ惡意アレハ必ス改悛ノ狀ナキモノナレハナリ

### 第五十七條

刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ

假出獄ヲ許サス

(第五十六條)(第五十七條)



仮出獄ヲ許サレサル前ト仮出獄中トヲ問ハス總テ刑期限内ニ在テ  
更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ仮出獄ヲ許サス是レ再犯人タレハ其  
狀重ク僅ニ獄則テ謹守シ其年限ヲ經過スルモ未タ以テ改悛ノ眞偽  
測リ難ケレハナリ然レモ亦前條ト同感ナキ能ハス夫ノ過失殺傷ノ  
場合ノ如キモ仮出獄ヲ許サストセハ少シク嚴ニ過キサルナキヲ得  
ン乎

我輩ハ今茲ニ假出獄ノ一節ヲ講シ終ルニ臨ミ曾テ二十一條ノ講義  
ニ於テ約シタルカ如ク免幽閉ト假出獄トノ比照ニ係ル問題ヲ決ス  
ヘシ

第一 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ニハ幽閉ヲ免スルヲ得  
得サルヤ此問題ニ付テハ少シモ疑ヲ容ル可キノ點ナシ刑期限内更  
ニ重罪輕罪ヲ犯ス者ノ如キハ其罪ノ性質ニ因リテハ明ラカニ悔悟

ナレ

改悛セサルヲ表スルモノナレハ行政官ニ於テハ自然之ニ幽閉ヲ  
免セサルナルヘシト雖モ這ハ其權ナクシテ然ルニ非ス只タ之ヲ不  
可ナリトスルカ故ニ爲サ、ルノミ、第二十一條ニ依レハ無期流刑ノ  
囚五年ヲ經過シ有期流刑ノ囚三年ヲ經過シタル以上ハ行政官ノ之  
ニ遇スルノ權ハ寔トニ大ナルモノニシテ其幽閉ヲ免スルト否トニ  
關シ毫モ他ノ法律規則ノ制ヲ受ケサルナリ

第二 免幽閉中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルモ其免幽閉ヲ停  
止スルヲ得ルヤ或曰ク假出獄ニ付テハ第五十六條ニ假出獄中更  
ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止ストアルカ故ニ之ヲ  
停止スルヲ得ルト雖モ免幽閉ニ付テハ斯クノ如キノ法條ナシ故  
ニ一旦之ヲ與ヘタル以上ハ假令ヒ更ニ如何ナル罪ヲ犯ストモ之ヲ  
停止スルヲ得サルナリ若シ此法條ナキモ尙ホ之ヲ停止シ得ルモ

(第五十七條)



ノトセハ假出獄モ明文ナクシテ之ヲ停止シ得ル筈ナルニ因リ第五十六條ヲ制定スルノ要ナキ筈ナリ、サレハ立法者カ此法條ヲ特ニ制定シタルニ就テ見ルモ正條ナキニ於テハ一旦與ヘタル免幽閉假出獄共之ヲ取消シ得サルヲ知ルヘキナリ、ト余ヲ以テ之ヲ觀レハ是レ法律ノ精神ヲ誤解シタルノ論ナリ、元來第二十一條ニ無期流刑ノ囚五年ヲ經過シ有期流刑ノ囚三年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免スルヲ得トアルハ固ト司法權ノ裁判ヲ以テ科シタル刑ハ其刑期ノ終ルマテ充分ニ執行スヘキハ勿論ナレトモ五年三年ヲ經過シタル以上ハ行政官ニ於テ其幽閉ヲ解クヲ得トノ意ニ過キスシテ此處分ヲ以テ決シテ刑ヲ消滅セシムルノ謂ニアラサルナリ、サレハ行政官ハ此幽閉ヲ或ハ解クアリ或ハ解カサルアリト雖モ要スルニ此刑ノ存スル限りハ之ヲ執行シ得ルハ勿論ナリトス是レ余

カ前論ヲ當ラストスルノ第一ナリ、又行政ノ處分ト稱スルモノハ臨時適宜ニ動クヲ以テ其本質ト爲スカ故ニ他ニ法律規則アリテ之ヲ制限セサル以上ハ隨意自由ニシテ場合ニ從テ相當ノ處置ヲ爲シ得ヘキモノトス故ニ此幽閉ヲ免スルト否ト一旦之ヲ免シテ又之ヲ止ムルト否トニ關シテモ時ニ臨テ宜シキヲ制スルノミ、サレハ此幽閉ヲ免セラレタル者ニシテ或ハ更ニ罪ヲ犯スカ或ハ罪ヲ犯スニ至ラスト雖モ他ニ國安ヲ妨害スル等ノ所爲アルニ於テハ此己レカ權ヲ以テ與ヘタル免幽閉ヲ取消シテ司法權ノ科シタル完全ノ刑ニ立戻リ之ヲ執行シ得ルハ勿論ナリトス、是レ余カ前論ヲ當ラストスルノ第二ナリ、又假出獄ニ關シ立法者カ第五十六條ニ於テ假出獄中更ニ罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止スト云ヒタルハ此制定ニ因リ行政官ニ出獄ヲ停止スルノ權ヲ與ヘントシタルニ非ス此權ハ前ニ



論スルカ如ク行政官ニ於テ既ニ之ヲ有セリ故ニ這ハ反對ニ行政處分ノ權ヲ狹隘ニシ制限スル爲メノ條ニシテ斯カル場合ニ於テハ行政官ハ出獄ヲ停止セサルヲ得サルト此場合ノ外ハ停止スルヲ得サルトト示シタルモノナリ尙ホ其次條即チ第五十七條ニ於テ刑期限内更ニ罪ヲ犯シタル者ハ仮令ヒ刑期四分ノ三以上ヲ經過スト雖モ行政ノ處分ヲ以テ假出獄ヲ與フルヲ得スト制限シタルト同一意ナリトス是レ余カ前論ヲ當ラストスルノ第三理由ナリ故ニ余ノ信スル所ニ依レハ免幽閉ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ與ヘタリト雖モ其後ニ當リ之ヲ不可トスルキハ常ニ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ取消シ得ルモノニシテ其更ニ罪ヲ犯シタルト否トニ關セサルナリ若シ之ニ反スルノ解ヲ與ヘントセハ行政處分ノ本質ヲ誤ルノミナラス假出獄ヲ得タル者更ニ罪ヲ犯セハ直チニ之ヲ停止シ免幽閉ヲ得タル

者ハ何如ナル罪ヲ犯スモ之ヲ取消シ得サルノ不權衡ヲ生ス可シ豈奇怪ナラスヤ

第三 免幽閉ヲ取消スルハ其出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサルヤ、此問題ハ既ニ辨シタルカ如ク被刑者ノ利益ニ從テ解セサル可カラサルハ論ヲ待タス何トナレハ行政官ニ於テ隨意ニ幽閉ヲ免シ又隨意ニ之ヲ取消シテ其免幽閉中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサラントスルハ決シテ能ハサルノ事ナレハナリ假出獄ニ於テ刑期ニ算入セサルヲ得ルハ這ハ律ニ正文アルヲ以テナリ

(第二十四回)

第七節 期滿免除

刑事期滿免除ニ二類アリ一チ刑ノ期滿免除ト云ヒ一チ公訴期滿免

(第五十七條)



除ト云フ期ノ期滿免除トハ所謂刑法ニ規定スル所ノ期滿免除是レナリ今簡單ニ之レカ定解ヲ與フレハ罪ヲ犯シテ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノ逃走スルカ若シクハ他ノ事故ヨリシテ刑ノ執行ヲ遯レ其之ヲ遯レタル時間法律ニ定メタル若干ノ期限ヲ經過スル時ハ全ク其刑ノ執行ヲ全免シテ復タ問ハサル之ヲ刑ノ期滿免除ト云フ然レモ單ニ刑ノ期滿免除ト云フモハ其意ヲ成サス故ニ刑ノ執行ノ期滿免除ト言ハ、當レリト謂フ可シ何トナレハ期滿ヲ免除スル所ノモノハ刑ニアラスシテ刑ノ執行ナレハナリ又期滿免除ヲ以テ刑ノ消滅スル一原因トナス者アレモ誤レリト云フヘシ何トナレハ本來消滅スル所ノモノハ刑ニ非ラスシテ刑ヲ執行スルノ權ナリ故ニ期滿免除ニ因テ刑消滅スト言フ能ハサルナリ

公訴期滿免除トハ治罪法ノ規定スル所ニシテ罪ヲ犯シ逃匿シタル

モノ法律ニ定メタル若干ノ年限ヲ經過シ公訴ノ權消滅スルニ因リ其公訴ヲ受クルチ免ル、者是レナリ此二者其管スル所夫レ如此同シカラス其期限モ亦異ナレリト雖モ其因テ起ル所以ノ理由ニ至テハ相異ナル所ナシ今先ツ其理由ヲ説明スルノ前ニ於テ民事ノ期滿免除ヲ略述セン我國未タ民法ノ規定ナク從テ民事期滿得免ノ制ナシト雖モ治罪法第十二條ニ公訴ニ付既ニ刑ノ言渡アリタル時ハ民法ニ定メタル期滿免除ノ例ニ從フトアルヲ以テ見レハ我立法者ハ早晚必ス之ヲ創定スルノ趣旨ナラン

民事期滿得免ニ二種アリ一ハ義務ヲ消滅セシムル者之ヲ期滿免除ト云ヒ其二ハ權理ヲ有セシムル者之ヲ期滿得有ト云フ例ハ負債主アリ債主ノ督促ヲ請ケズシテ法律ニ定メタル若干ノ年期ヲ經過スルモハ其義務消滅シ之ヲ盡スニ及ハスシテ其義務ヲ免ル、者即



チ期滿免除ナリ又例ハ人アリ他人ノ所有地ヲ占有シ法律ニ定メ  
 タル條件ヲ具備シ若干ノ年限ヲ經過スル時ハ自己ノ所有地トナリ  
 他人如何ナル證據ヲ提出スルモ之レガ所有權ヲ爭フヲ得ス是レ權  
 利ヲ得セシムルモノニシテ即チ期滿得有ナリ然ルニ刑事ニハ權利  
 ヲ消滅セシムル期滿免除アルノミニシテ權利ヲ得セシムル期滿得  
 有ナキハ明諒ノ一ナリ若シ之アリトセハ奇怪ナル結果ヲ生スヘシ  
 例ハ人アリ罪ヲ犯シタル一ナキニ冤枉ニ陷リ刑ノ執行ヲ受クル  
 一アランニ此執行ヲ受クル一數年ヲ經過シタルハ社會ハ是ニ因  
 テ刑ヲ執行スルノ權ヲ得有シ其罪ナキヲ知ルモ仍ホ其執行ヲ繼續  
 スル一ヲ得ルニ至ル可シ是レ豈ニ道理ノ許ス所ナランヤ彼ノ剝奪  
 公權停止公權ノ期滿免除ヲ得サルモ亦此理ニ因ルモノニシテ則チ  
 權利ヲ得ル期滿得有ナキカ故ニ犯者ノ一タヒ失フタル權ハ再ヒ得

ル能ハサルニ因レリ故ニ權利ヲ得セシムル期滿得有ハ刑事上決シ  
 テ之レアラサルナリ

以上述フル所ノモノハ期滿免除ノ正解ト其種類ナリ請フ是レヨリ  
 其由テ起ル所以ノ理ヲ講究セン或人說ヲ爲シテ曰ク罪ヲ犯シテ逃  
 走スル者及ヒ刑ノ宣告ヲ受ケテ其執行ヲ遁ル、者必スマ中心常ニ  
 戰々兢々トシテ日夜其就縛ヲ是レ苦慮シ一日モ安ニスルノ時ナク  
 而シテ其痛苦ヲ感スル數日ニ涉ルキハ現ニ刑ヲ受ケタルト同一般  
 ナリ故ニ更ニ公訴ヲ起シ又更ニ刑ヲ執行スルヲ要セス是レ其期滿  
 免除ノ制アル所以ナリト然レモ是レ必ズアル可キ刑ノ固有ノ性質  
 タル痛苦ト或ハアリ或ハナキ一ヲ得ル人ノ心中ノ痛苦トヲ比較ス  
 ル者ニシテ其比較マ業ニ已ニ誤レリ何トナレハ犯者ノ心中ニ必ス  
 痛苦ヲ感スルヤ否ヤハ期ス可ラス況ンヤ違警罪ヲ犯シタル者ノ如



キ假令之ヲ通ル、モ敢テ畏懼ノ心ナキノミナラス或ハ却テ人ニ誇示スルカ如キコアルニ於テチヤ立法者豈ニ此ノ如キ薄弱ナル理由ヲ以テ社會ノ刑罰權ヲ消滅スル一原因ヲ定ムルモノナランヤ  
學者又公訴期滿免除ノ理由ヲ與ヘテ曰ク公訴ニ係ル事件アリテ後チ久シキチ經ル時ハ有罪ノ證據又殊ニ無罪ノ證據紛失スルニ因リ不辜ヲ罰スルノ恐レアリトス是レ公訴期滿免除ヲ設クル所以ナリト蓋シ大ニ然ルモノアラン然レモ以テ我成文法ノ理由ト爲ストチ得ス何トナレハ檢證調書等ニ依リ犯罪ノ證據保存スル時ト雖モ免除ヲ得ヘキ者ハ必ス之ヲ得ルチ以テ我期滿免除ハ證據ノ如何ニ關セサルヤ明カテレハナリ  
然ラハ則チ期滿免除ノ理由果シテ如何ナルトラン氏曰ク立法者公訴及ヒ刑ノ期滿免除ヲ設クル所以ノ理ハ遠ク社會刑罰權ヨリ出

ツ凡ソ時日ハ事ヲ變化シ物ヲ消滅スルノ源ナリ時日ノ經過久シキニ涉ル時ハ人ノ記念力ヲ消滅ス時日已ニ人ノ記念力ヲ消滅スルモノナルキハ犯罪事件ノ記念ヲモ消滅セサルチ得ス若シ夫レ犯罪事件ノ記念既ニ消滅スル時ハ更ニ公訴ヲ繼續シ又ハ刑ヲ執行スルノ要何レニアルヤ既ニ其要ナシトセハ是レ社會ニ刑罰權ナキナリ抑モ社會ノ刑ヲ施ステ得ルハ所業道德ニ背キ且ツ社會ヲ害スルチ以テ之ニ刑ヲ加フルノ緊要アレハナリ然ルニ今此ニ社會ヲ害スルノ所業アリシト雖モ時日經過久シキニ因リ人ノ記念既ニ消滅シテ刑ヲ加フルノ緊要ナシ是レ刑罰權ヲ構成スル第二元素ヲ欠クモノナリ此時ニ當リ如何ソ更ニ公訴ヲ繼起シ又ハ刑ヲ執行スルチ得ンヤ是其刑事期滿免除ノ因テ起ル所以ナリト嗚呼又盡セリト云フ可シ採テ以テ我成文法ノ理由トスルハ蓋シ杜撰ニアラサル可キナリ



第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル  
期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

本條ハ法律上ニ期滿免除ノ規定アルヲ示シタルモノナリ即チ罪ヲ  
犯シ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ト雖モ其執行ヲ遁レ法律ニ定メタル期  
限ヲ經過スルモハ後チ假令捕ニ就クト雖モ免除シテ更ニ刑ヲ科セ  
サルコト示シタルモノニシテ權利ニ關スル緊要ノ條ナリ刑ノ執行  
ヲ遁ル、者其方法ノ如何ヲ問ハス或ハ逃走シテ遁ル、ト或ハ詐偽  
ヲ以テ遁ル、ト又官吏ノ遺忘ニ因リ或ハ偶然ニ因リ遁ル、等凡テ  
有形ノ執行ヲ要スル刑ニ關シ苟モ此執行ヲ遁レタル者ハ皆此ニ合  
蓄スルモノトス又法律ニ定メタル期限トハ則チ以下二條ニ定ムル  
所ノ年限ヲ云フ

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期徒刑ハ二十五年
- 三 有期徒刑ハ二十年
- 四 重懲役重禁獄ハ十五年
- 五 輕懲役輕禁獄ハ十年
- 六 禁錮罰金ハ七年
- 七 拘留料料ハ一年

本條ハ罪ノ種類ニ從テ年限ヲ定メタルモノニシテ其之レヲ定ムル  
ヤ理論ノ然ラシムル所ニアラス又性法アルニ非ス唯立法者ノ想見  
ヨリ成ルモノナリ故ニ拘留料料ノ期滿チ五年トナシ死刑ノ期滿チ  
五十年トナスモ其定ムル所ニ之レ因ルナリ而シテ各刑共ニ其年限  
異ニシテ一年ヨリ三十年ニ至ルノ區別アルハ犯罪大ニシテ刑重キ

(第五十九條)



者ハ人々之ヲ遺忘スルコト容易ナラス故ニ其年限長ク其罪小ニシテ  
 刑輕キ者ハ人ノ遺忘モ亦容易ナリ故ニ其年限短キモノナリ  
 本條ノ年限ヲ以テ公訴期滿免除ノ年限ニ比スルニ彼此年數遞減ノ  
 割合ニ於テ既ニ精麁ノ異ナルアリ之ニ加フルニ其年數モ亦概テ二  
 倍ニ過クルヲ看ル治罪法第十一條ニ曰公訴期滿免除ノ期限左ノ如  
 シ、一違警罪ハ六月二輕罪ハ三年三重罪ハ十年ト而シ又斯ク本條ノ  
 年數ト公訴期滿免除ノ年數ト正面ニ於テ異ナル耳ナラス公訴期滿  
 免除ハ檢察官ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若クハ公判ノ手續アリ  
 タルニ因リ期限ノ中斷ヲ爲シタルキ猶ホ右十一條ニ定メタル期限  
 ノ二倍ヲ超過スルコトヲ得スト雖モ刑ノ期滿免除期限ノ經過ニ至テ  
 ハ刑法第六十二條ニ從ヒ逮捕ノ令狀ヲ發シテ常ニ之ヲ中斷スルコ  
 トヲ得ルヲ以テ其幾數十年ニ至ルコトアル可キヤ知ル可ラサルナリ然

リ而シテ其此クノ如ク此ハ精ニ彼ハ粗ニ此ハ長ク彼ハ短キハ何ソ  
 ヤ蓋シ其理由ナキニ非ス犯罪一旦公判ニ係リ刑ノ宣告アリタル時  
 ハ事確乎トシテ明瞭ナルヲ以テ從テ人ノ之ヲ記憶スル久シキニ耐  
 ヲヘク且ツ刑定マルニ因リ其輕重ニ從ヒ細カニ人ノ之ヲ遺忘スル  
 ノ度ヲ斟酌スルヲ得ヘシ是レ刑ノ期滿免除期限ノ長クシテ且ツ精  
 シキ所以ナリ然ルニ犯罪未タ公ケニ刑ノ宣告ヲ受ケサルキハ事總  
 テ糺糊トシテ人之ヲ遺忘シ易ク又其何等ノ刑ニ該ル可キヤ知ルコ  
 トヲ得ヘカラス是レ公訴ノ期滿免除ハ短クシテ且ツ細カニ年限ヲ區  
 別セサル所以歟

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ  
 得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

(第六十條)



沒収ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

前條ハ主刑ノ期滿免除期限ヲ定メタリ本條ハ之ニ對シ附加刑ニ關シテ規定スル所ナリトス先ツ第一ニ剝奪公權ノ附加刑ヲ受ケタル者ハ幾數年間逃走シタルニモセヨ如何ナル事ヲ爲シタルニモセヨ期滿免除ニ因テ決シテ此刑ヲ免ル、能ハサルナリ而シテ其然ル所以ノモノハ何ソヤ請テ之ヲ辨セン

前ニ既ニ一言セシカ如ク期滿免除ニ因テ消滅スル所ノモノハ刑ノ執行權ナリ則チ死刑ニ處セラレタル者ニ關シテハ其生命ヲ絶チ又自由ヲ剝奪スルノ刑ニ處セラレタル者ニ關シテハ之ヲ拘禁服從スルカ如キ有形上ノ執行ヲ爲ス可キ時ニ當リ之ヲ執行セス此ヲ以テ此權消滅シ從テ被刑者免除セラル、ナリ然ルニ剝奪公權ノ刑ハ單

ニ法律ノ威權ヲ以テ犯者ノ權利ヲ剝奪シ無形的ノ裏ニ於テ終身無能力ノ者ト爲ス所ノ刑ニシテ毫モ有形上ノ執行ヲ要スルコトナシ故ニ人ノ耳目ニ觸ル、所ノ執行アルコトヲ得ス既ニ執行アルコトヲ得サル時ハ執行セサルノ理由ニ因テ此權消滅スルノ理アルヲ得ス又有ルコトヲ得サル所ノ執行ヲ遁ル、ト云フハ語意ヲ成サス數ノ許サ、ル所ナリ是其剝奪公權ハ期滿免除ヲ得サル所以ナリトス之ニ加ルニ公權ヲ剝奪セラレタル者刑ノ執行ヲ遁レタル場合ヲ強テ求メントセハ必スヤ此者族籍ヲ僞ハリ人ヲ欺キテ失ヒタル權利ヲ行ヒタル場合ヲ想像セサル可ラス從テ民法ニ於ルカ如ク刑事ニ於テモ亦權利ヲ得セシムル所ノ期滿免除ヲ想像セサル可ラサルナリ然レモ人ノ身分并ニ能力ハ期滿ニ因テ得又失フ可ラサル者タルハ法律ノ原則ナリ請フ一例ヲ舉ケテ之ヲ証セン例ハ爰ニ兒童ア

(第六十條)



リ若干年間某家ニ給仕シ兒童常ニ家主ノ恩愛ニ馴レ平居父ト呼ヒ又子ト呼ハル、一爰ニ年アリ之ヲ以テ期滿得有ニヨリ兒童ハ子タルノ權ヲ得テ子トナリ家主ハ父タル權ヲ得テ父トナルモノトセンカ豈ニ此ノ如キ理アラフヤ

停止公權ノ期滿免除ヲ得サルノ理ハ前論スル所ニ毫モ異ナルコトナシ然レハ剝奪公權ハ無期刑ニシテ停止公權ハ有期刑ナルカ故ニ結果常ニ同シカラス此ヲ以テ或ハ疑問ヲ發シテ論駁ヲ試ミノトスル者ナキニ非ス今則チ數言ヲ費シテ之ヲ明カニセン

或以爲ラク停止公權ハ禁錮ニ處セラレタル者ニ對シ其刑期間公權ヲ行フコト停止シタル者ナリ既ニ刑期間トアリ然レハ停止公權ハ常ニ禁錮ト運命ヲ共ニスル者ニシテ禁錮終レハ從テ終リ禁錮ノ刑期滿免除ヲ得レハ從テ之ヲ得ルモノトス又假令ヒ此場合ニ於テハ

期滿免除ヲ得ル者ハ禁錮ノミニシテ停止公權ノ之ヲ得ルニ非ストスルモ畢竟此刑ハ常ニ禁錮ト進退スル者ナレハ茲ニ期滿免除ヲ得スト明言スルノ要ナシ故ニ第六十條ノ第五字以下四字ハ蛇足ナリト誤ルト云フ可シ抑モ我第六十條第一項ハ法理ノ元則チ舉テ停止公權ハ剝奪公權ト同ク有形ノ執行ヲ要セサル刑ニ係ルヲ以テ理正サニ期滿免除ヲ許サ、ルヲ示シタルモノナリ、若シ停止公權ノコトハ之ヲ明言セサルモ明ナリト云フノ點ヨリ推スルハ剝奪公權及ヒ監視ノコトモ明言ヲ要セサルニ非スヤ何トナレハ此等ノ刑ハ期滿免除ヲ得ルモノト信スルモ法律ニ其期限ヲ明記セサルニ因リ到底適用スルコトハ能ハサルコトナレハナリ

監視ハ期滿免除ヲ得ス、今之ヲ理論ニ照ラスニ監視ノ刑ハ其性質ヨリシテ期滿免除ヲ得サルノ刑ナリ而シテ其然ル所以ハ則チ剝奪公



權ト同ク有形上ノ執行ヲ要セサルノ刑ナレハナリ則チ單ニ法律ノ威權ヲ以テ犯者ノ權利ヲ拘束シ無形的ノ裏ニ於テ人間固有ノ能力ヲ停止スル所ノ刑ナレハナリ然ルニ學者屢監視規則ノ爲メニ制セラレテ此性質ヲ定ムルニ苦ム是レ其明カニセサル可ラサルノ點ナリトス

我輩既ニ論シタルカ如ク刑ハ之チ大別シテ三種トス身體ニ及フノ刑、權利ニ及フノ刑、心ニ及フノ刑是ナリ而シテ又之チ區別シテ身體ニ及フノ刑ハ生命ヲ剝奪スルニ係ルノ刑、自由ヲ剝奪スルニ係ルノ刑ノ二種、權利ニ及フノ刑ハ財産ニ關スル權利ニ及フノ刑、身分能力ニ關スル權利ニ及フノ刑ノ二種トス、然ルニ彼ノ監視ハ固ヨリ生命ニ及フノ刑ニアラス又彼ノ流刑、懲役、禁錮ノ類ノ如ク人ノ身体ノ自由ヲ束縛スルノ刑ニアラス又罰金、沒收ノ如ク財産ニ關スル權利ニ

及フノ刑ニアラス即チ監視ト其名ノ指スカ如ク警察官ヲシテ犯者ノ行狀ヲ監視シムル者ニシテ彼ノ隨意ニ活動シテ毫モ彼ノ干涉牽制ヲ受ケサル人間固有ノ活動ノ能力ヲ拘束スルノ刑タリ然ラハ則チ監視ハ身分能力ニ關スル權利ニ及フノ刑ニ屬スルヤ明カナリ、既ニ身分能力ニ關スル權利ニ及フノ刑タルモハ其所謂ル執行ハ無形的ノ裏ニ在テ有形的ノ執行ヲ要セホルヤ又明カナリ何トナレハ凡ソ權利ニ及フノ刑ハ皆テ是レ法律ノ全權ヲ以テ本來無形物ナル權利能力ト名ツクル者ヲ無形的ニ剝奪拘束スルニ因リ有形ノ執行アルノ理ナケレハナリ既ニ有形ノ執行ナキモハ之チ遁ル、ノ理アルヲ得ス是其監視ハ剝奪公權ト同一ノ理由ニ基キ理論上期滿免除ヲ得サル所以ナリ、人或ハ刑法附則中監視規則ニ載スル所ヲ以テ監視ノ執行ナリト信スルハ誤ルト云フ可シ同規則ニ載スル所ノ許可ナ

(第六十條)



クシテ轉居スルヲ得サル如キ旅券ナクシテ旅行スルヲ能ハサル如キハ止タ是レ監視ノ無形ノ執行ヨリ出タル結果即チ隨意活動ノ能力ヲ拘束スルヨリ出ル所ノ結果ヲ制規シタル行政ノ規則ニシテ猶ホ公撰規則ニ剝奪公權ノ刑ヲ受ケタル者ハ撰舉人タルヲ得スト載スルカ如キト一般ナリ決シテ該刑ノ執行ト云フ可ラサルナリ故ニ監視ヲ受ケタル者旅券ナクシテ旅行スルカ如キハ是レ監視規則ニ違背シタル者ト云フ可クシテ監視ノ執行ヲ違レタリト云フ可カラズ猶ホ公權ヲ剝奪セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタルト云フ可カラ行ヲ違レタリト云フ能ハサルカ如シ是等ハ皆テ是レ其有セサル權利ヲ行ヒタルナリ

以上論スル所ニ因レハ監視ノ刑ハ其性質ヨリシテ期滿免除ヲ得サルノ刑ナリ然レモコハ是レ余カ理論ト認ムル一家ノ私説ナリ且ツ

採テ以テ我成文法ノ理由ト爲ス能ハサルノ感アリ、我刑法起草者ハ業既ニ監視ヲ以テ期滿免除ヲ得ル者トセリ、故ニ審查修正案ニ至テ初メテ現行ノ案ニ歸シタリト雖モ監視ヲ以テ期滿免除ヲ得ルノ刑ナリト認メタルノ精神ハ常ニ存シタルカ如ク從テ現行法ニ於テ期滿免除ヲ得スト爲シタルノ理由ハ監視ノ性質ヨリ出ルニ非スシテ他ニ基ク所アルカ如シ、蓋シ或ハ監視ノ刑タル主トシテ再犯ヲ豫防シタル者ナルニヨリ若シ之ヲシテ期滿免除ヲ得ル者トセハ其効果甚タ薄弱ニ歸スルヲ以テ歟、又或ハ監視規則ニ違背スルノ時間久ニ涉ルニ因リ期滿免除ヲ得ルモノトセハ遂ニ監視ヲ設クルノ目的ヲ達スル能ハサルヲ以テ歟、若シ果シテ監視ノ期滿免除ヲ得サルノ理由是等ノ點ヨリ出テタリトセハ其結果ニ於テ余カ理論ト認タルノ説ト大ニ異ナラサルヲ得ス則チ是レ監視規則ヲ以テ其執行方法ト



見做スニヨリ監視中逃走シタル者ハ其逃走中ノ日數ヲ期限ニ算入  
 スルヲ得ス然ルニ余カ所謂ル監視ハ其性質ヨリシテ期滿免除ヲ得  
 スト爲シタルノ説ニ從ハ監視ノ執行ハ無形ニシテ自然ニ之ヲ通  
 レ得サル者ナルニ因リ監視規則ニ違背シテ隨意ニ旅行シタル者ハ  
 其制裁刑法第百五十五條ヲ以テ罰スルニ止マリテ旅行中ノ時間ハ  
 刑期ニ算入ス可キ者タリ然リ而シテ余ハ今成文法ヲ解スルニ當リ  
 余カ理論ト認ムルノ説ニ從フ能ハサルナリ

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得ルモノハ蓋シ主附相共ニ消  
 長スルハ理ノ定數ナルヲ以テ歟他ニ理由ノ存スルアルヲ見サルナ  
 リ而シテ此刑ハ是レ輕罪ノ刑ニシテ常ニ禁錮ニ附加スル者タレハ  
 主刑ト共ニ期滿免除ヲ得トハ猶其附屬スル禁錮ト共ニ期滿免除ヲ  
 得ト云フカ如ク又禁錮期滿免除ノ期限ハ主刑罰金ト等シキヲ以テ

附加ノ罰金ハ主刑罰金ノ期滿免除ニ同シト云フト一般ナリトス然  
 レモ止タ一點ノ主刑罰金ニ異ナルアリ第六十一條ニ於テ説明ス可  
 シ沒收ハ重罪輕罪違警罪ニ通スルノ附加刑ナリ故ニ若シ主刑ト共  
 ニ期滿免除ヲ得ルモノトセハ其期限或ハ三十年ニ至ルヲ得テ其  
 刑ノ輕小ナル性質ニ適合セサルカ如シ是ヲ以テ我立法者ハ其中庸  
 ナ取り五年ト定メタルモノ歟只其解シ得サルノ點ハ拘留料料ニ附  
 加スル沒收ノ期滿免除期限ナリトス主刑ハ早ク既ニ一年ヲ經テ免  
 除セラレテ附加刑ハ却テ五年ニ至ル是ナリ元來違警罪ニ就テ沒收  
 ナ宣告スルコトハ實際極メテ稀ナル可シト雖モ亦其決シテ無キヲ保  
 シ難シ然ラハ則チ此奇ナル結果ヲ現出スル場合ナシト云フ可ラサ  
 ルナリ

爰ニ本條ヲ講シ終ルニ臨テ一言ス可キアリ本條ハ尽ク附加刑ヲ列



舉シテ其期滿免除ヲ得ル者ト得サル者ト且其期限トヲ定メテ言特  
リ禁治産ニ及ハス蓋シ禁治産ハ重罪ノ附加刑ニシテ主刑ト共ニ進  
退スルニ因リ此ニ之ヲ明言スルヲ要セサルヲ以テ歟然レモ主刑ト  
共ニ進退スルノ理由ニ基キテ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得ル者ト見做  
ス可カラス何トナレハ禁治産ハ疑モナク權利ニ及フノ刑ナリ故ニ  
其性質ヨリシテ剝奪公權停止公權ト同ク期滿免除ヲ得サルノ刑ナ  
レハナリ

(第二十一回)

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ  
起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ  
日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ

逃

起算ス

本條ハ下條ト共ニ期滿免除年限起算ノ日ヲ定メタルモノナリ若シ  
之レカ定メナキ時ハ其三十年ト云ヒ二十年ト云フモ何レノ日ヨリ  
始マリ何レノ日ニ終ルヤヲ知ルニ由ナシ以テ本條ノ緊要ナル知ル  
ヘキナリ

期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算スルモノハ其之ヲ設ケ  
タル所以ノ旨趣ヨリ自然ニ出ツ則チ期滿免除ヲ得ルハ刑ノ宣告ヲ  
受ケタル者實際其執行ヲ遁ルハ久シキニ因リ人之ヲ遺忘シテ又  
新タニ刑ヲ執行スルノ要ナキニ因テナリ然ラハ則チ人之ヲ遺忘ス  
ルノ度ハ未タ遁レサル前ヨリ算スル能ハス又遁レタル日ヨリ次第  
ニ遺忘スル者ニシテ數日後ニ至テ急ニ遺忘ヲ起スニアラス故ニ期  
滿免除ノ年限ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス可キヤ明カナリ、

(第六十一條)



而シテ刑ノ執行ヲ遁ル、トハ前ニ屢述タルカ如ク有形ノ執行ヲ遁ル、ノ謂ニシテ死刑ニ關シテハ被刑者逃走スルカ又ハ他ノ理由ヨリシテ生命ヲ絶タレサルナリ徒刑流刑其他自由ヲ剝奪スルノ刑ニ關シテハ逃走又ハ他ノ理由ニヨリ獄舍外ニ在ル是ナリ其役ニ服スヘキ者偶々役ニ服セサルヲ以テ遁レタリト云フ可ラス、又罰金沒收ニ關シテハ裁判既ニ確定シテ徵收ス可キノ時ニ當リ徵收セラレサル是ナリ一旦逃走シテ刑ノ執行ヲ遁レタル者捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其新ニ逃走シタル日ヨリ起算スルハ何ソヤ是モ亦期滿免除ヲ立タル元則ヨリ出ツ本來期滿免除ヲ得ルニハ刑ノ執行ヲ遁レタル者捕縛セラル、コナク人之ヲ遺忘シテ平易ニ法律ニ定メタル年限ヲ經過スルコトヲ要ス、然ルニ未タ此年限ヲ經過セサルノ前ニ於テ捕ニ就キタル時ハ是レ遺忘未タ完カラサルニ當テ却テ其遺忘ヲ消滅セシ

メタルナリ故ニ期滿免除ヲ得ルニハ又新タニ逃走シテ人ノ遺忘ヲ起サ、ル可ラス是レ其前逃走中ノ經過ハ無効ニ歸シテ更ニ再逃走ノ日ヨリ起算スル所以ナリ

右再逃走ノ日ヨリ起算スルノ法ニ關シ主刑ノ罰金ト死刑トニ就キ一二辨明ヲ要スルモノアリ、先ツ罰金ノ期滿免除ニハ右ノ起算法ヲ適用スルノ理アルコトヲ得サルモノトス何トナレハ罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル以上ハ格別ナレト然ラサルモハ假令ヒ踪跡ヲ失シタリトモ逃走ト云フコトヲ得サレハナリ、故ニ我刑法ニ於テ罰金ニ關シテハ其期滿免除期限ノ經過ヲ中斷スルノ方法ナシ從テ裁判確定ノ日即チ徵收スルコトヲ得ヘキノ日ヨリ七年ヲ經過スレハ罰金ハ必ス免除ニ歸スルモノトス、又是ヨリシテ主刑罰金ト附加刑罰金ノ期滿免除ノ期限ニ大ナル差異ヲ生ス即チ主刑ノ罰金ハ右ノ如ク必ス七年ヲ以



テ期滿免除ヲ得ルト雖モ附加ノ罰金ハ主刑ノ禁錮ト共ニ期滿免除  
 スルニ因リ屢中斷セラレテ其期限大ニ長キニ至ルコトアルナリ  
 又死刑ニ關シテ一言ス可キアリトハ死刑期滿免除年限ノ經過モ若  
 シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算ス可キヤ否ヤチ  
 定ムルコト是ナリ、我第六十一條ハ期滿免除期限ノ第一ノ起算法ヲ定  
 メテ曰ク刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算スト而シテ死刑ノ執行ハ  
 刑法第十二條ニ死刑ハ絞首ストアレハ則チ絞首シテ生命ヲ絶ツコ  
 ナリ、故ニ此絞首ス可キノ點既ニ定マリテ之ヲ行ハサル限リハ其獄  
 中ニ在ルト逃走シテ外ニアルトチ問ハス皆チ刑ノ執行ヲ遁レタル  
 ナリ故ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者獄中ニアリテ偶チ行刑者ノ遺忘ニ  
 因リ又ハ被刑者偽計ヲ構ヘテ其執行ヲ遁ル、コトアランニ此獄中ニ在  
 ルノ一事ハ期滿免除期限ノ經過ヲ妨ケス從テ其起算ノ點ハ絞首チ

行ヒ得シ日ニアル可キヤ疑チ容レサルナリ又若シ既ニ獄中ニ在リ  
 チ執行ヲ遁レタルコト數日ニシテ更ニ逃走スルコトアランニ此場合ニ  
 於テモ逃走ニ因テ初メテ執行ヲ遁レタルニ非ス其執行ヲ遁シタル  
 ハ現ニ絞首チ受ケサルニアルチ以テ前ト同ク絞首チ行ヒ得シ日ヨ  
 リ起算スヘキヤ又疑チ容レサルナリ、然ルニ若シ捕ニ就キ再ヒ逃走  
 シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算ス可キヤ如何ノ、余初メ以爲ラク其  
 再逃走ヨリ起算スルノ法ハ之ヲ死刑ノ期滿免除ニ適用ス可カラズ  
 ト蓋シ其故ナキニアラス、本來徒刑禁錮禁錮ノ類ノ如キ自由チ奪フ  
 ノ刑ニ係ルキハ捕ニ就クノ一事能ク期滿免除期限ノ經過チ中斷ス  
 ルハ何ソヤ捕ニ就クノ事實ハ現ニ自由チ奪フニ因リ刑ノ執行ト認  
 ムルコトヲ得ヘキチ以テナリ、然ルニ彼ノ死刑ノ執行ナルモノハ一ニ  
 絞首スルニアルニ因リ捕ニ就クチ以テ之カ執行ナリト認ムルチ得

(第六十一條)



サルヘシ既ニ執行ナリト認ムルヲ得サルキハ此捕ニ就キタルハ  
 期滿免除ノ經過ヲ中斷スルノ効アルヲ得サルヘシ、今捕ニ就キタル  
 ハ畢竟スル所逃走前ノ位置ニ復シタルノミ逃走前ノ位置既ニ期限  
 ノ經過ヲ妨ケスシテ而シテ此位置ニ復シタルノ事實獨リ此經過ヲ  
 妨ケ之ヲ中斷スルノ理アラサルナリ、故ニ就捕ノ事實ハ死刑期滿免  
 除期限ノ經過ヲ中斷スル能ハサルナリ、既ニ就捕ノ事實期限ノ經過  
 ヲ中斷スル能ハサル時ハ此期滿免除ハ初メ絞首ヲ行ヒ得シ日ニ算  
 ヲ起シタル以來連續シテ依然ト經過スルニ因リ再ヒ逃走シタルキ  
 ト雖モ其逃走ノ日ヨリ起算スルノ理ナキヤ辨テ待タスシテ明カナ  
 リ則チ捕ニ就クモ就カサルモ再ヒ逃走スルモセサルモ起算ハ常ニ  
 絞首ヲ行ヒ得シ日ニアルヲ以テ新タニ算ヲ起スノ理ナケレハナリ、  
 若シ之ニ反シ再ヒ逃走シタルキハ其逃走ノ日ヨリ起算スルモノト

セハ我第六十一條ヲ解スルニ當テ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者初メテ  
 逃走セハ其逃走ノ日ヨリ起算セスシテ刑ノ執行ヲ遁レタル日即チ  
 絞首ヲ行ヒ得シ日ヨリ起算シ再ヒ逃走セハ單ニ逃走ノ日ヨリ起算  
 スト云フカ如キ前後相貫カサルノ解ヲ與フルニ至ラン、是レ余カ囊  
 キニ再逃走ヨリ起算スルノ法ハ之ヲ死刑ノ期滿免除ニ適用シ得サ  
 ルモノト思考セシ所以ナリ

然リト雖モ又一步ヲ進メテ思考スレハ我成文法ヲ解スルニ當テハ  
 右ノ論法ニ依ル能ハサルモノアリ、我刑法第六十二條ニ曰ク刑ハ、  
 行、テ、遣、レ、タル、者、ニ、對、シ、逮、捕、ヲ、命、シ、タル、時、ハ、最、終、ノ、令、狀、ヲ、出、シ、タル、  
 日ヨリ期滿免除ヲ起算スト然ラハ則チ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ト  
 他ノ刑ヲ受ケタル者トヲ分タス逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發シ  
 タル時ハ此一事能ク期滿免除期限ノ經過ヲ中斷スルナリ、既ニ令狀



ヲ發シタルノ一事猶ホ能ク死刑期滿免除ノ經過ヲ中斷スルヲ得ル  
 其ハ捕ニ就キタルノ事實此經過ヲ中斷スル能ハサルノ理ナシ、既ニ  
 捕ニ就キタルノ事實能ク中斷スルヲ得ルハ再ヒ逃走スルニ當リ  
 其逃走ノ日ヨリ新タニ起算ス可キヤ疑ヲ容レサルナリ、故ニ死刑期  
 滿免除ノ起算ニ關シ我成文法ヲ解スルノ法蓋シ左ノ如クナル可シ、  
 初メテ逃走シタル時ハ逃走ノ日ヨリセスシテ絞首ヲ行フヘカリシ  
 ノ日ヨリ起算シ若シ捕ニ就キ再ヒ逃走セサルハ捕ニ就キタルノ  
 日ヨリ起算シ再ヒ逃走シタルハ其逃走ノ日ヨリ起算スル是ナリ、  
 闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算スト闕席裁判トハ通常ノ  
 對審裁判ニ反スルモノニシテ成規ノ程式規則ヲ履行シタル後治罪  
 法第三百三十一條第三百五十四條等ニ從ヒ被告人ノ訟廷ニ出頭セ  
 サルニ拘ハラス與フル所ノ裁判ナリ、而シテ此裁判ニ係ル時ハ期滿

免除期限ノ經過ヲ其宣告ノ日ヨリ起算スルハ何ソヤ、此裁判ハ期滿  
 免除ナキ以上ハ何時ニテモ上訴スルヲ得ル者ニシテ常ニ不確定ノ  
 者タリ從テ刑ノ執行ヲ道レタリト云フノ場合アルヲ得サルヘク又  
 再逃走アルヲ得サルヘシ、サレハ裁判宣告ノ日ヲ除クノ外他ニ算ヲ  
 起ス可キノ點ナキヲ以テナリ

此闕席裁判ハ被告ニ辯護ナキ裁判ナルヲ以テ其効薄弱不完全ナリ  
 是ヲ以テ治罪法ニ於テ何時ニテモ故障控訴上告ヲ許シ常ニ確定セ  
 サラシム然ルニ此裁判ニ係ル刑ヲシテ期滿免除ヲ得セシムルハ是  
 レ未タ確定セサル刑ヲシテ期滿免除ニ至ラシムルモノナリ又治罪  
 法ニヨレハ刑ノ期滿免除ニ至ル期限間ハ故障控訴上告ヲナスヲ  
 許スト雖モ其後ハ之ヲ許サス是レ期滿免除ヲ得セシメテ此辯護ナ  
 キ裁判ヲ確定セシムルナリ故ニ奇怪ナル結果ヲ生スヘシ例ハ闕

(第六十一條)



席裁判ニ因テ死刑ノ宣告ヲナセリ然ルニ被告人ハ外國ニアルカ又ハ他ノ事故ニテ之ヲ知ラス三十年ヲ經過シ既ニ期滿免除ヲ得タル後チ之ヲ知リタル者アリトセンニ此場合ニ於テハ期滿免除ニヨリ假令死刑ノ執行ナキモ之カ爲メ最早故障ヲ述フル能ハサルヲ以テ剝奪公權トナリ終身公權ヲ行フヲ得サルニ至ルヘシ元來期滿免除ハ刑ノ執行ヲ免スルモノナルニ此場合ハ却テ刑ヲ生スル奇怪ナル結果ヲ來スニ至ルナリ故ニ闕席裁判ニ係ル刑ヲシテ期滿免除ヲ得セシムルニ付テハ佛國ニ於テモ大ニ議論アル所ナリ姑ク疑ヲ存シテ後日ヲ俟ツ

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命

シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

前條ハ逃走シタル者捕ニ就キタル時ハ此就捕ノ事件期滿免除ヲ中斷シ既ニ經過シタル部分ヲ無効ニ歸セシムルヲ定メタリシカ本條ハ此場合ニ尙ホ一步ヲ進メ假令ヒ捕ニ就カスト雖モ只逮捕ノ令狀ヲ出シタルノ一事能ク期滿免除期限ノ經過ヲ中斷スルヲ定メタルモノナリ而シテ其理由ニ至テハ前條ト異ナルヲナシ則チ官ニ於テ令狀ヲ發スルヲ見レハ社會ノ犯罪ヲ遺忘セサルヤ明カナレハナリ

本條ハ刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ云々トアルヲ見レハ其死刑ノ執行ヲ遁レタルト他ノ体刑ノ執行ヲ遁レタルトヲ區別セサルヤ明カナリ又最終ノ令狀トハ屢々令狀ヲ發スルヲアラフニ各自其効ヲ生シ經過ヲ中斷スルニ因リ唯、最終ノ者ノミ中斷ヲ受ケスシテ期滿免除ヲ經過セシムルヲ得ルヲ以テナリ

(第六十二條)



令狀ヲ出シタル日ヨリト、此刑法頒布ノ際ハ此令狀ヲ出スハ何人ノ職務ニ係ルヤ判然セサリキ本來刑ノ執行ヲ通ル、者ハ其通ル、ノ一事概テ一箇ノ犯罪ヲ成シ從テ公訴權ヲ生スルニ因リ之ヲ管轄スル裁判官ハ必ス逮捕ノ令狀ヲ發スルナル可シト雖此令狀ハ公訴權ヨリ來タル者ニシテ逮捕シテ刑ヲ執行セントスルヨリ出ル所ノ者ニ非ス故ニ本條ニ所謂ル逮捕狀ハ右ノ令狀ト其性質ヲ異ニスルヤ明カナリ、然レ其之ヲ出スハ何官ノ職務ニ係ルヤ明カナラサリキ此ニ於テ明治十四年十二月廿八日司法省丙第二十号ヲ以テ左ノ達アリタリ

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

我刑法ノ期滿免除ハ或ハ右處分ノ爲メ有名無實ニ歸スルノ疑ナキ能ハス何トナレハ治罪法第十四條二項ニ公訴期滿免除ノ中斷ハ其期限ノ二倍ヲ超過スヘカラストアレハ刑法ニハ此制限ナキヲ以テ幾十年ノ後ニ至ルモ令狀ヲ發シテ其期限ノ經過ヲ中斷スルコトヲ得ヘシ殊ニ檢察官ハ令狀ヲ發セサルキハ怠職ノ責アルヲ以テ其令狀ヲ發スルニ常ニ怠ラサルヘシ、之ヲ實際上ニ顧ルニ頒布以來日尙淺キヲ以テ期滿免除ノ場合ヲ生セサレハ果シテ生スル日ニ至ラハ或ハ恐ル右ノ結果ヲ生スルアラシキヲ

### 第八節 復權

復權トハ刑ニ因テ失フタル權ヲ回復スルヲ云フ我國ハ古來刑ニ因リ權利ヲ奪フコトナカリシヲ以テ亦復權ノコトナシ此刑法ニ之ヲ設ケタルハ泰西ノ法律ニ倣フタルモノナリ

(第六十二條)



重罪ヲ犯シタル者ハ終身公權ヲ奪フテ再ヒ我々人類ニ齒スルヲ許  
カストセハ犯者何ノ望ム所アリテカ過テ改メ善ニ遷ルノ冀望心ヲ  
發スルアラシム之ヲ獎勵スルニハ宜シク前途ノ望ミヲ開キ犯者其  
人ト雖モ苟モ過テ悔ヒ善ニ遷リ能ク行狀方正ニ赴クキハ良民タル  
ヲ得セシメサルヘカラス是其復權ノ設ケアル所以ナリ是又復權  
ノ制假出獄ノ共ニ古今ノ良法タル所以ナリ

第六十三條

公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リ

タル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來  
ノ公權ヲ復スルヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨ  
リ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

本條ノ初メニ於テ公權ヲ剝奪セラレタル者ハトアリ故ニ復權ノ法  
ハ剝奪公權ノ刑ヲ受ケタル者ノミニ該當シテ之ヲ他ノ刑ヲ受ケタ  
ル者ハ適用セサルヲ知ル可シ而シテ其然ル所以ハ剝奪公權ノ刑ハ  
無期ニシテ主刑ノ終リタル後猶存スルニ因リ復權ヲ至要トスト雖  
モ他ノ權利ニ及フノ刑停止公權禁治産ノ如キニ至テハ主刑ト共ニ  
進退スルニ因リ之ヲ要スル理ノナケレハナリ

本條ノ正文ニ依レハ復權ヲ得ルニハ左ノ三件ヲ要ス〇一 主刑ノ  
終リタルヲ〇二 主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルヲ〇三  
復權ヲ得ヘキ情狀アルヲ

第一主刑ノ終リタルヲ主刑ハ種々ノ原因ヨリ終ルヲ得ヘシト雖モ  
茲ニ所謂主刑ノ終ルトハ有期ノ刑ニ關シテハ其刑期間刑ヲ執行  
シ盡シタル場合ト特赦ヲ得タル場合トナ云ヒ無期ノ刑ト死刑トニ

(第六十三條)



關シテハ特赦ヲ得タル場合ヲ云フ、本來特赦ニ因テ死刑ノ執行ヲ免レタル者ヲ主刑ノ終リタルノ數語ノ中ニ含蓄セシムルハ妥當ナラサルカ如シト雖モ若シ此ノ如ク解釋セサレハ特赦ニ因テ死刑ヲ免セラレタル者ハ終ニ復權ヲ得ルノ期ナキニ至ラントス若シ果シテ然ラハ死刑ノ期滿免除ヲ得タル者若クハ特赦ニ因リ死刑ヲ減等セラレテ他ノ刑ニ服シタル者ハ復權ヲ得テ却テ單ニ特赦ニ因リ死刑ヲ免セラレタル者ノミ之ヲ得ル能ハサラントス亦奇ナラスヤ是レ余カ死刑ノ特赦ヲ得タル者モ主刑ノ終リタルニ算シテ解釋スル所以ナリ

假出獄免幽閉ヲ以テ主刑ノ終リタルト爲ス可キヤ如何ン若シ主刑ノ終リタル者ト認ムルヲ得ストセハ無期徒刑ニ處セラレタル者ハ假出獄ヲ得、無期徒刑ニ處セラレタル者ハ免幽閉ヲ得ルモ復權ヲ

希望スルヲ得サルニ因リ從テ奇ナル結果ヲ生シ來ラン、則チ或ハ獄舎ヲ毀壞シ又ハ獄吏ヲ脅迫シテ逃走シ或ハ其他偽詐ノ方法ヲ以テ苟クモ執行ヲ遁レ死刑若クハ無期徒刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ復權ヲ得ルヲ得ルノ地位ニアリテ而シテ却テ能ク獄則ヲ遵守シ無期徒刑ノ假出獄又ハ免幽閉ヲ得ルニ至ルヲ得シ者ハ復權ヲ得サルト是ナリ、然レモ我輩ハ假出獄免幽閉ヲ以テ主刑ノ終リタル者ト認ムル能ハスト言ハントス何トナレハ假出獄免幽閉其文字ノ既ニ此意ヲ明示スル耳ナラス刑法第二十一條第五十四條特ニ第五十六條等ヲ見レハ刑ヲ終ラシムルニ非サルヤ明カナレハナリ、故ニ無期徒刑ノ復權ヲ希望スルヲ得サルカ如キハ悲ム可キカ如シト雖モ又如何トモスルヲテシ今ハ止タ特赦ノ一法ノ之ヲ補フアルノミナリ

第二主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルヲ此ニ五年トアルモノ

(第六十三條)



ハ別ニ大ナル理由ノ存シテ然ルニ非ス或ハ七年タルヲモ得ヘク或ハ三年タルヲモ得ヘシ要スルニ立法者ノ定ムル所ニ係ル然ルニ其幾何クカ年限ヲ要スルハ何ソヤ是レ若シ此年限ナキハ主刑ノ終リタル日ヨリ初メテ其効果ヲ現ハス可キ剝奪公權ハ遂ニ空物トナルニ至ル可ク且ツ公權ヲ復スルモ危険ナキノ點ヲ證スルニハ必ス自由ヲ得タル後チノ若干年間ノ行狀ヲ要スレハナリ

第三復權ヲ得ヘキ情狀アルコト此第三ノ條件ハ本來不定ノ者ニシテ豫メ此ニ之ヲ辨明スルコトヲ得ス犯罪ヨリ生シタル損害ヲ賠償シ裁判費用ヲ辨濟シ住所生計明瞭ナル等重モニ被刑者ノ品行ニ係ル者ニシテ又時トシテハ時勢ニモ關スルコトアル可シ即チ彼ノ時此人ニ此權ヲ有セシメテ危険ニシテ此時此人ニ此權ヲ與フルモ害ナキヲ得ルアルアラシ又情狀ハ其物自ラ不定ナルノミナラス人ノ之ヲ認

ムルノ點ニ至テモ亦不定ナリ即チ一方ノ人ハ充分ナル情狀アリトセシニ他ノ一方ノ人ハ之ナシトスルアラシ然レモ理論ニ從テ之ヲ概言スレハ既往ニ對シテハ法律ト社會トヲ満足セシメ將來ニ向テハ社會ニ對シ之ニ公權ヲ復スルモ危険ナキヲ保證スルノ點ニアラハ是レ蓋シ復權ヲ許可スヘキ情狀ナラシ歟

以上三條件ヲ具備スルキハ公權ヲ復スルコトヲ得如何ナル公權ヲ復スルヲ得ルヤ曰將來ハ公權ヲ復スルコトヲ得故ニ既往ニ溯リテ公權ヲ復スルコトヲ得ルニ非スシテ將來ニ向テ嘗テ處刑ニ因リテ失ヒタル權ヲ復スルナリ嘗テ失ヒタル權ヲ復ス故ニ嘗テ勳章年金位記貴號恩給ヲ有シタリシ者ハ又將來ニ向テ之ヲ有スルコトヲ得ヘシ或ハ曰ク勳章年金位記恩給ノ如キハ我國ノ人民生レナカラ之ヲ得ルモノニ非ス時ニ我政府ヨリ賜フ所ノ恩典ナリ故ニ一旦之ヲ失フヤ又



新タニ賜フノ命アルニ非レハ之ヲ得ルノ理ナシ故ニ復權ノ一般ノ  
 効果ニ因テ此權ヲ復スルコトヲ得ス若シ之ヲ得ルモノトセハ嘗テ官  
 吏タリシ者ハ復權ニ因テ直チニ舊官ニ復スト云ハサルヲ得サル可  
 シト、誤ルト云フ可シ是説ハ先ツ復權ハ嘗テ失ヒタル權ヲ復スルニ  
 アリテ新タニ權ヲ得ルニ非サルノ理ヲ明カニセス次ニ勳章年金等  
 ヲ受クルコトヲ得ルノ能力ト之ヲ有スルノ權トヲ區別セス官吏ト爲  
 ルノ權ト官吏タルノ事實トヲ混淆シテ本末因果ヲ辨セサルノ論ナ  
 リトス

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ如何ノ這ハ本條第二項ノ制規スル所  
 ニ係ル主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ其死刑ニ係ルト有期刑無期刑  
 ニ係ルトヲ分タス監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情  
 狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得故ニ期滿免除ヲ得タル者復權

ヲ得ント欲セハ必ス捕縛セラレ、カ若クハ自ラ出テ監視ヲ受クル  
 コトヲ要ス

茲ニ一問題アリ、復權ハ特別ノ法律規則ニ規定セル不能力ニモ其効  
 果ヲ及ホスヤ如何ノ例ハ府縣會規則ニ懲役舊法ノ懲役ナリ一年  
 以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ハ議員タルコトヲ得ストアリ、又代言  
 人規則ニ懲役禁獄一年以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ代言人ノ免許  
 ヲ得ル能ハストアリ故ニ重罪ノ刑ニ處セラレ公權ヲ剝奪セラレタ  
 ル者ハ既ニ刑法第三十一條ニ從テ右等ノ權ヲ有セサルノミナラス  
 尙ホ此特別法ニ於テモ終身ノ不能力者ナリトス、然ルニ我第六十三  
 條ニ依リ復權ヲ得タルキハ第三十一條ニ記載シタル權利ヲ回復ス  
 ルノミナラス右ノ特別法ヨリ出ル不能力ヲモ回復スルヤ如何ニ、余  
 憶フニ復權ハ嘗テ失墜シタル權利ヲ 勅裁ニ因テ回復スルモノナ



レハ之ヲ得タル者ハ純然タル我日本ノ良民ニシテ第三十一條ノ全  
公權ヲ有スルノミナラス特別法ニ從テ府縣會選舉人應撰人タルコ  
トモ得ヘク、代言人タルコトモ得ヘキハ疑ヲ容レサルナリ、辭ヲ換ヘ  
テ之ヲ言ヘハ復權ハ其勢力寔トニ廣大ニシテ特別法ニ規定セル不  
能力ニモ其効果ヲ及ボスヤ疑ヲ容レサルナリ

然ルニ若シ果シテ此ノ如クナリトセハ我第六十三條ニ於テ復權ヲ  
得ヘキ者ヲ剝奪公權ノ刑ヲ受タル者ニ限リタルヨリシテ實ニ奇ナ  
ル結果ヲ現出スルニ至ル、即チ重罪ノ刑ニ處セラレ公權ヲ剝奪セラ  
レタル者ハ復權ニヨリ他日代言人又ハ議員タルコトヲ得ルノ望ア  
レハ禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ却テ特別法ヨリ出ル不能力  
ヲ回復スルノ望ナキト是ナリ、是レ豈ニ權衡ヲ得タリト云フコトヲ  
得ンヤ、此欠典ハ唯リ我刑法ノミナラス佛蘭刑法ニモアリタリキ然

レハ佛國ニ於テハ千八百五十二年七月ノ改正法ヲ以テ之ヲ補ヒタ  
リ、其治罪法第六百十九條ニ曰(凡施體又ハ加辱ノ一刑ニ處セラレ又  
ハ懲治ハ一刑ニ處セラレ其刑ヲ受ケ終リタル者又ハ特赦ヲ得タル  
者ハ復權ヲ得ヘシト此懲治ハ一刑ノ數字ハ新タニ加ヘラレタルモ  
ノナリトス、我輩ハ此ニ我當局者ニ於テ此ニ注意セラレノコトヲ希望  
スルナリ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復

權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ者タル者ハ赦狀中記載ス  
ルニ非レハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者  
トス



本條ハ特典ニ因テ復權ヲ得ルト得サルトノ場合ヲ示シタルモノニシテ大赦特赦ノコトハ本條ノ主點ニ非ス然レモ之ヲ明カニセサレハ其復權ヲ得ルト得サルトノ理由ヲ明カニスルニ由ナシ故ニ我輩ハ茲ニ大赦特赦ノ二事ニ就テ略説スル所アラントス

我邦古來大赦ト云ヒ常赦ト云ヒ或ハ又赦典ト云フカ如キ赦典ノ存スルナキニ非サレトモ此ニ所謂ル大赦特赦トハ蓋シ佛國刑法ニ所謂ルアムニスチー及ヒグラースト其義ヲ同フスルカ如シ若シ果シテ然ラハ其主旨其用法ニ於テ古來存スル所ノ者ニ異ナラサルヲ得サルナリ茲ニ此主旨用法ヲ解スルコト左ノ如シ

大赦○刑法ノ罪トシ論スル所ノ所爲ヲ犯シテ既ニ刑ヲ受ケ或ハ刑ヲ受ケントスル者アラソニ其事件ハ幾何ク重大ナルニモセヨ其人ハ如何ナル人ニモセヨ又其人員ハ幾何クアルニモセヨ犯罪ノ性質、

時勢ノ變遷等ヨリシテ社會ハ此事件ニ付キ人ヲ罰セサルヲ利益トスルコトアラソ然ルモハ是レ社會刑罰權ノ一元素タル緊要ノ點ヲ缺クノミナラス此權ヲ行フノ或ハ却テ害トナルコトモアルヘシ故ニ斯カル場合ニ於テハ公訴權執行權ニツナカラ之ヲ放棄シテ犯罪事件ヲ不問ニ付セサル可カラス是レ其大赦ノ制ノ因テ起ル所以ナリ、カレハ大赦ハ人ノ如何ソニ關シテ之ヲ行フニアラス事件ハ如何ハニ關シテ之ヲ行フモハニシテ既ニ處斷ヲ經タル者ニ對シテハ刑ノ執行權ヲ放棄シ未タ處斷ヲ經サル者ニ對シテ公訴ヲ起スノ權ヲ放棄シテ犯罪事件ノ消滅シタルヲ想像スルモノトス故ニ大赦ハ必ス左ノ結果ヲ生ス第一犯人ノ刑ヲ免スルノミナラス其罪ヲ免ルシテ問ハス何トナレハ既ニ事件ヲ不問ニ付スレハ其人ニ罪アルノ理ナクレハナリ第二大赦ハ之ヲ國事犯若クハ特別犯罪事件ニ適用ス可ク



シテ常事犯罪事件ニ適用スルヲ得ス何トナレハ殺人放火強盜竊盜事  
件ノ如キニ對シテハ如何ナル情狀アルモ社會ノ利益決シテ之ヲ不  
問ニ附スルヲ要求スルノ理ナケレハナリ、第三大赦ヲ得タル者ハ再  
ヒ罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セス又既ニ刑ヲ受ケタルキハ此刑消滅  
シテ復權ヲ得何トナレハ前者無罪ニシテ後者再犯トナルノ理ナク  
又免罪セラレテ猶ホ刑罰存スルノ理ナケレハナリ

特赦○特赦ハ大赦ニ反シテ其用法ニ於ケルヤ犯人ヲ目的トシテ事  
件ヲ目的トセス從テ其刑ヲ免シ若クハ之ヲ減等スルニ止マリテ其  
罪ヲ免サス故ニ其効果ハ則チ左ノ如シ

第一特赦ノ典ハ必ス裁判確定ノ後チニアリ、第二其國事ニ係ルト常  
事ニ係ルトヲ分タス、第三特赦ヲ得タル者再ヒ罪ヲ犯セハ再犯ヲ以  
テ論ス、第四特赦ニ因テ免刑ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレ

ハ復權ヲ得ス

然シテ其然ル所以ノモノハ何ソヤ茲ニ特赦ヲ設クル所以ノ主旨明  
ラカナルキハ其然ル所以ノモノ從テ明カナルヲ得ン、歐州古昔ノ  
特赦ハ實ニ其弊害ヲ極メタリキ即チ罪ナキモ王侯貴紳ノ怒リニ觸  
ル、者ハ皆ナ罰セラレタルカ如ク罪アルモ王寵ヲ受ケ若クハ貴人  
ニ出入スルカ如キ者ハ皆ナ特赦ノ典ヲ得ルヲ得タリ此ニ於テ十  
八世紀ノ哲學士ハ大ニ特赦ノ制度ノ非ナルヲ論シテ之ヲ排斥スル  
チカメタリキ、バンタム氏曰法若シ嚴ニ過クルキハ特赦ヲ爲スノ  
威權ハ是レ之ヲ矯正スルノ具タリ然レモ此矯正ヤ尙ホ未タ一箇ノ  
惡物タルチ免レサルナリ、須カラク善良ノ法律ヲ定ム可シ而シテ之  
ヲ取消スコトヲ得ルノ勢力ヲ有スル妖術ヲ造ル勿レ、刑ニシテ必要ナ  
リトセハ之ヲ免スコトヲ得サル可シ、刑ニシテ不必要ナリトセハ之ヲ

(第六十四條)



宣告スルコトヲ得サル可シト、這ハ是レ十八世紀哲學ノ約説ニシテバ  
 ンターム氏ハ又英國鴻儒ノ巨擘ナリ、然レモ學者ハ又此論ヲ排斥セ  
 リ其説ニ曰特赦若シ弊害アラハ宜シク善良ノ組織ヲ以テ此弊害ヲ  
 除去ス可シ因テ以テ特赦ノ全体ヲ廢スル勿レ天レ人類ノ制定ニ係  
 ル刑法ハ姑ク之ヲ完全無効ノ者ト想像スルモ事ノ大體ヲ豫見シテ  
 造ル所ノ規則ニ過キス、若シ事件ニ關シ人ニ關シ或ハ情狀ニ因リ人  
 智ヲ以テ豫見シ得サル所ノ者現出シ來リテ而シテ嘗テ豫見シタル  
 所ノ刑ヲ之ニ加フルノ苛酷不當ナルアラハ特赦ヲ捨テ何ヲ以テ此  
 ノ如キノ場合ニ應セントスルヤ況ンヤ生命ニ及フ極刑ノ存スル刑  
 法ニ於テテヤ又罪大ナリト雖モ刑當レリト雖モ犯人ノ爲メニ悔悟  
 改悛能ク邪ヲ改メ正ニ歸スルキハ再ヒ天日ヲ見ルコト得ルノ希望  
 ナ開カサル可ラス然ルニ特赦ヲ捨ルキハ何ヲ以テ特ニ無期刑ヲ受

ケタル者ノ爲メニ此希望ヲ開クヤ故ニ特赦若シ弊アラハ須カラシ  
 其弊ヲ去ル可シ特赦ハ必要止ム可ラサルノ者ナリト、是ニ由テ之ヲ  
 觀レハ特赦ノ因テ起ル所以ノ理定トニ明ラカニシテ其大赦ニ異ナ  
 ル點モ亦明ラカナリ  
 諸テ右大赦特赦ノ何者タル既ニ明カナルキハ我第六十四條ニ所謂  
 ル大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得ルノ理由并ヒニ特  
 赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得サ  
 ルノ理由自ラ明瞭ナリトス、只本條ニ就テ尙ホ一言ス可キノ點ハ特  
 赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ト此免罪ノ字ハ免刑ノ意ヲ以テ解セサル  
 可ラス何トナレハ假令ヒ特赦ニ因リ直チニ復權ヲ得セシムルキト雖  
 モ尙ホ再ヒ罪ヲ犯スル再犯ヲ以テ論スルヲ見レハ如何ナル場合ニ  
 於ケルモ特赦ハ決シテ罪ヲ免セサレハナリ、又赦狀中記載スルニ非



サレハ復権ヲ得スト此復権ヲ得ストハ特赦ノ効果ニ因テ直チニ之ヲ得サルノ意ニシテ決シテ終身之ヲ得スト云フニ非ス故ニ特赦ヲ得タル者ハ常ニ第六十三條ニ從テ復権ヲ得ヘキナリ

第六十五條 復権ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ

復権ハ法律ニ從ヒ司法權ノ判決ヲ經テ剝奪シタル權利ヲ復スル者ニシテ之ヲ能クスル威權ノ關係ヨリ見レハ實ニ最大事件ナリトス本條ハ乃チ唯リ陛下ノ之ヲ能クシ給フヲ示ス其復権ノ請願スル方法手續ハ治罪法第四百七十條以下ニ詳カナリ

(第二十二回)

第三章 加減例

加減例トハ刑ヲ加重減輕スルノ例規ト云フカ如シ我刑法ニハ立法

者自ラ加減ノ場合ヲ定メタルアリ又裁判官ヲシテ加減セシムルアリ而シテ此加重減輕アル以上ハ之ヲ適用スルノ方法ヲ示サ、ル可カラズ是レ本章ノ設ケアル所以ナリ

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後

ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

本條ハ本章ノ大綱領ヲ示シタルモノナリ而シテ爰ニ法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ストアルカ爲メ本章ハ法律自ラ加減スル時ノ例規ニシテ裁判官ノ意ヲ以テスル酌量減輕ノ如キニハ之ヲ適用スル能ハサルカ如シト雖ヒ決シテ然ルニアラス如何ナル加重減輕ト雖ヒ總テ本章ヲ適用ス可キナリ故ニ此法律ニ於テノ語ハ法律ニ照シ又ハ法

(第六十五條)(第六十六條)



律ニ從ヒト云フカ如キノ意ニ過キサレナリ  
 加ヘテ死刑ニ入ルヲ得サルハ苛酷ニ過クルカ故ナリト解ス可ラ  
 ス苛酷ニ過クルト過キサルトハ罪ノ輕重如何ニ因ル若シ夫レ苛酷  
 ニ過クルカ故ナリトセハ如何ナル犯罪ニ對スルモ苛酷ハ則チ苛酷  
 ナルニ因リ死刑ハ到底廢セサル可ラサルニ至ラン然ラハ如何ナル  
 理由ニ因テ然ル乎夫レ死刑ハ惡質多クシテ良質少ク文明國ノ法律  
 中ニ入ル可ラサルハ刑ナリ然レモ又他ニ理由ノアルアリテ之ヲ廢  
 ス可ラス故ニ我立法者モ之ヲ存セリト雖モ例外トシテ夫ノ極惡不  
 赦ノ犯罪ノミニ限り之ヲ該テ以テ後來此ノ如キ犯罪ヲ爲サントス  
 ル者ヲ警戒シ其他ハ如何ナル犯罪ト雖モ決シテ之ヲ用ヒサルモノ  
 ト爲セシトハ我刑法死刑ノ用法ヲ通覽シテ明カナリ故ニ假令加重  
 ノ情狀アリト雖モ加ヘテ死刑ニ入ラシメサルナリ

本條但以下加ヘテ死刑ニ入ルヲ得スノ數字ハ其位置第六十七條  
 第六十八條ノ兩條中ニ在ルカ然ラサレハ輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ  
 入ルヲ得サルヲト違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得サルヲ  
 ト并ヒ舉グルチ至當トスルカ如シ何トナレハ本條ハ本章全休ニ關  
 スル條ニシテ但シ以下ハ僅カニ第六十七條第六十八條ノ兩條ニ關  
 スルニ過キサレハナリ

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重懲役

(第六十七條)



五 輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照

シテ加減ス

一 死刑

二 無期流刑

三 有期流刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

此兩條ハ常事犯ト國事犯トノ重罪ノ刑ヲ加減スル方法ヲ示シタルモノニシテ二者既ニ其刑ヲ異ニスルキハ隨テ其加減ノ方法ヲモ異ナラシメサル可ラサルヤ余カ贅言ヲ俟タサルナリ

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以

上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下

ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

重罪ノ刑中ニアリテ加減スルノ順序ハ前二條ニ於テ之ヲ盡セリ若シ重罪ノ刑ヲ減シ盡シテ輕罪ノ刑ニ降ルキハ如何ノ本條ハ乃チ此場合ニ應ヘタル者ナリ、輕罪ノ刑ニシテ身体ニ及フノ刑ハ常事犯ニ關シテハ重禁錮ト云ヒ國事犯ニ關シテハ輕禁錮ト云フノ十一日ニ起リテ五年ニ至ルノ一定名アルノミ重罪ノ刑ノ細カニ期限ヲ定メタル刑名アルカ如キニ非ス故ニ重罪ノ刑ヨリ降ル時ノ禁錮ノ期限ヲ定メサル可ラス此ニ於テ曰ク國事犯常事犯ノ區別ニ從ヒ二年以

(第六十八條)(第六十九條)



上五年以下ノ重輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲スト其二等以上ニ及フキハ次條ノ例ニ從フモノトス

第七十條

禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條

ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

本條ノ正解ニ入ルノ前ニ於テ數點ノ辨明ヲ要ス可キ者アリ即チ禁錮ヲ減シテ罰金ニ入ラス罰金ヲ加ヘテ禁錮ニ入ラサルト重禁錮ヲ減シテ輕禁錮ニ入ラス輕禁錮ヲ加ヘテ重禁錮ニ入ラサルト輕罪ノ

刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ラハルト輕罪ハ刑ヲ減シテ直チニ違警罪ノ刑ニ下ラサルトノ四問題はナリ

禁錮ハ減シテ罰金ニ入ラス罰金ハ加ヘテ禁錮ニ入ラサルモノハ各其性質ヲ異ニスルヲ以テナリ元來罰金ハ禁錮ノ如ク懲治ノ目的ヲ達スルヲ充分ナラサル刑ナリ縱シヤ懲治ノ目的ヲ達スルヲアルモ甚タ僅少ナルモノトス何トナレハ此刑ハ財産上ヨリシテ一時犯者ヲ苦痛セシムルニ過キサルヲ以テナリ若シ一タヒ此刑ニ處セラル、キハ之ニ懲リテ再ヒ犯スニ至ラサルヲアル可シト雖モ是レ止タ再ヒ財産ヲ奪ハル、ヲ恐ル、ノ致ス所ニシテ眞心悔悟シテ然ルニ非ラサルナリ故ニ罰金ハ犯者ノ心ノ矯正ヲ要セサル犯罪ニノミ適用ス可キ刑ナリ然レモ或ル犯罪ニ關シテハ大ニ其効ヲ現ハスヲアリ例ヘハ酒造規則ヲ犯ス者ノ如キ其犯罪ノ所行ヨリ利益ヲ得ゾト

(第七十條)



欲シ若干日ノ禁錮ヨリハ若干圓ノ罰金ヲ恐ル、如キ場合はナリ然レモ其苦痛犯者ノ身体ニ及ハサルヲ以テ罪ノ度稍重キモハ之ヲ懲治スルニ足ラサルナリ故ニ罰金ヲ以テ罰スル罪ハ自ラ一種ノ性質ヲ有スル者ニ限ル可キ者ニシテ身体ニ及フノ刑ヲ以テ罰ス可キ者ト同一視ス可ラサルナリ是レ其罰金ハ加ヘテ禁錮ニ入ラス禁錮ハ減シテ罰金ニ入ラサル所以ナリ

重禁錮ヲ減シテ輕禁錮ニ入ラス輕禁錮ヲ加ヘテ重禁錮ニ入ラサルモノハ此二刑重輕ノ名アリト雖モ其實同等ノ刑ニシテ且ツ其用法各異ナレハナリ其重ト云ヒ輕ト呼フハ服役アル者ト無キ者トヲ區別スル爲メヨリ出テタル所ニシテ其期限ニ於テハ孰レモ十一日ニ起リテ五年ニ至ルノ刑ナリ故ニ刑法草案ニ於テハ附役禁錮單一禁錮ト呼ヒテ嘗テ重輕ノ名稱ハアラサリキ又其用法ニ至テハ重禁錮

ハ常事犯ニ對スルノ刑ニシテ輕禁錮ハ國事犯罪ニ對スルノ刑ナリ且ツ時トシテハ之ヲ常事犯ニ用フルナキニ非スト雖モ概テ破廉恥ノ性質少ナキ犯罪ヲ罰スルキニ係ル故ニ加減ノ理由ヨリシテ此二刑ヲ相出入セシムル能ハサルヤ明カナリ

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得サルハ彼ノ無期徒流ヲ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得サルト罰金ヲ加ヘテ禁錮ニ入ルヲ得サルトニ關スルカ如キ緊切ナル理由アルニ非ス、只タ左ノ論理ト實際トノ其然ルヲ要スルノミ、我刑法ハ刑ヲ大別シテ重罪ノ刑、輕罪ノ刑、違警罪ノ刑ト爲シ而シテ重罪ノ刑ハ其期限ト制度トニ於テ大ニ嚴ナルノミナラス尙ホ數多ノ附加刑アリテ就中剝奪公權ノ終身刑アリ故ニ之ヲ適用スルニ當テモ亦犯罪ノ種類ヲ限ル而シテ此種類中ニ入ラサル以上ハ他ニ如何ナル點ノアルモ此刑ヲ該ルヲナシ若シ然カ



セサレハ彼ノ重罪輕罪ト犯罪ヲ區別シタルモ空物タルニ至ラン、又實際上ニ於テハ徒ラニ重罪ノ數ノミ増加シテ其困難言フ可ラサルモノアラントス

輕罪ノ刑ヲ減シテ直チニ違警罪ノ刑ニ入ラサルハ何ソヤ、輕罪ノ刑ヲ減等シテ直チニ違警罪ノ刑ニ入ルヲ得トセハ最長期五年ノ刑ヲ最短期十日ノ刑ニ減スルカ如キ場合ヲ生メ減等甚キニ過キ到底實行シ得可ラサレハナリ

情テ右ノ數點明カナルキハ是ヨリ本條ノ正解ニ入ラン、我刑法ノ刑ノ組織ニ依レハ輕罪ノ刑ハ重輕禁錮罰金ノ三者ニ過キスシテ重罪ノ刑ノ曲サニ期限ヲ定メタル刑名アルカ如キニ非ス又前既ニ論シ來リタルカ如ク此三者ハ相互ヒニ加重減輕セシム可ラス且加ヘテ重罪ノ刑ニ入ルヲ得ス減シテ直チニ違警罪ノ刑ニ下ルヲ得カ

ルキハ必スヤ他ニ加減ノ方法ヲ求メサル可ラス此ニ於テ本條ニ曰ク禁錮罰金ニ該ル者加重減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲スト、而シテ四分ノ一ヲ加減スルトハ禁錮ハ其最長期最短期ニ就テ加減シ罰金モ亦其最多數最寡數ニ就テ加減スルノ謂ヒニシテ例ヘハ茲ニ刑法第三百六十六條ノ竊盜罪ヲ犯シタル者アランニ其本刑ハ二月以上四年以下ノ重禁錮トス然ルニ二人以上共ニ此罪ヲ犯シタルヲ以テ同第三百六十九條ニ從ヒ一等ヲ加フトセハ其刑期二月十五日以上五年以下トナル裁判官ハ乃チ此期限間ニアリテ上下ス可クノ犯人ヲ五年ニ處スルヲ得二月ニ處スルヲ得可ラサルナリ、又之ニ反シテ犯人二十歳ニ滿タサルノ幼者ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ照シ右竊盜ノ刑二月以上四年以下ノ重禁錮一等ヲ減ストセハ其刑一月十五日以

(第七十條)



上三年以下ノ重禁錮トナル裁判官ハ乃チ一月十五日ニ下リテ處斷  
スルヲ得ヘクシテ三年以上ニ上ルヲ得ヘカラサルカ如キ是ナリ  
又例ヘハ茲ニ刑法第三百十七條ノ過失殺テ犯シタル者アランニ其  
本刑ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金トス然ルニ再犯ノ理由ニ因リ  
第九十二條ニ照シ一等ヲ加フトセハ二十五圓以上二百五十圓以下  
ノ罰金トナル又之ニ反シ自首ノ理由ニ因リ第八十五條ニ照シ本刑  
ニ一等ヲ減ストセハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金トナルカ如キ  
是ナリ

若シ加重減輕二等以上ニ及フキハ如何ノ辭ヲ精シクシテ之ヲ言ヘ  
ハ加減二等若クハ三等ニ及フキハ本刑ノ刑期金額ノ四分ノ二若ク  
ハ四分ノ三ヲ加減スルノ義ナルヤ將タ既ニ一等ヲ加減シタル者チ  
本トノ更ニ一等ヲ加減シ順次常ニ四分ノ一宛チ加減スルノ義ナル

ヤ此問題ハ實際上極メテ重要ノ關係アリトス何トナレハ例ヘハ茲  
ニ本刑二年以上四年以下ノ禁錮ニ處ス可クシテ二等若クハ三等チ  
減ス可キ者アランニ本刑ニ就テ直チニ四分ノ二若クハ四分ノ三チ  
減ス可シトセハ減等ノ効果一年以上二年以下若クハ六ヶ月以上一  
年以下ノ刑期トナリ之ニ反シテ既ニ一等ヲ減シタル者チ本トシテ  
更ニ又一等ヲ減スルモノトセハ其減等ノ効果ハ二等減ノ場合ニ於  
テハ一年一ヶ月十五日以上二年七ヶ月十五日以下ノ刑期トナリ三  
等減ノ場合ニ於テハ十ヶ月三日強以上一年十一月十八日強以下  
トナルニ過キサルヲ以テナリ其比較表ハ乃チ左ノ如シ

第一方法

本 二年以上  
刑 四年以下

第二方法

本 二年以上  
刑 四年以下

(第七十條)



減等一 一年半以上  
 減等二 三年以下  
 減等三 一年以上  
 減等四 二年以下  
 減等五 六ヶ月以上  
 減等六 一年以下

減等一 一年半以上  
 減等二 三年以下  
 減等三 一年一ヶ月半以上  
 減等四 二年七ヶ月半以下  
 減等五 十ヶ月三日強以上  
 減等六 一年十一月十八日強以下  
 減等七 七ヶ月十六日強以上  
 減等八 一年五ヶ月二十一日強以下

其加重ノ比較例ハ推シテ知ル可シ  
 余初メ以爲ラク我七十條ヲ解スルニ當テハ第二方法ニ依ラサル可  
 ラス即チ加減二等以上ニ及フキハ先ツ本刑四分ノ一ヲ加減シ次ニ  
 此加減シタル者ニ就テ更ニ又四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ二等又ハ

三等ト爲スノ方法ニ從ハサル可ラサルナリト蓋シ其故ナキニ非ス  
 本來第一方法即チ加減二等以上ニ及フキハ四分ノ二又ハ四分ノ三  
 チ加減スル者ハ四等ヲ加ヘテ漸ク倍數トナリ四等ヲ減メ遽カニ零  
 點ニ至ルノ方法ニシテ加減共ニ寬ニ失スルノ弊アリ故ニ加減ノ權衡  
 上左ノ如キ結果ヲ生スルニ至ル例ハ此ニ二月以上一年以下ノ禁  
 錮ト二年以上五年以下ノ禁錮トノ二刑アリトセンニ此一年以下ノ  
 者ハ五年以下ノ者ヨリ輕キヲ固ヨリ著ルシクノ數十等ヲ加フルニ  
 非サレハ同等ノ地位ニ至ルコトナシ然ルニ此二刑ノ間此ノ如キノ差  
 アルニモ拘ラス第一方法ニ依レハ五年ノ禁錮ハ四等ヲ減シテ直チ  
 ニ零點ニ着シテ犯人ヲ拘留ニ處スルニ至リ却テ一年ノ禁錮ハ茲ニ  
 三等ヲ減スルトスルモ尙ホ三月以下ノ者トナルニ過キス加減上ノ  
 不權衡モ亦甚タシト云フヘキナリ然ルニ若シ第二方法ニ依レハ此

(第七十條)



ノ如キノ結果ヲ看ルコトナシトス是レ其余カ之ニ從ハサル可ラスト  
 思考シタル所以ナリキ或ヒト余ヲ駁シ曰第七十一條ニ禁錮罰金ヲ  
 減盡シタル時ハ拘留科料ニ處ストアリ第二方法ニ依レハ減盡ノ場  
 合アルコトナシ故ニ立法者ノ意ハ第一方法ヲ取リタルヤ明カナリト  
 余之ニ答ヘテ曰例ヘハ玆ニ刑法第四百十八條人ノ家屋ニ屬スル牆  
 壁ヲ毀壞シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ該ル者アラシニ此犯人  
 十六歳未滿ノ幼年者ニシテ且從犯トシテ此刑ニ觸レ自首シテ損害ヲ  
 賠償シ尙ホ所犯情狀ノ原諒ス可キアレハ八等ヲ減スルコト得ヘシ  
 又玆ニ刑法第四百二十三條人ノ牛馬以外ノ家畜ヲ殺シ二圓以上二  
 十圓以下ノ罰金ニ該ル者アラシニ幼年ニ關スル宥恕、自首、從犯ノ原  
 由及ヒ酌量減輕ヨリシテ同ク八等ヲ減スルコトアレシ然ラハ則チ第  
 二方法ニヨルモ禁錮罰金ヲ減盡スルノ場合ナシト云フ可ラスト或

ヒト又曰我刑法加減ノ等數ヲ示シタル各條ヲ見ルニ本刑ニ二等ヲ  
 加フ又ハ本刑ニ二等ヲ減ストアリ故ニ必ス本刑ニ就テ四分ノ一又  
 ハ四分ノ二ヲ加減セサル可ラス從テ立法者ノ意第一方法ニ依リタ  
 ルヲ知ル可シト余又之ニ答ヘテ曰本刑ニ幾等ヲ加フ又ハ減ストア  
 ルハ止タ加減ノ等數ヲ示シタルニ過キスノ其加減ノ方法ニ至リテ  
 ハ一ニ之ヲ第七十條ニ任シタル者ナリ然ルニ今此方法ヲ論スルニ  
 當リ止タ加減ス可キ等ノ數ヲ示シタル文章ヲ引用シ以テ立法者ノ  
 意ヲトセントスルハ誤ルト云フ可シ況ンヤ第一方法ニ依ルモ第二  
 方法ニ依ルモ必ス本刑ヲ本トメ加減ス可キハ數ノ免カレサル所ナ  
 ルオヤト、或又曰第二方法ニ依レハ加重ノキハ則チ可ナリト雖モ減  
 等ノ時ニ於テ其効極メテ少ナシ故ニ第一方法ニ依ラサル可ラスト  
 余之ニ答テ曰這ハ法律其物ヲ駁スル者ニシテ法律ヲ解スルノ論ニ非



ス若シ第二方法ニ依レハ減等ノ効果狹隘ニシテ不可ナルモハ法律ヲ改メテ三分ノ一ヲ加減ストスルモ五分ノ二ヲ加減ストスルモ妨クル所アルヲ見サル也ト

其然リ然リト雖モ今嘗テ右ノ論點ニ關シ此刑法編纂ニ從事セラレタル諸君中ニ就テ之ヲ質セシニ立法者ノ意ハ若シ加減二等以上ニ及フキハ刑期金額ノ四分ノ二又ハ四分ノ三ヲ加減スルノ義ナリシト云フ然ラハ則チ現今我七十條ヲ解スルニ當テハ之ニ從ハサルヲ得サルナリ

禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得トハ禁錮ハ元來五年ニ止マルノ刑ナリ然レモ加等ノ場合ニ限り重罪刑ノ刑期ト混同スルニモ拘ハラズ七年マテ至ルヲ得ルト云フノ文ニシテ此中ニ自ラ禁錮ハ加ヘテ七年ニ過クルヲ得スノ意ヲ含蓄スルモノトス而シテ其七年ニ至ル

ヲ得ルモノハ輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得サルカ故ニ若シ之ヲ許サ、ルモハ五年ノ禁錮ハ其短期ニ於テ加フル所アルモ其長期ハ加重ノ名アルノミニシテ加重ノ實ナキニ至ル可ケレハナリ又加ヘテ七年ニ過クルヲ得サルハ若シ之ヲ許スモハ重罪刑ノ刑期ト混同スルヲ甚シクシテ刑重キ者ハ其期必ス長キノ元則ニ反キ重罪ノ刑ニ擇フ所ナキニ至レハナリ

七年ノ禁錮六年ノ懲役ヨリ輕キヤ、曰ク輕シ何トナレハ剝奪公權、禁治產ノ附加刑ナク又時トシテハ監視ノナキアリテ且其他再犯加重、未遂犯等ノ場合ニ及ボスノ影響總テ異ナレハナリ

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ又

(第七十一條)



## 拘留科料ニ處スルヲ得

本條ハ輕罪ノ刑ヲ減シテ違警罪ノ刑ニ入ルノ例ヲ定メタルモノトス  
 禁錮罰金ヲ減盡スルノ場合ハ前條ノ講說中ニ之ヲ論セリ且四分ノ  
 二若クハ四分ノ三ヲ減スルヲ以テ二等又ハ三等ト爲スノ說ニ從フ  
 キハ此減盡ノ場合ノ生スルヲ甚タ少ナカラストス例ヘハ茲ニ竊盜  
 ノ罪ヲ犯シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル者アラシニ若シ二十  
 歳未滿ノ者ニシテ且自首シテ損害ヲ賠償シタルキハ法律上必スヤ  
 四等ヲ減セサルヲ得ス從テ此犯人ハ拘留ヨリ重キ刑ニ處セラレ可  
 ラサルナリ又例ヘハ十六歳ニ滿タサル者人ヲ毆打創傷シ其一目ヲ  
 瞎シテ自首シタルキハ酌量減輕一等アリテ直チニ輕罪ノ刑ヲ免ル  
 ヲ得ヘシ我刑法減等ノ寬モ亦盡セリト云フ可キナリ  
 禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フノ

場合モ亦少ナシトセス凡ソ短期十一日ノ禁錮寡數二圓ノ罰金ニ該  
 ル者一等ヲ減スルキハ必ス此場合ヲ生ス而シテ此場合アル毎ニ裁  
 判官ニ與ルニ犯人ヲ拘留科料ニ處スルヲ得ルノ權ヲ以テスルハ  
 數ノ賭易キモノトス何トナレハ十日以下ノ禁錮一圓九十五錢以下  
 ノ罰金ナキキハ勢ヒ拘留科料ト爲サ、ルヲ得サレハナリ

## 第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮

罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等  
 ト爲ス違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但  
 拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日以下  
 ニ降スヲ得スコ料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ  
 得減シテ五錢以下ニ降スヲ得ス

(第七十二條)



本條ハ違警罪刑ノ加減ノ例ヲ定メタルモノトス而シテ其法凡テ輕罪ノ刑ニ同シ又違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得サルハ猶輕罪ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得サルカ如ク拘留ヲ加ヘテ十二日ニ至ルコトヲ得ルハ禁錮ヲ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得ルト其理一ナリ、然シテ止タ科料ヲ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルコトヲ得ルノ例ハ輕罪ノ刑加等例中ニ看サル所ナリトス這ハ重罪ノ刑中ニハ財産ニ及フノ主刑ナキヲ以テ罰金ノ額幾何クニ至ルモ重罪ノ刑ト混同スルノ場合ナシト雖モ輕罪ノ刑中ニ罰金アルヲ以テ科料多キニ過クル時ハ上等ノ刑ト混スルニ因リ科料加等ノキハ二圓四十錢ニ至ルコトヲ得又之ニ過クルコトヲ得サルノ例ヲ定メタルナリ又拘留ヲ減シテ一日以下ニ降スコトヲ得ス科料ヲ減シテ五錢以下ニ降スコトヲ得サルハ若シ拘留ニシテ一日以下ニ降り科料ニシテ五錢

以下ニ降ルキハ其刑薄弱ニ過キテ有レト無キカ如ク固ヨリ被刑者ヲ懲戒スルニ足ラス未來ヲ警戒スルニ足ラスシテ却テ刑ノ尊嚴ヲ害スルニ足レハナリ是レ併シナカラ我刑法ニ於テ既ニ取リタルノ方法ニ照準シタルノミ我刑法ハ既ニ期限ヲ以テ算スルノ刑ニ關シテハ一日ヲ以テ起算ノ單位ト爲シ金錢ヲ徵スルニ係ルノ刑ニ關シテハ五錢ヲ以テ立數ノ單位トセリ故ニ我刑法ニ從ヘハ時ヲ以テ算スル拘留ト五錢ニ及ハサル科料トハ刑ニ非ルナリ茲ニ本條ノ正文ニ因レハ拘留ヲ減シテ一日以下ニ降スコトヲ得ストハ假令ヒ減等スルノ理由アリテ一日以下ニ降ス可キ者タルモ尙ホ一日ノ拘留ヲ科スト云フカ如ク又科料ニ係ルキモ同ク五錢以下ニ減等ス可キモ尙ホ放免セスシテ必ス五錢ヲ科スト云フカ如クナレト我輩ノ之ヲ解スル所ハ然ラス即チ一日以下五錢以下ニ降スコトヲ



得ストハ時ヲ以テ算スルノ拘留無ク四錢又ハ三錢等ノ科料ナキヲ示シタル迄ニシテ一日ノ拘留ヲ該ツルニ足ラス五錢ノ科料ヲ科スルニ足ラサル罪ニモ尙ホ之ヲ科スト云ヒタルニ非ス何トナレハ若シ此クノ如シトセハ是レ不辜ナルモ尙ホ罰セヨト云ヒタルト同一意ニ歸スレハナリ故ニ大ニ減等ス可キノ情狀アリテ一日以下五錢以下ニ降ス可キノ理由アルキハ減盡シテ刑ナキヲ以テ直チニ放免ス可キモノトス但シ是種ノ鎖末ノ事ハ固ヨリ論スルニ足ラサレヒ因ミニ此ニ一言スルノミ

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

禁錮拘留ノ加減法ハ其四分ノ一ヲ減少増加スルヲ以テ一等ト爲スニアルキハ其加減ノ際若干日若干時ト云フ零數ヲ生スルコト固ヨリ

少ナカラストス然ルニ此若干時即チ一日ニ滿タサル者ハ之ヲ除棄シテ刑期ニ算セサルハ既ニ前條ニ於テ講説シタルカ如ク我刑法期限ヲ以テ算スルノ刑ハ二十四時ノ一日ヲ以テ算數ノ本ト爲スノミナラス尙ホ一日ニ滿サル者ヲモ算入スルキハ煩雜ニ涉ルノ恐アレハナリ又罰金科料ニモ同ク零數ヲ生シテ若干錢若干厘ト云フノ場合ヲ生ス可シ雖トモ個ハ其額ヲ徵収スルノミニ係ルヲ以テ煩雜ヲ生スルコトナシ是レ其罰金科料ニハ除棄ノ法アラサル所以歟

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止タ主刑ヲ科ス

前條マテハ主刑ニ係ル加減ノ例ヲ制規シタル所ニシテ本條ニ於テ

(第七十三條)(第七十四條)



始メテ附加刑ニ及ヒタリ然ルニ附加刑ニシテ加減法ヲ要スルモノ  
ハ止タ罰金ニ限ル何トナレハ剝奪公權ハ無期ニシテ停止公權ト禁  
治産ハ常ニ主刑ト共ニ進退シ沒收ハ固ヨリ其性質ヨリシテ加減ヲ  
受ケ得サレハナリ唯タ罰金ノ外ニ加減ヲ要スル如キモノハ輕罪ノ  
刑ニ附加スル監視ノミ然レモ此刑ハ既ニ辨シタルカ如ク一種ノ性  
質ヲ有スルノ刑ニシテ若シ之ヲ減シテ例ヘハ十五六日トセンカ遂  
ニ此刑ヲ設ケタルノ理ヲ貫ク能ハサルニ至ル可シ此種ノ刑ハ一ニ  
裁判官ノ權内ニ於テ爲スヲ得ル加減ニ任スルヲ可トス是レ其監  
視ニハ加減ノ法ナキ所以ナリ情テ附加罰金ノ加減ハ如何ナル方法  
ニ因ルカト云フニ則チ本條ニ於テ主刑ニ從ヒ四分ノ一ヲ加減スト  
云フ寔トニ當然ト云フ可シ而シテ其減盡シタル時ハ止タ主刑ヲ科  
スルハ減シテ入ル可キ次キノ附加刑ナケレハナリ

## (第二十三回)

## 第四章 不論罪及ビ減輕

前回マテハ講説スル所皆ナ刑ニ關スル事項ニ係リシカ今ヨリシテ  
此刑ヲ受ク可キ者即チ犯人ニ關スル事項ニ及ハントス蓋シ刑法ノ  
此部分ハ單ニ元則ニ就テ論スルモハ極メテ簡短ナリト雖モ立法者  
之ヲ成文法ニ編序スルニ當テハ甚タ爲シ易カラスシテ裁判官之ヲ  
實際ニ適用スルニ至テハ又一層ノ難問ヲ來スノ部分ナリトス法ヲ  
講スル者ハ宜シク注意ヲ怠ル可カラサルナリ余ハ先ツ茲ニ不論罪  
及ヒ減輕ノ因テ起ル所以ノ理ヲ講述セン  
此ニ一箇ノ事件アリトセンニ此事件ハ例ヘハ謀殺放火ノ如キモノ  
ニシテ其損害ハ幾何ク重大ナルニモセヨ若シ之ヲ來シタルノ原因

## (第七十四條)



ヲ問ハス單ニ此事件ノミニ就テ考フレハ一箇ノ災害タルニ過キス  
 即チ中毒ヨリ來リタル暴死、雷火ヨリ生シタル家屋ノ燒燬ト等シク  
 人生普通ノ一箇ノ不幸タルニ過キサルナリ、故ニ一箇ノ事件ノ犯罪  
 トナリ得ル爲メニハ必スヤ之ヲ原因シタル者ハ人類中ノ一人タラ  
 サル可ラス、辭ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ此事件ヲ以テ犯罪ト名ケ得ル爲  
 メニハ必スヤ之ヲ惹起シタル者ハ人類ナルヲ想像セサル可カラ  
 サルナリ、然リ而シテ是等ノ災害若シ中毒、雷火ヨリ出テタルハ人  
 之ヲ以テ人生普通ノ不幸ト爲シテ唯リ人類ヨリ來リタルハ罪ト  
 爲スモノハ何ソヤ、毒物ト雷火トニハ責任ナク人類ニハ其所爲ノ結  
 果ニ應フルノ責任アレハナリ、然ラハ則チ責任ハ是レ罪ヲ構造スル  
 ニ已ム可カラサルノ一元素ニシテ其有無ハ罪ノ有無ヲ爲スヲ看ル  
 可シ

然ルニ斯クノ如ク雷火毒物ニハ責任ナクシテ單リ人類ニノミ責任  
 アルハ何ソヤ、人類ハ善惡正邪ヲ辨別スルノ智識ト動不動ヲ決定ス  
 ルノ自由トチ有スルニ因ル夫レ智識ナル者ハ活動物靈魂ノ一能力  
 ニノ鳥獸鱗介ニ至ルマテ多少之チ有セサルハナシト雖モ善惡正邪  
 ノ理ヲ覺知シ、外物ノ我ヲ感觸シテ一箇ノ所業ヲ爲サシムルニ當リ  
 テ此所業ノ果シテ善ナルカ將タ惡ナルカ、法ニ適スルカ將タ法ニ背  
 クカチ判斷スルノ智識チ有スルハ唯リ人類ニアリトス、又動不動ヲ  
 決定スルノ自由トハ個モ人類靈魂ノ他ノ一能力ニシテ一箇ノ所業  
 ノ爲ス可キカ將タ爲サル可キカチ決定シ我軀驅四肢チ活動セシ  
 メ若クハ之ヲ抑制シテ休止セシムルノ能力チ云フ、凡ソ我々人類ノ  
 所業ハ皆チ此能力ニ從フモノニシテ彼ノ禽獸ノ内外ノ感觸チ受ク  
 レハ其受クルニ從テ動止シ他ノ制チ受ケサルキハ底止スル所ナキ



カ如キニ非サルナリ、カレハ既ニ此善惡正邪ヲ辨別スルノ智識アリテ之ニ加フルニ自由ニ我四肢ヲ動止スルノ能力アリ而シテ理ノ須カラク爲ス可ラサルハ事ヲ爲シ又ハ須カラク爲ス可キノ事ヲ爲サハルキハ如何ソ其結果ニ應ヘサルヲ得ンヤ是レ其人類ニハ所謂ル責任ノアルアリテ其所爲ハ則チ罪トナルヲ得ル所以ナリ

儲テ此智識ト此自由アリテ而シテ須カラク爲ス可ラサルノ事ヲ爲シ又ハ爲ス可キノ事ヲ爲サス故ニ責任アリ責任アルカ故ニ其所爲罪トナルヲ得ルト云フ然ラハ則チ此智識ト此自由トハ責任ヲ構成スルニ避ク可ラサルノ條件ニシテ若シ故アリテ其一チ缺ク時ハ責任アルヲ得ス既ニ責任アルヲ得サルキハ假令ヒ人類ノ所爲ト雖モ罪トナルヲ得サルノ場合アラサルヲ得ス是レ其本章不諭罪ノ因テ起リタル所以ナリ故ニ茲ニ此條件ノ一タル智識ヲ缺キタ

リトセンカ其所爲ハ例ヘハ殺傷放火ノ如キニシテ其害ハ幾何ク大ナルニモセヨ恰モ是レ善惡ノ智覺ヲ有セサル猛獸ノ人ヲ咬ミ若クハ既ニ靈魂ヲモ有セサル雷火ノ家屋ヲ燒燬シタルト一般ニシテ亦是レ人生普通ノ一箇ノ不幸タルノミサレハコソ我刑法ニ於テ智覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサルノ所爲ヲ罪トシ論セスト爲セシナリ又茲ニ責任ヲ構成スルノ一條件タル動不動ヲ決定スルノ自由ヲ缺キタリトセンカ其所爲ハ例ヘハ毆打ノ如キニシテ其損害ハ幾何ク重大ナルニモセヨ恰モ是レ暴風ヲ受ケル家屋ノ顛覆シ人ヲ傷シタルト一般ニシテ一箇ノ災害タルニ過キスサレハコソ我刑法第七十五條ニ於テ抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ爲シタルノ所業ハ罪トシ論セスト爲セシナリ

學者或ハ罪ヲ犯スノ意ヲ以テ責任ヲ構成スルノ一條件ト爲シ若シ

(第七十四條)



此犯意ナキキハ其所爲罪トナルヲ得スト論スル者アリ、抑モ此犯意ナル者ハ概テ罪ヲ構成スル爲メニ極メテ必要ノ元素ナリトス故ニ例ヘハ故殺ノ如キ人ノ生命ヲ絶ツノ意ナケレハ故殺トナルヲ得得ス竊盜ノ如キ人ノ所有物ヲ取ルノ意ナケレハ竊盜トナルヲ得ス、其他放火ノ如キ毀壞ノ如キ毆打ノ如キ誣告ノ如キ皆ナ犯意ヲ要スル者ニシテ此ニ枚擧スルニ遑アラサルナリ、然レモ余ハ此犯意ヲ以テ責任ヲ構成スルニ避ク可ラサルノ一條件ト爲スヲ得ス何トナレハ此犯意ナキキモ尙ホ責任アリテ其所爲罪トナルヲ得ルノ場合アレハナリ、故ニ彼ノ過失殺傷ヲ看ヨ人ヲ殺スノ意人ヲ傷スルノ意ナキニ非スヤ然ルモ尙ホ罪トナルヲ得テ而シテ其罪トナルヲ得ルモノハ之ヲ來ス者ニ責任アレハナリ、是レ其犯意ハ責任ヲ構成スルニ避ク可ラサルノ條件ニ非サルノ一證ナリ、又第七十七條

ヲ看ヨ冒頭ヨリ罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セストアレトモ亦直チニ法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラスト云フ是レ犯意ナキモ責任アルヲ得ルノ證ナリ、然ラハ則チ責任ヲ構成スル爲メニ犯意ハ智識及ヒ自由ト同等ノ地位ニ在ラサルヲ知ル可キナリ尙ホ此點ハ第七十七條ヲ講スルノ際ニ於テ之ヲ詳カニス可シ

以上講説ニ來リタル所ニ於テ不論罪ノ起ル理由明ラカナルヲ得タレハ是ヨリ減輕ノ因テ起ルノ理由ニ移ル可シ  
既ニ智識ト自由トアリテ人世普通ノ常務ニ背ク故ニ其所爲罪トナルヲハ前段論スル所ノ如シ、然ルニ此常務ニ背クヤ假令ヒ同一ノ事ニ係ルキト雖モ其方法ハ千態萬狀各其模様ヲ異ニシテ現ハレ來ルモノナレハ罪モ亦此模様ト共ニ千變萬化シ從テ其度ニ重輕ヲ生ス

(第七十四條)



ルハ數ノ免カレサル所ナリ、故ニ例ハ人アリ其知人ヨリ負債アリ  
 シカ偶、路上ニ會シタルニ際シ急ニ殺意ヲ生シ負債ヲ免カレシカ爲  
 メニ債主ヲ殺シタリトセンカ、又例ハ人アリ偶、人ノ爲メニ甚シキ  
 暴行汚辱ヲ受ケ怒リニ堪ヘスシテ之ヲ殺シタリトセンカ、此二例ニ  
 於ケル所爲ハ同ク故殺ニシテ其本人ハ常ニ故殺罪ノ犯人ナリ、然レ  
 第二例ノ故殺ハ其罪第一例ノ者ヨリ輕キヤ智者ヲ待テ後チ知ラ  
 サル可シ從テ同種ノ者ニ係ルキト雖モ罪ノ度ニ輕重アルヲ看ル可  
 キナリ、サテ同種ノ罪ニシテ其度ニ輕重アリ而シテ罪其輕キニ屬ス  
 ルキハ其刑モ亦輕カラサル可ラス、是レ其我第四章ノ表題ニ所謂ル  
 減輕ノ因テ起リタル所以ナリ、然リ而シテ此罪ノ度輕キヲ致ス所以  
 ノ者或ハ前例ニ於ケルカ如ク罪ヲ來シタルノ原因ニアルアリ或ハ  
 犯人ノ身分若クハ其身体ノ能力又ハ其智識ノ能力上ニ在ルアリ或

ハ被害者ノ身分ニ在ルアリ或ハ犯罪以前若クハ以後ノ情狀中ニ在  
 ルアリテ蓋シ此ニ枚擧スルニ違アラズ是レ其宥恕減輕ト云ヒ自首  
 減輕ト云ヒ酌量減輕ト云ヒ又ハ或ル罪ニ關シテ特別ノ宥恕減輕ト  
 呼フ數種ノ減輕アル所以ナリトス尙ホ其細シキハ之ヲ各減輕ヲ講  
 スルニ際シテ説明ス可シ

然レモ今ヨリシテ余カ諸君ノ注意ヲ喚起セントスルノ一事ハ酌量  
 減輕ト他ノ減輕トノ區別是ナリ、右罪ノ度輕キヲ致ス所以ノ者ノ中  
 ニ就テ立法者自ラ之ヲ認メ豫シノ其場合ヲ定メテ刑ヲ減輕スルア  
 リ我輩ハ此罪ノ度ヲ事實上有罪ノ度ト名ツケ此減輕ヲ立法者自定  
 ノ減輕ト呼フ可シ宥恕減輕及ヒ自首減輕是ナリ、然ルニ此罪ノ度輕  
 キヲ致ス所以ノ者ノ中ニ就テ其現ハレ來ルヤ各犯人毎ニ異ニシテ  
 人智ヲ以テ豫シメ知ルヲ得サル者アリ此場合ニ於テハ立法者制

(第七十四條)



限ヲ立テ、此權ヲ分割シ之ヲ認メテ刑ヲ減輕スル丁チ裁判官ニ任  
ス我輩ハ此罪ノ度ヲ各犯有罪ノ度ト呼ビ此減輕ヲ判官權内ノ減輕  
ト名ツク酌量減輕是ナリ、此區別ハ甚々緊要ノモノニシテ余カ講義  
中屢之ヲ擧ケサルヲ得サレハ諸君希クハ明カニ之ヲ記セヨ

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

本節ハ我第四章中最モ重ナル場合ヲ制規シタル所トス、其不論罪ト  
宥恕減輕トチ同節中ニ掲ケタルハ此二者相連絡スル所アルヲ以テ  
之ヲ同時ニ制定スルハ蓋シ大ニ立法者ノ爲メニ便ナレハナリ、而シ  
テ其不論罪ト云ヒ宥恕減輕ト云フ字解ハ各本條ノ講說ヲ待テ明カ  
ナラン

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非  
サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇  
ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲  
亦同シ

本條ハ責任ヲ構成スルノ一條件タル智識ヲ有シタリト雖モ動不動  
ヲ決定スルノ自由ヲ欠キタルカ爲メニ其所爲罪トナル能ハサル場  
合ヲ示シタルモノトス

甲ナル者アリ乙チシテ強テ兇器ヲ持セシメ且ツ其手ヲ執リテ丙チ  
斬ラシメタリ而シテ乙ハ其臂力固ヨリ劣弱ナルカ爲メニ甲ノ此暴  
行ニ抗抵シ得サリキ

甲アリ白刃ヲ晃メカシテ乙ニ迫テ曰ク汝今丙カ住居スル家ニ放火  
セスンハ此刀忽チ汝ノ頭ヲ斷ツ可シト乙ハ他ニ之ヲ避クルニ由ナ  
クシテ其非行ヲ顧ミルニ違アラズ遂ニ火ヲ放チタリ

(第七十五條)



大洋ニ航スルノ巨船颶風ニ遇フテ覆没シタルニ際シ乗客數人ハ此巨船附属ノ小舟ニ依テ溺死ヲ脱カレントセシカ他ノ後レテ舟ニ上ラントスル者ノ臂ヲ斬リ指ヲ斷チテ己等獨リ危難ヲ免カレタリ右第一例ノ場合ニ於テ乙者ハ加害者タルヨリハ寧ロ純粹ノ被害者ニシテ恰モ其持セシメラレタル兇器ト一般甲者カ罪惡ヲ行フ爲メノ器械ト爲リタルニ過キス故ニ責任ヲ構成スルノ一條件タル爲メ爲テ決定スルノ自由ハ毫末モ存セサレハ其所爲罪トナルヲ得サルヤ勿論ナリ我輩ハ斯クノ如キ場合ノ強制ヲ名ケテ有形的ノ強制ト云フ何トナレハ其結果直接ニ身体ノ自由ヲ束縛スルニアルヲ以テ其心ノ自由ヲ論スルニ違アラサレハナリ然ルニ第二第三例ノ場合ハ前段ト同シカラサル所アリ此場合ノ強制ハ之ヲ無形的ノ強制ト呼フ何トナレハ其所業ハ固ヨリ有形ナリ

ト雖モ其結果ハ之ヲ受クル者ノ心ニ及ヒテ其心ノ自由ヲ束縛スルニアレハナリ而シテ此無形的ノ強制ヲ受ケテ火ヲ放チタル者ノ如キ舟ニ依テ己等獨リ危急ヲ免ガレタル者ノ如キ己レ死スルカ將タ人ニ禍ヒスルカ二者必ス其一ニ處セサルヲ得サレハ爲不爲ヲ決定スルノ自由ハ甚シキ制限ヲ受ケタリト云フ可シ然シナカラ尙ホ此狹隘ナル區域中ニ在テ擇フヲ得レハ第一例ノ場合ニ於ケルカ如ク自由ノ分子ハ毫末モ存セスト云フニ非ス是其此所爲ヲ罪トシ論ス可キヤ否ヤニ關シ疑義ヲ生セシメ易キノ點ニシテ古昔立法者及ヒ學者ノ躊躇シテ決スル能ハサリシ所以ナリ

然リ而シテ此疑義ヲ來スノ原因ハ重モニ道德ト法律トヲ混スルニアレハ先ツ此點ヲ辨別セサル可カラス本來道德ヨリ論スレハ自己ノ死ヲ避クルカ爲メニ禍害ヲ人ニ移ス如キハ不仁不義智モナク勇

(第七十五條)



モナク最モ憎ム可ク最モ罪ス可キノ所行タリ、然リト雖モ不義ノ奴  
トナランヨリハ寧ロ死ニ就テ憾ミトセサルハ仁人勇士ノ行狀ニシ  
テ我ヨリ我ニ對シテ之ヲ責ム可キモ立法者ヨリ人ニ對シテ之ヲ責  
ムルヲ得サルナリ、即チ立法者ハ人類ニ對シ其仁ナラス勇ナラスト  
言テ之ヲ罰スルヲ得サルモノトス、何トナレハ立法者タル者ハ須  
カラク人類ノ智愚強弱賢不肖ヲ平均シ其平均ニ從テ法ヲ立サル可  
カラカレハナリ、故ニ本論ヲ定ムルニハ先ツ道德仁義ノ行ヒナシト  
言テ人ヲ罪スルノ思想ヲ脱セサル可カラス、若シ果シテ能ク此思想  
ヲ脱スルヲ得ハ法律上ノ論點判然トシテ見ハレ來リ其問題ハ左  
ノ一言ニ歸スルヲ着ル可シ曰ク二中擇一ノ間ニ制限セラレタル自  
由ハ尙ホ責任ヲ構成スルニ足ルヤ如何ント  
サテ問題ニシテ斯クノ如ク簡單ニ現ハレ來レハ之ヲ決スルヲ甚ク

難キニ非ス止タ自由ヲ束縛シタル其束縛ノ度如何ンテ問フニアル  
ノミ、束縛ニシテ小ナラン歟其自由ハ固ヨリ責任ヲ構成スルニ足ル  
可シ然レモ若シ束縛大ナラン歟自由ノ一分子ハ尙ホ存スト雖モ責任  
ヲ構成スルニ足ラス從テ之ヲ受ケテ爲シタルノ所爲ハ罪トナルヲ  
ヲ得サル可シ何トナレハ束縛甚クシキ其結果ハ自由ヲ毫末モ存在  
セシメサルト同一ニ歸スレハナリ、試ミニ看ヨ二箇ノ鐵檻ヲ作り人  
ニ命シテ汝此檻ニ入レ若シ之ヲ欲セスンハ彼檻ニ入レト云ハンコ  
此人ハ二中一ヲ擇フヲ得ル故ニ尙ホ自由アリト云フヲ得ヘキ  
ヤ智者ヲ待テ後ヲ知ラサル可シ、サレハ右ニ所謂ル第二第三例ノ場  
合ノ如キニ於テハ自由ノ一分子ハ尙ホアリト雖モ無キト一般ニシ  
テ責任ヲ構成スルニ足ルノ自由アリト云フヲ得ス從テ彼レ火ヲ  
放チタル者及ヒ舟ニ依テ獨リ危害ヲ脱レタル者ノ所爲ノ如キハ罪

(第七十五條)



トナルヲ得サルナリ、是レ其我第七十五條ニ於テ強制ノ有形タルト無形タルトヲ分タス凡ソ抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲又ハ天災若クハ意外ノ變ニ係リ危難ヲ避クルカ爲メニ出タルノ所爲ハ之ヲ罪トシ論セサル所以ナリ、而シテ有形ノ強制ニ係ル時ノ如キハ固ヨリ明白ニシテ別ニ立法者ノ制定ヲ待ツヲ要セサレハ本條ノ如キハ唯々無形的ノ強制ノ場合ノミヲ目的トシテ制定セラレタリト云フモ蓋シ不可ナカル可キ歟

以上ノ説明ニ由テ本條不論罪ノ理由蓋シ明カナリ故ニ是ヨリ本條ノ正文ニ就テ講説ス可シ

第一項抗拒ス可カラサル強制トハ何ソヤ○抗拒ス可カラサル強制トハ之ヲ受クル者ノ身体ニ及フト心ニ及フトヲ問ハス抵抗ノ拒キ止ムルコトヲ得サル暴行威迫ヲ謂フ故ニ先ツ第一ニ他ニ此暴行威

迫ヲ避クルノ手段ナキヲ要ス若シ此手段ニシテアルアラハ开ハ抗拒ス可カラサルニ非サルナリ、又第二ニハ此暴行威迫ヨリ出ル危害ノ甚々大ニシテ且ツ現在ナルヲ要ス若シ此危害ノ甚々怖ル可キ者ニ非サルカ或ハ將來ノ危害ニ係ルキハ开ハ抗拒ス可カラサル強制ニ非サルナリ、然レモ個ハ大則ヲ示シタル迄ニシテ其果シテ避クルノ手段ナカリシヤ危害ノ實ニ大ナリシヤ現在ナリシヤヲ定ムルハ一ニ事實ノ裁判官ニアリトス、裁判官ハ須カラク強制ヲ受ケタリト陳スル者ノ年齢、稟性、氣力、体力、教育、地位等ニ就テ洩ス所ナク視察シ情狀ヲ斟酌シテ判定セサル可ラサルナリ、然リ而シテ法律ノ正文ハ簡單ニシテ暴行威迫ノ避ク可ラサルヲ危害ノ大ナルヲ現在ナルヲ等細カニ之ヲ明記セサルニ我輩ハ尙ホ之ヲ言フヲ得裁判官モ亦之ニ依ラサル可ラサルハ何ソヤ蓋シ抗拒ス可ラサルト云ヒ其意

(第七十五條)



ニ非サルノ所爲ト云フ數語中ニ皆ナ是等ノ條件ヲ包含スレハナリ  
 其意ニ非サルノ所爲トハ如何シ○茲ニ最モ注目セサル可ラサルノ  
 事ハ此條ニ所謂ル其意ニ非サルノ所爲ト第七十七條ノ罪ヲ犯ス意  
 ナキノ所爲トノ義解ヲ混同ス可カラサルヲ是ナリ、兩條共ニ意ニ非  
 サルノ所爲ト言ヒ意ナキノ所爲ト言テ殆ント同種ノ語ヲ用ヒタリ  
 ト雖此義理ニ至テハ大ニ同シカラス、七十七條ノ罪ヲ犯ス意ナキ  
 ノ所爲トハ例ヘハ人ノ生命ヲ絶ツノ意ナカリシモ其所爲ヨリ人死  
 シタリ、家屋ヲ燒燬スルノ意ナカリシモ其所爲ヨリ家燒ケタリト云  
 フノ場合ニシテ徹頭徹尾人ヲ殺スノ意又ハ家ヲ燒クノ意ナキ者ナ  
 リ、然ルニ我七十五條ハ甲者乙ヨリ威迫セラレテ丙ヲ殺スカ如キ又  
 ハ其家ヲ燒クカ如キ場合ヲ想像シタル者ニノ假令ヒ乙者ノ威迫ア  
 リタルニモセヨ己レ自ラ刀ヲ採リテ丙者ヲ斬リ又ハ火ヲ採リテ現

ニ家屋ニ放チタル者ナレハ其人ヲ殺スノ意又ハ家ヲ燒ク意ノアリ  
 タルハ固ヨリ免レサル所ナリ、故ニ其意ニ非サルノ所爲トハ罪ヲ犯  
 ス意ナキトノ謂ヒニ非スシテ大ニ其指ス所ノ異ナルヲ看ル可シ、又  
 若シ此二語ヲシテ其義理相同シカラシメハ我立法者カ特別ニ此二  
 條ヲ制定シタルノ要ヲ知ル能ハサル可キナリ、サレハ此ニ其ノ意ニ  
 非サルノ所爲トハ如何ナル意義ヲ有スルノ語ナルヤト尋ルニ原ト  
 是レ抗拒ス可カラサル強制ノ爲メニ爲シタル所業ハ罪トシ論セス  
 ト云フノ理ヲ明確ナラシムル爲メニ出タルノ語ニシテ其本志ニ非  
 サルノ所爲ト云フノ義ナリ、之ヲ學問上ノ語ヲ以テ譯スレハ爲スト  
 爲サルノ自由ナキヨリ出タル所爲ト云フノ義ナリ、而シテ本條罪  
 トシ論セサル所以ハ此爲不爲ヲ決定スル自由ノ欠乏シタルニ因ル  
 モノニシテ若シ此自由アリタランニハ假令ヒ如何ナル強制ニ遇ヘ

(第七十五條)



ハトテ其所爲ハ常ニ罪ヲ以テ論セサル可カラス故ニ其意ニ非ハル  
 ノ所爲ノ語即チ爲スト爲サマルノ自由ナキヨリ出タル所爲ノ語ハ  
 本條不論罪ノ理ノ歸着スル所ニシテ本條ノ主眼ナリ我刑法草案ノ  
 佛文ニ係ル者ニハ其意ニ非サルノ六字ヲ載セサリキ是レ抗拒ス可  
 カラサルトノ語中ニ暴行威迫ノ避ク可カラサルヲ危害ノ大ニシテ  
 且ツ現在ナルヲ即チ自由ノ欠乏シタルヲハ充分ニ含蓄セリト認メ  
 シニ因ルナラン然ルニ審査修正案ヨリ此語ヲ見ルモノハ蓋シ本條  
 罪ヲ以テ論セサル所以ハ爲スト爲サマルノ自由ノ欠乏セサルニ因  
 ルヲ益々明ラカニスル爲メニ出シモノ歟又以テ此語ヲ解スル爲  
 メノ參考ノ資ト爲ス可シ  
 強制ノ因ル所口他人カ害ヲ受クルニアルト又ハ財産ニ害ヲ受クル  
 ニアルトハ如何ノ例ヘハ甲者乙ヨリシテ汝誰某ヲ殺ス可シ然ラス

ソハ我直チニ汝ノ兒子ヲ殺ス可シト威迫セラレ又ハ汝直チニ是  
 ヲノ文書ヲ偽造ス可シ若シ肯ンセスンハ我レ直チニ汝ノ家ニ火ヲ  
 放ツヘシト迫ラレタル場合ニ於テ甲若シ果シテ人ヲ殺シ若クハ文  
 書ヲ偽造シタルトキ其所爲ハ尙ホ我七十五條ノ不論罪ニ係ルヤ如  
 何ン○此問題ハ本條第二項ニハ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スル  
 ニ出タル所爲ト明記シアレト第一項ノ文ハ甚ダ簡單ニシテ身體財  
 産又ハ他人ヲ救護スルニ係ルト等ヲ區別シタル明文ナキヨリ出ル  
 所ノ疑問ナリトス而シテ余ハ之ニ答ヘテ自己ノ身體財産ニ害ヲ受  
 クルト他人カ害ヲ受クルトト別タス止マ其意ニ非サルノ所爲  
 ナルヤ即チ動不動爲不爲ヲ決定スル自由ナキヨリ出タル所爲ナル  
 ヤ否ヤヲ審按シ若シ此自由ナカリセハ常ニ罪ヲ論セスト云ハンノ  
 ミ、本來我七十五條ノ不論罪ヲ適用スルニ當テハ曩キニ略々論シタ  
 (第七十五條)



ルカ如ク必スヤ強制セラレタル者カ受ケントスル所ノ害ト因テ以テ他ニ加ヘントスル所ノ害トテ比較セサル可ラス假令ヒ自己ノ身体ニ害ヲ受クルキト雖モ其害小ニシテ却テ加ヘントスル所ノ害極メテ大ナルキハ不論罪ヲ適用スルヲ得サルナリ何トナレハ此ニ爲スト爲サ、ルノ自由欠乏セリト云フヲ得サルヲ以テ其意ニ非サルノ所爲ニ非サレハナリ又自己ノ財産若クハ他人カ害ヲ受クルニ係ルキト雖モ此財産又ハ他人タル自己ヲ爲メニ極メテ貴重ニシテ自己ノ身体ニモ易ヘ難キホトノ者ナラハ之ヲ救護スルニ出タル所爲ハ常ニ罪ヲ以テ論セスト云ハサルヲ得ス何トナレハ斯カル場合ニ於テハ爲スト爲サ、ルノ自由全ク欠乏スレハナリ之ヲ要スルニ本條不論罪ノ如キニ於テ強制ノ因ル所自己ノ身体ニ害ヲ受クルニアルカ又ハ財産若クハ他人カ害ヲ受クルニアルカヲ區別セントスルハ



欠

MISSING



スレハ犯罪ノ大概ハ犯意ヲ以テ必要ナル條件ト爲サベルハナシ即チ犯意ナキモノハ罪トシ論セサルコト多キニ居ル例ハ竊盜ノ如キ其窃取スル物件他人ノ所有物ナルト之ヲ取り去ルト惡意ヲ以テスルトノ三條件ヲ必要トスルモノニシテ此條件ノ一ヲ欠クハ罪トナラス故ニ今友人ノ家ニ至リ書物ヲ借ルノ意ニテ持去リタル如キ其書物ノ他人ノ所有物タルコト之ヲ持去ルコトノ二條件ヲ充タスト雖モ惡意ノ一條件ヲ欠クテ以テ罪トナラサルカ如キ是ナリ其他強盜詐欺取財偽造文書ノ罪ノ如キ實ニ例示ニ違アラス故ニ犯罪ハ大抵犯意ヲ以テ必要ナル條件トナスモノトス其レ然リ然ルト雖モ此犯意ナクシテ而シテ罪トナルモノアルヲ以テ之ヲ見レハ罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ヲ罰セサルハ責任ナキニ非スシテ全ク他ノ理由ニ因ルモノナルコト明カナリ果シテ然ラハ如何ナル理由ニ基クヤテ講究セ

(第七十七條)



サル可ラサルナリ

五百四

抑モ罪ヲ犯スノ意ナキモノハ之ヲ罰セサル所以ハ其所爲タル社會  
ヲ害スルノ結果ハ則チ之レアリト雖モ道德ニ背反スルノ點ナキヲ  
以テナリ今其レ吾人ノ所業中毫モ道德ニ背反セサルニ往々社會ヲ  
害スルモノナキニ非ル可シ若シ悉ク之ヲ罰スルニ於テハ道德ニ背  
キ社會ヲ害スルノ二點ヲ以テ基礎トスル社會刑罰權ノ區域ヲ紛亂  
シ專横無姿ノ所爲ナリト言ハサルヲ得ス故ニ曰ク犯意ナキノ所爲  
ヲ罰セサルモノハ道德ニ背反スルノ一要件ヲ欠クヲ以テナリ  
斯ク論シ來ラハ本條但書ニ云々スル如ク犯意ナキモ猶ホ之ヲ罰ス  
ルモノト數歩ノ間前後相矛盾スルカ如シ然リト雖モ精密ニ之ヲ研  
究スル時ハ決シテ其ノ然ラサルヲ發見スルヲ得ヘシ凡テ人ノ社會  
ヲナスヤ特立獨行スルモノニ非ス故ニ事々物々極メテ注意ヲ加ヘ

以テ社會ヲ害セサラント勉メサル可ラス苟モ些少ノ不注意アル  
ヤコレヨリ不測ノ大害ヲ惹起スルト比々トシテ之レアリ例ヘハ爰  
ニ火ヲ烈風ノ日ニ失スルアラハ素ヨリ無意ニ出テタルモノナリト  
雖モ其結果タル東京全市街ヲシテ灰燼ニ歸セシムルトナシトナサ  
ス又タ或ハ穴ヲ道路ニ鑿テ暗夜ニ點燈ヲ遺レタルニ於テハ人ノ之  
レニ墜落シテ貴重ノ性命ヲ失フノ恐レナシトナサス是等ハ即チ其  
初メ些少ノ不注意ニ過キスト雖モ其レガ爲メニ怖ル可キ大害ヲ來  
タスモノナリ故ニ人ノ社會ニ在ルヤ意ヲ鎖末ノ事ニ注キ毫釐千里  
ヲ謬マルナキヲ力ムルノ義務アリ若シ此義務ヲ怠ルニ於テハ即チ  
正ニ道德ニ乖戾スルモノト言ハサルヲ得サルナリ故ニ一般ノ場合  
ニ於テハ犯意ナキノ所爲ハ假令社會ヲ害スルモ道德ニ背クノ點ナ  
キヲ以テ之ヲ罰セスト雖モ或ル場合ニ於テハ社會ヲ害シ并セテ道

(第七十七條)

五百五



徳ニ背反スルヲ以テ之ヲ罪トシ論セサル可ラサルノ結果ヲ生スルナリ  
 罪ヲ犯スノ意ト其理由トヲ混ス可ラス罪ヲ犯スニハ君父ノ爲メニ  
 シ或ハ自己ノ爲メニスル等ノ如キ理由アリ而シテ已ニ述ヘタル如ク  
 罪ヲ犯スノ意ハ罪ヲ構造スルニ必用ナラス罪ヲ犯スノ理由ニ至テ  
 ハ毫モ關係スル所ナキナリ然リト雖此二者ハ刑ヲ輕重セシムル  
 點ニ至テハ大ニ與テ力アルモノトス

本條第一項ハ有意犯無意犯ノ區別ヲ爲セシモノナリト雖何レカ  
 有意犯ニシテ何レカ無意犯タルヤ刑法中曾テ明示セサルニ因リ之  
 ナ知ル能ハス故ニ裁判官ハ宜ク理論ニ因テ區別ス可キナリ  
 茲ニ注意ヲ要スルコトアリ重罪ハ總テ有意犯ニシテ無意犯ナシ輕罪  
 ハ無意犯アレド多クハ有意犯ナリ違警罪ハ大概テ無意犯ニシテ有  
 意犯ハ殆ト稀ナルコト是ナリ

第二項ハ第一項中ニ自ラ含蓄スルコトナレド明瞭ナルヲ要スル爲メ  
 此ニ掲載シタルモノニシテ罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタ  
 ルトハ例ヘハ有夫ノ婦タルヲ知ラスシテ密通スル如キ是ナリ

第三項モ第一項中ニ含蓄スルモノナリ罪本重カル可クシテ犯ス時  
 知ラサルトハ例ヘハ他人ト思惟シテ殺害セシニ豈ニ圖ラシヤ父若  
 シハ母ナリシ時ノ如キ是ナリ

第四項本項ヲ解スルモノ或ハ曰ク法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯ス  
 ノ意ナシト爲スコトヲ得サル所以ハ世間何人ト雖法律ヲ知ラサル  
 モノト見做ス可ト能ハス頒布セラレタル法律ハ必ス之ヲ知ルモノト  
 見做サ、ル可ラサレハナリト若シ此說ノ如クシハコレ一ノ推測ニ  
 シテ世人ハ法律ヲ知リタルモノトノ推測ヨリ成レルモノト言ハサ  
 ル可ラス苟モ之ヲ推測ヨリ成レルモノトスル時ハ下ニ陳ル如キノ

(第七十七條)



結果ヲ生ス可シ抑モ推測ナルモノハ一般ヨリシテ特別ニ及ブモノナリ即チ一般ノ場合ハ此ノ如クナルヲ以テ特別ノ場合モ亦タ此ノ如クナラサル可ラスト推測スルモノナリ然リ而シテ今實際ノ形況ヲ觀察スルニ法律ヲ知ラサルモノハ殆ト一般ノ有様ナルカ如シ例ヘハ今法律ヲ適用スルヲ以テ任トスル裁判官ニシテ猶且ツ悉ク法律ヲ知了セリト云フト能ハス況ンヤ農ニ工ニ商ニ各專務トスル處アル通常人ニ於テチヤ故ニ一般ノ有様ヨリ推測ヲ下マスハ人民ハ法律ヲ知ラサルモノト爲サ、ルヲ得サルナリ或者ノ一般人民ヲ以テ法律ヲ知リタルモノト推測スルハ余レ其基ク處ヲ知ル能ハス畢竟探ルニ足サルノ誤説ナリトス

然ラハ則チ本項ハ如何ニ之ヲ解釋ス可キ乎曰ク一旦法律ヲ頒布シ人民ヲシテ之ヲ知ラシムルノ時間ヲ經過スルニ於テハ之ヲ知ルト

知ラサルトニ論ナク皆チ法律ヲ適用スルノ意ナリ

猶ホ一步ヲ進メテ法律ヲ知ルト知ラサルトニ論ナク之ヲ適用スルハ如何ナル理由ニ依ルヤノ問題ヲ論究セサル可ラス夫レ一般ノ重罪ニ係ル時ハ何レノ國何レノ時ヲ問ハス瘋癲白痴ニ非サルヨリハ皆其良心ニ照シテ不徳ノ所業ナルヲ知ル可シ既ニ之ヲ知リツ、猶ホ之ヲ行フコレ之ヲ罰スル所以ナリ例ヘハ謀殺竊盜放火ノ如キ之ヲ成文法ニ掲クルヲ要セスシテ皆チ人ノ爲ス可キトニ非サルヲ知レリ然ラハ之ヲ成文ニ掲ケテ以テ人ニ知ラシムルノ要ハ果シテ何レノ點ニ在ル乎曰ク是等ノ事ヲ成文ニ掲クル所以ノモノハ越ニ裁判官ノ專横ヲ爲シテ以テ吾人ノ自由ヲ妨害スルヲ避ケンカ爲メニ刑ト罪ヲ構成スルノ條件トチ明記シタルニ過キサルナリ

若シ罪ノ性質ハ時ニ因リ國ニ因リ或ハ其地ノ便益ノ爲メ其他ノ原



因コ因テ變スルモノナル時ハ其罪トナルヤ否ヤヲ知ラサルト問々之レアルヘシ此時ニ當テ外國ヨリ來リシモノハ其法律ヲ知ラストナス丁最モ至當ノ事タルカ如シ然ト雖モ若シ之ヲ許スニ於テハ其弊害ノ及フ處ロ大ニシテ到底法律ノ目的ヲ達スルヲ能ハサルニ至ラン故ニ法律上之ヲ許ス能ハス唯々裁判官ヲシテ多小斟酌セシムルノ一方法アル而已

以上講スル處ニシテ本條ノ大意ハ説了セリト雖モ爰ニ尙ホ研究スヘキ問題アリ即チ罪ヲ犯スノ意アリシモ意外ノ結果ノ生シタル時ハ如何例ヘハ人ヲ傷セント欲シ刀ヲ以テ毆撃セシニ死ニ至リタル如キ其傷セシトハ有意ナレモ死ニ至リタルトハ無意ナリ此場合ニ於テハ創傷ノ罪ノミ問フ可クシテ殺害ノトハ不問ニ附ス可キカ之ヲ決スルニハ左ノ區別ヲ明瞭ニ爲スヲ要スルナリ

一  
均  
心  
現  
也

第一生シタル事件所爲ノ避ク可ラサル結果ナル時ハ其事件ニ付キ犯スノ意ナシト爲ストチ得ス例ヘハ人ノ首ヲ斬ルルハ其人ノ死スルハ自然ノ結果ナルヲ以テ首ヲ斬ルノ意アリシモ之ヲ殺スノ意ナシト爲スチ得サルカ如キ是ナリ又人ノ入湯シタル際之レニ蓋ヲ爲シ火力ヲ増加シタルニ因リ其人ノ死シタル如キモ同一ナリ万一死セサルトアルモ通例ハ死ス可キモノナルヲ以テ殺スノ意ナシト爲スチ得サルナリ

第二生シタル事件所爲ノ偶然ノ結果ナル時ハ其事件ニ付キ犯スノ意アリト爲ストチ得ス例ヘハ人ノ住居セサル家屋ナリト信シテ放火セシニ適シ其中二人ノ在ルアリテ之レカ爲メ死シタル時ノ如キ放火ハ有意ニシテ殺害ハ無意即チ過失ナリ

第三生シタル事件所爲ノ豫想シ得可キ結果ナル時ハ其事件ニ付キ

(第七十七條)



犯スノ意ナシト爲スコテ得ス例ハ人ノ群集スル所ニ向テ發砲シタルカ如キ場合ニ於テハ如何ナル結果ノ生スルコアルモ皆其責ニ在セサル可ラス何トナレハ其結果ノ生スルコハ初メヨリ豫想シ得可ケレハナリ故ニ幼者又ハ老疾者ヲ猛獸多キ山野ニ遺棄スル如キハ遺棄ノ罪ニ非スシテ謀殺ノ罪ナリトス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

知覺精神ノ喪失スル原因ハ甚タ多ク預メ知リ難キ處ノモノアリ今裁判醫學上ヨリ云ハ、知覺精神ヲ喪失スルノ原因ハ皆ナ精神ノ病ニ在リ凡ソ此病ハ白痴瘋癲マニ「我國ニ於テ穩當ノ熟語ナキヲ以テ姑ラク原語ヲ用ユ」ノ三者トナス其白痴ト稱スルモノハ生レナカラニシテ事理ヲ識別スルノ腦力ヲ有セサルモノナリ而シテ之ヲ有

セサルノ度ニ多少ノ差アリ瘋癲ハ生來腦力ヲ有セシモ事ニ因リ病ヲ起メ遂ニ精神ヲ喪失シタルモノヲ云フ又「マニ」トハ定マレル或ル事件ニ偏シテ狂セルモノヲ云フ例ハ「一念放火若クハ殺人ノ事ニ及フヤ之レカ爲メニ制セラレテ其良智良能ヲ失ヒ他ノ事ハ統テ識別ノ腦力ヲ有スルモ此事ニ關シテハ全ク精神ヲ喪失セルモノナリ」以上ノ三者ハ知覺精神ヲ喪失スルノ原因ナレトモ此外亦タ太々多シシ神經病ノ如キ「ソムナムビリスム」睡眠中ノ動作ニシテ覺ムルノ後其所爲ヲ知ラサルモノヲ云フ過日ノ新聞紙ニ其實例ヲ載セタリ或ヒト妻ト共ニ臥房ニ入リシニ夜半蹶起魚刀ヲ以テ其妻ヲ殺シ翌朝ニ至テ初メテ之ヲ知リシト云フノ如キ其他枚擧ニ遑アラヌ又タ婦女ノ懷胎モ時ニ或ハ精神ヲ喪失セシムルノ原因トナルコトアリト云フ是等ノ事ノ原因ヲナシテ罪トナルヘキ事實ヲナスモノハ如何ニ之

(第七十八條)



ナ處分ス可キ乎我輩ハ嘗テ罪ヲ構成スルニハ必ス善惡是非ヲ區別  
スルノ智識ト爲スト爲サ、ルトテ決定スル自由アルヲ必要トシ  
若シ其一ヲ缺ク時ハ責任ナキカ故ニ罪トシ論ス可カラサルヲ云  
ヘリ此病ニ罹ルモノハ則チ智識或ハ自由ヲ有セルモノニ非ス其智  
識自由ヲ有セサルモノナラハ則チ責任ナキカ故ニ罪トシ論スル  
ヲ得スコレ本條ニ云々スル所以ナリ

此病ノ原因ヲ探クルハ裁判醫學ニ因ラサル可ラス而シテ之ヲ探ル  
實ニ容易ノ業ニ非ル可シ然レモ立法官裁判官ノ爲ス所ハ亦タ難キ  
ニ非サルナリ何トナレハ立法官裁判官ハ其病ノ何タルヲ知ルヲ要  
スルニ非スシテ其病ノ結果如何ヲ見ルヲ以テ足レリトスレハナリ  
然レモ爰ニ裁判官カ最モ注意ヲ要ス可キモノハ充分智識ヲ有スル  
ノ人、智覺精神ヲ喪失スル爲テ以テ法網ヲ脱レノヲ圖ルモノ

アリ又之レニ反シテ全ク知覺精神ヲ喪失セルモノニシテ完全ナル  
智識ヲ有セルカ如クニ見ユルモノアル是ナリ若シ裁判官ニシテ之  
レカ鑒定ヲ誤ルニ於テハ姦邪罰ヲ免レテ無辜冤ヲ含ムノ危害ヲ生  
スルモノトス

智識ノ喪失  
ノ場合

爰ニ論究セサル可ラサル疑問ハ醉狂者カ罪トナル可キ事實ヲ行ヒ  
タル場合コレナリ或ハ曰ク醉狂ナルモノハ一時其智識ヲ失フ者  
ニシテ其智識ヲ失セル時間ノ限界ヲ知ル能ハサル而已ナラス概テ  
人ノ自ラ求ムルモノニシテ其一般ノ場合ハ全ク智識ト自由トヲ喪  
失セルモノニ非サルカ故ニ其所爲ヨリ生スル責任ハ常ニ負擔セサ  
ル可ラサルナリトコレ疎漏ノ論ニシテ毫モ採ルニ足ルモノナシ假  
令醉狂ハ自ラ求ムル處ナルニモセヨ全ク知覺精神ヲ喪失スルノ場  
合ナシトナサ、ルナリ請フ細カニ之ヲ區別シテ以テ論究セン若シ

(第七十八條)



其醉狂不意ニ出テ其人ノ過失モナク又タ自ラ求メテ爲シタルニ非  
 ル時例ヘハ他人ノ誑惑スル所トナリ念ハス昏醉シタルカ如キ或ハ  
 化學試験ヲ爲スニ際シ偶然アルコト質ヲ嗅キタルカ爲メニ昏醉  
 シタル時ノ如キ苟モ其智識ト自由ヲ喪亡セルノ度ニ達シタルト本  
 條ヲ適用ス可キモノナルト固ヨリ論ヲ俟タサルナリ然ルニ醉狂カ  
 其人ノ過チニ出テタル時例ヘハ自ラ好テ酒ヲ飲ミ遂ニ其知覺精神  
 ナ喪失シタルカ如キ或ハ本條ヲ適用スルヲ能ハスト云フモノアレ  
 純粹ノ理論ヨリセハ同シク知覺精神ヲ喪失セルモノニシテ罪ヲ  
 以テ論スルヲ能ハサルナリ或ハ曰ク其人自ラ昏醉スルヲ豫知ス  
 ルモノナルカ故ニ其責任ヲ歸セサル可ラサルナリト然レモコレニ事  
 件ヲ混同シテ立論シタルモノナリ即チ酒ヲ飲ミタルト酒ヲ飲テ  
 爲シタルトトチ混同シタルモノトス若シ其二事件ヲ特別ニ論スル

ニ於テハ理論ニ適合スヘシト雖モ之レヲ混同セルハ大ニ理論ニ適  
 セサルモノト爲サ、ルヲ得ヌ又タ最終ニ論ス可キモノハ人其猛勇  
 ノ氣ヲ増シテ以テ罪ヲ犯サント欲シ因テ酒ヲ飲ミ皆醉ニ乘シテ罪  
 トナルヘキ事實ヲナシタル場合はナリコレ其犯罪ノ當時ハ仮令知  
 覺精神ヲ喪失シタルモ酒ヲ以テ犯罪ノ機械トナセルモノナレハ必  
 ス罪トシテ論セサル可ラサルナリ  
 本條ノ所謂知覺精神ヲ喪失シタルトチ証明スルノ被害<sup>者</sup>人ノ任ナリ  
 トス又タ本條ニ掲クル所ハ犯罪ノ當時知覺精神ヲ喪失シタル場合  
 ニシテ犯罪後即裁判中ニ喪失シタル場合ハ治罪法第二百六十八條  
 ニ在リ裁判宣告後ニ喪失シタル場合ハ治罪法ニ規定ナシト雖モ此  
 場合ニ於テハ刑ノ執行ヲ停止セサル可ラサルナリ

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ

(第七十九條)



論セス但滿八歲以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歲ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

本條モ亦前條ノ如ク善惡ヲ辨別スルノ智識ヲ缺キ從テ刑事上ノ責任ナキヨリ無罪トナルモノナリ

善惡是非ヲ辨別スルノ智識ハ人類特有ノ天稟ナリト雖モ一時ニ發育スルモノニ非ス軀幹ノ生長ニ伴レテ漸次ニ發達スルモノナリ、サレハ幼稚ノ時ハ多少ノ智識ハ則チ之アレトモ未ダ事ノ善惡正邪ヲ區別スルヲ能ハスシテ從テ刑事上ノ責任ナキヤ明カナレハ其果シテ善惡ヲ辨別セシヤ否ヤヲ問フヲ要セス必ス之ヲ無罪ト爲サ、ル可カラズ又稍智識ノ開發スルモ其充分ノ度ニ達セサル間ハ刑事上ノ責任モ充分ナルヲ得ス從テ其度ニ進シ刑ヲ減輕セサル可カラズ是レ其本條以下數條ノ因テ起ル所以ナリ

此責任ノ有無輕重ヲ定ムルノ方法ニアリ其第一ハ責任ノ有無輕重ヲ決スルヲ一ニ裁判官ニ委任スルモノ是ナリ其理由ニ曰ク一旦智識ノ萌芽ノ發スルヤ其成長ハ草木ノ生長ニ於ケルカ如ク晝夜片時モ止ムヲナク又國ノ風俗ニ由リ氣候ニ由リ其人ノ性質ニ由リ教育ニ由リ其他無數ノ原因ニ因リ遲速ノ差異アルヲ猶ホ草木ノ地味氣候培養ノ如何ニ隨テ其繁茂ノ度ヲ異ニスルカ如シ絲是立法者ハ其人ノ智識アリテ爲セルモノナルヤ否ヤノ事ヲ悉皆裁判官ノ判定ニ放任セサル可カラズト、又其第二方法ハ立法者豫メ其國ノ風俗氣候教育ノ度等ニ隨テ刑法ノ處分ヲ異ニスル年齡ノ限界ヲ定ムルモノ是ナリ其理由ニ曰ク善惡是非ヲ辨別スル智識ノ有無及ヒ其度ハ概チ人ノ年齢ニ從テ之ヲ知ルヲ得故ニ立法者ハ豫メ此年齢ヲ定メテ以テ裁判官ニ過大ノ權ヲ與ヘサルヲ要スト



第一ノ方法ハ甚々簡單ナルカ如クナレモ其實反テ錯雜ト不同トナ  
免レサル而已ナラス立法者ハ自ラ其權ヲ拋棄シテ裁判官ノ專横ヲ  
招クニ至ル可シ故ニ此方法ハ取ル可キモノニ非ス其第二ノ方法ニ  
至テハ中庸ニ隨テ推測ヲ立ツルモノナレハ時ニ或ハ其推測ノ誤リ  
ナキヲ保シ難シト雖モ然レモ此方法ヲ用キテ裁判官ニ與フルニ多  
少斟酌スルノ權ヲ以テセハ恐クハ之レニ過クルノ良法ハアラサル  
可シ

果シテ第二ノ方法ヲ用キントナラハ如何ニ其期限ヲ立ツ可キ乎曰  
ク其責任ノ有無及ヒ刑ヲ減輕ス可キ年齢ハ都テ之ヲ四期ニ分タサ  
ル可カラス乃チ第一期ハ其善惡是非ヲ識別スルノ腦力未タ發達セ  
サルヲ明瞭ニシテ疑フ可ラサルノ年齢トス例ヘハ生年甫メテ四五  
歳ノ幼童ニ在テハ其智識ナキヲ誰カ又タ諍ハンヤ世ニ所謂神童ト

雖モ爭テカ天下萬般ノ事物ニ付テ其是非善惡ヲ識別スルヲ得ン  
矧ンヤ一般幼稚ノ人ニ於テチヤ故ニ此期ニ在ルモノハ事ノ如何ト  
其人ノ如何トニ論ナク其罪ヲ論ス可キモノニ非ス第二期ノ年齢ハ  
第一期ヲ超ヘタルモノニシテ智識ノ有無判然タラス大ニ疑訝ノ存  
スル處口實際ニ徵スルニ非サルヨリハ之ヲ決シ得サルモノナレハ  
立法者ハ此點ニ付キ豫メ有罪無罪ヲ定ムルヲ能ハス全ク事實裁判  
官ノ認定ニ放任セサル可ラサルモノトス又此年齢ヲ超過シタルモ  
ノハ則チ第三期ニシテ粗ホ善惡是非ヲ識別スルノ腦力ヲ充備セル  
モノナリ然ラハ即チ此期ニ至ルモノハ直チニ極度ノ責任ヲ負ハシ  
ム可キ乎コレ不正ノ事ト云フ可シ何トナレハ知識ハ粗ホ充備セリ  
ト云フト雖モ未タ十分ノ度ニ達シタルニ非ルヲ以テ責任亦タ其度  
ニ隨テ減輕ス可キハ自然ノ道理ナリ故ニ殆ト充分ノ責任ヲ負ハシ



ム可シト雖凡亦タ多少輕減スル處ナカラサル可ラス其第四期ノ年齢ニ至レルモノハ則チ軀幹ト智識ト共ニ十全ノ度ニ達シタルモノナレハ亦タ十全ノ責任ヲ負ハシム可キモノトス然リ而シテ其各期ノ年齢ヲ規定スルニ當テハ專ラ氣候教育風俗ノ如何ヲ酌量ス可キモノニシテ立法者ノ尤モ注意ヲ要ス可キ處ナリトス我刑法ハ第七十九條第八十條第八十一條ニ於テ之ヲ規定セリ而シテ獨リ我刑法ノミナラス各國刑法ハ概テ此理ヲ推シテ規定シタルモノナリ

羅馬ニ於テハ人ノ年齢ヲ二期ニ分チ十歳以下ハ無罪トシ十歳以上ハ有罪トセリ而シテ當時ハ法律未タ開ケサルヲ以テ大罪即チ神及ヒ君主ニ對スル罪ノ如キハ十歳以下ノ幼者ト雖凡其所爲ノ惡シキヲ知ル可キモノトシテ之ヲ罰セリ佛國刑法ハ羅馬法ヲ基本ト爲セシヲ以テ同シク二期ニ分チ十六歳ヲ以テ之レカ分界トセリ伊太利ハ

五期ニ分チ日耳曼ハ三期ニ分テリ

我國ノ刑法ハ之ヲ四期ニ分ツ本條ハ則チ其第一期ノ場合ニシテ罪ヲ犯スルキ十二歳ニ滿タサル者ハ其罪ヲ論セストナス是レ余カ前ニ論シタル其智識ノ未タ發達セサルト明瞭疑フ可ラサルノ時期ナリ然リ而シテ茲ニ十二歳ト爲シタルモノハ我國人民ノ智識進歩ノ度ヲ計リテ定メタル處ナリトス學者ノ說ニ從ヘハ七年十四年二十一年トナスカ如ク七年ヲ以テ期限ト爲スヲ可トセリ羅馬ニ於テモ亦タ既ニ此論アリタリキ其然ル所以ノモノハ生理學上人ノ身体ハ七年毎ニ新陳替謝スト言ヘハナリ

本條ニ從ヘハ十二歳ニ滿タサル者ハ其所爲チ罪トシ論セサルニ因リ公訴ヲ起ス可ラスト雖凡八歳以上ノ者情狀ニ因リ懲治場ニ留置スルヲ得コレ畢竟父母ノ教育充分ナラサルヨリシテ斯ル所爲チ

(第七十九條)



行フ者ナレハ苟モ其監督ヲ怠ルニ於テハ終ニ社會ノ大害人トナル  
 ノ恐レアルニ因リ之ヲ豫防センカ爲メ懲治場ニ入ル、モノナリ  
 然ルニ罪ナキモノヲ懲治場ニ留置スルハ甚タ專横ニシテ社會ハ決  
 シテ此權ヲ有セサルカ如シト雖モ他ニ然ラサルノ理由アリテ存セ  
 リ夫レ父母其子ノ教育ヲ怠リタルカ爲メ將ニ社會ニ大害ヲ來スノ  
 人ヲラントスル時ハ父母ニ代テ之ヲ懲治矯正スルハ社會ノ任ナリ  
 又其幼者ト雖モ固ト不徳ノ所行アリシモノナレハ假令刑法上ノ制  
 裁ハ之レナキニモセヨ其ノ懲治矯正ヲ受クルニ當テハ之ヲ拒ムコ  
 能ハサルモノトス故ニ社會ノ之ヲ懲治場ニ入ル、ハ決シテ專横ノ  
 所爲ニ非スシテ正ニ其權ヲ行フモノナリ然リト雖モ之ヲ他ノ通常  
 ノ囚徒ト同一ノ場所ニ置カハ其惡風ニ感染シ却テ姦惡ノ人トナル  
 ヘンコレ猶ニ油ヲ注テ猛火ヲ拯ハント欲スルモノト同一ニシテ至

底其目的ヲ達スルコト能ハサルナリ故ニ宜シク之ヲ別居セシメ學校  
 等ヲ設ケテ以テ其良智良能ヲ盡陶セサル可ラス  
 懲治場ニ留置スルノ處分ハ行政司法何レノ官衙ニ於テ之ヲ命ス可  
 キヤ、或ハ以爲ラク行政權ヲ以テ之ヲ行フ可シト、蓋シ其理由ナキニ  
 非ス、先ツ本條ニハ單ニ懲治場ニ留置スルコトヲ得トノミアリテ裁判  
 所ニ於テ之ヲ命ス可キコトヲ明記セス又治罪手續上ヨリ見レハ檢察  
 官ハ有罪者ニ對シテ公訴ヲ起スノ權アレモ懲治場ニ留置ス可キ無  
 罪者ニ對シテ公訴スルノ權ナシ故ニ假令モ懲治場留置處分ハ裁判  
 所ニ於テ命ス可キモノトスルモ現時ノ治罪法ニアツテハ此留置ヲ  
 受クヘキ幼者ヲ裁判所ニ送致スルノ路ナシ、是レ其此處分ヲ以テ行  
 政權ニ屬スト解シタル所以ナリ、然レモ理論ヨリ推セハ懲治場留置  
 ハ苟モ人ヲ束縛シテ數年間獄ニ繫クモノナレハ人ノ權利ニ關スル



ト最モ大ナル處分ニシテ行政權ヲ以テ爲シ得ヘキトニアラス必ス  
ヤ司法權ノ決議ヲ經ヘキモノトス又我刑法佛文章按ニハ裁判所ニ  
於テ之ヲ命スルノ語アリテ爾後此語ヲ削除シタリト雖モ尙ホ立法  
者ノ精神ヲ窺ヒ知ルニ定ル故ニ我輩ハ一方ニ向テハ此處分ハ必ス  
裁判所ニ於テ命スヘキモノト論シ又一方ニ向テハ治罪法ニ於テ此  
處分ヲ受クヘキ者ヲ裁判所ニ送致スルノ路ヲ開カレントテ希望ス  
ルナリ

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歲以上十六歲ニ滿サル  
者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別  
ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ  
滿二十歲ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スル  
ヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑  
ニ二等ヲ減ス

本條ハ第二期ノ年齢ノ場合ニシテ十二歲以上十六歲ニ滿タサル者  
其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ知ルハ平時ノ智識ノ有無如何ニ  
依ルニ非ス現ニ行フタル所爲ニ就キ審案ス可キモノナリ而シテ十  
六歲未滿ノ者ハ是非ヲ辨別シタルヤ否ヤハ疑ヒノ年齢中ナルニ因  
リ辨別アリト爲スニハ檢察官ヨリ証明セサル可ラス例ヘハ此幼者  
ノ他人ノ物件ヲ盜取シテ之ヲ藏匿スルカ如キ此藏匿スルノ所爲ハ  
其惡シキヲ知ルカ故ニシテ即チ是非ヲ辨別シタルノ証ナリトス  
懲治場ニ留置スルノ事ハ殆ント前條ト全一ナリト雖モ又少シク異  
ナル所ナキニ非ス己ニ講セシ如ク前條ニハ被告人ヲ裁判所ニ送テ  
懲無場ニ入ル、ノ處分ヲ爲サシムル方法ナシト雖モ本條ニハ之レ



アリ即チ檢察官ハ被告人ノ是非ノ辨別ナカリシトチ知ルモ之ヲ辨別アリタルモノトシテ公訴スルキハ裁判所ニ於テ扱フ可キモノトナルナリ

是非ノ辨別アリテ犯シタル時ト雖モ丁年者ト同一ノ刑ヲ科セス宥恕シテ二等ヲ減輕スルモノナリ夫レ宥恕減輕ノ起ル所以ハ本章ノ初メニ於テ講セシ如ク元來罪アルハ責任アルカ故ニシテ其責任アル者ト雖モ豫メ謀テ犯シ或ハ充分ノ教育ヲ受ケ智識ヲ備ヘテ犯スヲアリ又ハ豫メ謀ラスシテ突然犯シ或ハ智識充分備ハラヌシテ犯スヲアリテ其責任ノ度ハ千差万別一定ナル能ハサルニ因リ隨テ罪ニ輕重アリ故ニ其輕キ者ニ就キ減輕ヲ施ス者ニシテ即チ其罪輕キニ因リ其刑ヲ減輕シテ至當ノ刑ヲ科スルニ外ナラス本條及ヒ次條ニ規定スル所ノ減輕ノ如キハ犯者幼年ニシテ智識未タ熟セサルヨ

リ責任充分ナラサルヲ以テ減輕スルモノナリ然ラハ則チ宥恕ノ文字ノ不適當ナルヤ知ル可キナリ何トナレハ宥恕トハ宥スノ文字ニシテ重キ罪アレハ之ヲ宥恕シテ減輕スルノ意ニ當レハナリ然リト雖モ是レ適當ノ文字ナキヲ以テ止ムヲ得ス使用シタルモノニシテ佛國刑法ノ如キモ亦宥恕ノ文字ヲ使用セリ

### 第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歲以上二十歲ニ滿サ

ル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

本條ハ第三期ノ年齢ノ場合ニシテ十六歲以上二十歲ニ滿タサル者ノ罪ハ是非ヲ弁別シテ犯シタルト否ヤトチ問ハス罰スルモノナリ是レ我刑法ハ十六歲ヲ以テ刑法上ノ丁年トナスカ故ナリ元來刑事上ノ丁年ハ民法上ノ丁年ニ比スレハ甚タ早キモノトス蓋シ民事ヲ扱フニハ充分ノ智識ヲ備フルヲ要スルト雖モ刑事上ニ在テハ善惡

(第八十一條)



邪正ヲ區別シ得可キノ智識ヲ備フルヲ以テ足レリト爲スヲ以テナ  
 リ善惡邪正ノ極度ハ三十歳以上四十歳ニ至ルモ之ヲ知ルヲ難シト  
 雖モ其概略ヲ知ルハ大凡十六歳以上ニテ足レリ然リト雖モ未タ充  
 分ノ智識ヲ備ヘサルヲ以テ一等ヲ減スルモノナリ  
 第四期ノ年齢即チ二十歳以上ニ至テハ如何ナル高齢ニ達スルモ減  
 輕スルヲナシ、人ノ高齢ニ至ルヤ老耄ニ陷ル者アリト雖モ之ヲ一般  
 ヨリ見ルハ高齢ニ至ルニ從ヒ智識輕驗ニ富ミ善惡邪正ノ區別モ  
 自ラ敏ナルヲ以テナリ

第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス

但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留  
 置スルヲ得

瘖啞者トハ聾啞兼帶スル者ノ謂ヒニシテ法律ノ之ヲ罰セサル所以  
 ハ醫師ノ説ニ依レハ人生レナカラ聾ナル者ハ未タ會テ他人ノ談話  
 ヲ聞カサレハ其談話ニ擬似シテ自ラ談話スルヲ得サルヲ以テ其  
 談話機常人ト異ナラサルモ必ス啞トナルモノナリト故ニ常ニ人ト  
 交際スル能ハサルヲ以テ是非ヲ辨別スルノ智識ナク隨テ責任ナキ  
 ニ因リ罰セサルモノトス然レモ情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間懲  
 治場ニ留置スルヲ得ルナリ

然ルニ瘖啞者ハ必ス是非ヲ辨別スル能ハサルモノ乎予屢接見シタ  
 ル瘖啞者中ニハ能ク智識ヲ備ヘ其意思ヲ通スルニ或ハ手眞似ヲ以  
 テシ或ハ書ヲ以テスル等言語ヲ用フルト異ナラサル者アリ殊ニ輓  
 近學校ヲ設ケテ之ヲ教育スルノ法アレハ瘖啞者モ亦常人ト同ク智  
 識ヲ備フルヲ得ルニ至ルヤ疑フ可ラサルナリ然レモ法文ニハ單

(第八十二條)



ニ瘖啞者ト記載シアルヲ以テ假令智識ヲ備フルモ瘖啞者タル以上ハ之ヲ罰スル能ハサルヘシ草案ニハ生來又ハ幼稚ノ時ヨリノ瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ之ヲ論セストアリシスノ如ク爲スモ尙ホ其寛ナルニ疑ヒアリ況ンヤ一般ノ瘖啞者ヲ罰セサルニ至テハ是非ヲ辨別シタル有罪者ヲ不問ニ付スルノ恐レナキ能ハサルナリ

說ヲ爲ス者或ハ曰ク瘖啞者ハ言語通セサルニ因リ事實ヲ審問シテ犯罪ヲ證明スル能ハサルヲ以テ罰ス可ラサルナリト此說誤レリ假令瘖啞者ノ犯罪ト雖モ之ヲ證明シ得可キ場合ナシト概言ス可ラス若シ夫レ證明シ能ハサルカ宜ク其理由ヲ以テ放免スヘキノミ

盲者ノ犯罪ハ之ヲ罰ス可キ乎如何盲者タルノ故ヲ以テ智識ヲ備ヘサルノ理ナキニ因リ常人ト同シク罰スルナリ

第八十三條 違警罪ハ滿十六歲以上二十歲ニ滿サル

者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス

滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ

本刑ニ一等ヲ減ス十二歲ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス

違警罪ニ係ル時ノミ犯罪者ノ丁年ヲ早クナセリ是レ立法者ノ制定ニ出テシモノニシテ別ニ理論ノ存スルニ非ス蓋シ違警罪ハ其刑輕キヲ以テ重罪輕罪ノ如ク宥恕ヲ施サ、ルモ害ナキヲ以テナリ

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減刑ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

本節ニ規定スル所ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通ノモノニシテ如何ナル場合ニ於テモ一般ニ適用スヘキモノナリト雖モ或ル場合ニ限

(第八十三條)(第三十四條)



リ適用スヘキ特別ノ不論罪及ヒ宥恕減輕アリ特別ノ不論罪トハ第三百十四條第三百十五條ニシテ刑法中他ニ此不論罪ナシ特別ノ宥恕減輕トハ第三百九條乃至第三百十二條及ヒ第三百十六條是レナリ又第五百十三條ノ親屬相容隠スル罪及ヒ第三百七十七條ノ親屬相盜ムノ罪ノ如キハ不論罪ニ似タリト雖モ其性質ハ宥恕減輕ニシテ即チ宥恕ニテ其刑ヲ減盡シタルモノナリ

(第二十五回)

第二節 自首減輕

諸君ヨ不論罪ト減輕トヲ混同スヘカラサルトハ余輩ノ屢辨スル所ニシテ不論罪ハ責任ナク隨テ罪ナキニ因リ刑ヲ斜セサルモノナレモ減輕ハ否ラス責任アリ隨テ罪アレモ他ニ已ムヘカラサル理由ノ

アルアリテ其刑ヲ減等スルモノナリ其之ヲ減輕スルヤ法律上ニ於テスル者ト裁判上ニ於テスル者トアリ裁判上ニ於テスル者トハ裁判官ノ意ノ如何ニ由リ減セント欲セハ減シ減セサラント欲セハ減セサルトテ得ル者ニシテ酌量減輕是レナリ法律上ニ於テスル者トハ法律ニ規定シテ之ヲ明示シ裁判官ノ意ヲ以テ左右スルヲ能ハサル者ニシテ即チ法律自ラ減等スルモノ是レナリ今其場合ヲ大別シテ二個トス

第一 道理上ヨリ減輕スル事

此道理上ヨリ起ル所ノ減輕ハ其減輕スヘキノ理由犯罪ノ前又ハ犯罪ノ時迄ニ生スル者ニシテ其場合六アリ(一)幼者ノ罪ヲ犯シタル時(二)暴行ヲ受ケ直ニ怒ヲ發シテ暴行人ヲ殺傷シタル時(三)本夫ノ姦夫姦婦ヲ姦所ニ於テ殺傷シタル時(四)晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅

(第八十四條)



ニ入ル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル時(五)親屬相容隠シタル時  
(六)親屬相盜ムノ時はレナリ

## 第二 公益上ヨリ減輕スル事

此公益上ヨリ起ル減輕ハ其減輕スヘキノ理由犯罪ノ後ニ生スル所  
ノ者ニシテ其場合六アリ(一)内亂ノ豫備又ハ隱謀ヲナシ未タ其事ヲ  
行ハサル前ニ於テ自首シタル時(二)貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受  
シテ本々行使セサル前ニ於テ自首シタル時(三)偽証ノ罪ヲ犯シ其事  
件ノ本々裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時(四)幼者ヲ略取  
誘拐シテ後之レト婚姻シタル時(五)誣告ヲナシ未タ被告人ノ推問ヲ  
始メサル前ニ於テ自首シタル時(六)自首減輕是レナリ  
是レニ由テ觀レハ自首減輕ハ法律上ノ減輕ノ一ニシテ其減輕ノ理  
由犯罪後ノ原因ヨリ生スル者ニシテ即チ公益上ヨリ減輕スル者ナ

リ

我刑法ハ自首減輕ヲ總則中ニ置キ一般ノ犯罪ニ適用スト雖モ歐洲  
各國ノ刑法ハ犯罪一般ニ付キ之ヲ用ユル者少ク概テ罪ノ性質ト社  
會ノ公益トニ關シ万止ムヲ得サル者ニ付テ用ルノミ現ニ佛國刑法  
ノ如キハ止タ内亂或ハ外患ニ關スル罪ノ豫備或ハ陰謀ヲ爲シ其事  
ヲ行ハサル前又ハ貨幣ヲ偽造變造シテ行使セサル前ニ於テ自首シ  
其犯罪ノ旨趣ト共犯者トヲ告知シ又ハ其犯罪發覺後ト雖モ共犯者  
ヲ逮捕スルヲ助ケタル時減輕スルノミナリ(佛國刑法第百八條第百  
三十八條)

學者自首減輕ヲ非難シテ曰ク犯罪ヲ捜査スル爲メ檢察官警察官等  
ノ役員アリテ之ヲ專務ト爲ス者ナレハ何ソ犯者ノ自首シタル者ヲ  
減輕スルノ法律ヲ設ケテ之ヲ誘導スルヲ要セシヤ且ツ夫レ自首者

## (第八十四條)



ヲ減輕シテ共犯者ヲ告ケシメ或ハ其逮捕ヲ助ケシムルヲ誘導スル時ハ是レ法律上ヨリ犯者ノ共ニ同盟シタル約束ニ背カシムル者ニシテ即チ互ヒノ信義ヲ破ラシムルヲ催ス者ナリ豈ニ之ヲ公明正大ノ法律ト云フヲ得ンヤ若シ夫レ自首者ニシテ情狀ノ原諒ス可キ者アラシ乎酌量減輕ノ設ケアリ刑ニ長短期ノ差アリ以テ之ヲ減等斟酌スルニ餘裕アルナリ何ソ殊更ニ此公明ナラス正大ナラサル法律ヲ設クルニ及ハンヤト夫レ然リ然リト雖此這ハ是レ單ニ理論上ヨリ推究シタル論ニシテ省ミテ社會公益ノ如何ヲ察スル時ハ又棄ツ可カラサルノ利益アリ是レ此減輕ヲ要スル所以ニシテ其之ヲ用フル最モ多キハ米國ナリトス而シテ我刑法ノ之ヲ總則中ニ掲ケテ一般ノ犯罪ニ適用セシムルモ亦此理アルニ因レハナリ請フ今之ヲ左ニ説明セン

本邦自首減輕ノ設ケアルハ此改定刑法ヲ以テ嚆矢ト爲スニ非ス新律綱領改定律例中已ニ掲クル所ニシテ其起源ヲ尋ヌレハ遠ク唐明清ノ律ヨリ出テタルモノナリ而シテ其掲クル所ノ者四種アリ(一)通常自首(二)代理自首例ヘハ子ノ罪ヲ父代首シ若クハ父ノ罪ヲ子代首スル如ク親屬代理シテ自首スル者(三)聞告自首即チ人ノ告發セントスルヲ聞テ自首スル者(四)聞捕自首即チ官ノ捕獲セントスルヲ聞テ自首スル者是レナリ

抑モ我舊律ノ自首減輕ヲ設ケルヤ人ノ罪ヲ犯シテ自首スル者ハ真心悔悟シ惡ヲ改メ善ニ反リタルノ証ナレハ宜ク減輕セサル可カラストノ理由ニ基ケリ是レ甚タ牽強附會ノ事ト云フ可シ夫レ人ノ罪ヲ犯シテ自首スルヤ真心悔悟シテ爲ス者ハ最モ僅少ニシテ殆ント無キカ如ク概テ自首ヲ以テ刑ヲ減輕セラル、ノ好手段ト爲スニ過



キス況ンヤ代理自首ノ如キ他人ノ犯罪ニ係ル件ニ於テチヤ縦シヤ  
 一步ヲ讓テ真心ノ悔悟アリトスルモ悔悟ハ法律上刑ヲ減輕スルノ  
 原由トナラサル事ハ夙ニ學者ノ喋々論スル所ニシテ法理ノ然ラシ  
 ムル所ナリ如何トナレハ凡ソ刑罰ハ既ニ行フタル所爲ニ向テ科ス  
 ルモノナレハ其之ヲ行フヤ直ニ確定スル者ナリ然ラハ則チ既ニ確  
 定シタル後ニ於テ如何ニ悔悟ヲ爲ス丁アルモ之レニ影響ヲ及ホス  
 可キノ理ナク又悔悟スルト否ヤトハ獨リ裁判官ノ知り得可キ者ニ  
 シテ立法者ノ豫知シ得可キ者ニ非サレハ隨テ此事ニ就キ規定ヲ爲  
 ス能ハサレハナリ故ニ真心悔悟シテ原諒ス可キノ情狀アラハ宜ク  
 裁判官ニ於テ酌量減輕ヲ施ス可キノミ夫ノ服役中悔改ノ狀アリテ  
 假出獄ヲ許ス如キモ亦其悔改ノ狀アルト否ヤトハ刑罰執行官ノ犯  
 人各自ニ就キ察ス可キ者ニシテ立法者ノ豫知シ得可キ者ニ非サル

ナリ

夫レ然リ自首減輕ハ犯人悔悟ノ點ニ基テ定ム可キ者ニ非ラス假令  
 之ヲ以テ基トスルモ自首スル者ハ必ス悔悟シタル者ナリト豫定ス  
 ル能ハサルナリ然ラハ則チ我改定刑法ノ之ヲ設ケタルハ果シテ如  
 何ナル點ニ基ク乎曰ク社會ノ公益上已ム可カラサルノ理アリテ存  
 スルナリ則チ犯者自首スル時ハ其利益四個アリ(第一)犯罪ヲ容易ニ  
 知り得可キ(第二)犯罪捜査ノ勞ヲ省ク(第三)有罪ヲ罰セサルノ患  
 ナキ(第四)不辜ヲ罰スルノ恐レナキト是レナリ  
 我刑法ノ自首減輕ヲ設ケタルハ此四個ノ利益アルニ基キタル者ニ  
 シテ社會ノ公益上大ニ利スル所アリ例ヘハ内亂ノ陰謀ヲ企ツル者  
 アリトセンニ若シ之ヲ實行スル時ハ其害ヤ大ニシテ危險實ニ言フ  
 可カラスト雖モ之ヲ發見スルハ頗ル難シ然ルニ犯者中自首スル者

(第八十四條)

五百四十一



アル時ハ此危険ヲ來タス恐ナキノ利益アリ然レ此利益アルカ爲  
メニ自首減輕ヲ設クル時ハ犯罪ヲ捜査スル能ハサルヲ公示スルモ  
ノニシテ即チ法律ノ力ノ微弱ナルヲ顯ハスノ嫌ヒナキ能ハサルナ  
リ

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官

ニ自首シタル者本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係

ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

本條ハ自首ヲ減輕スル場合ト自首ヲ有効ト爲スニ要スル條件トチ  
定メタルモノナリ

事未タ發覺セサルノ語ハ之ヲ二箇ニ解釋スルヲ得可シ第一其犯罪  
ノアリシ事ヲ何人モ知ラサル時第二犯罪事件ハ發覺スルモ其犯罪

ノ誰タルヤヲ何人モ知ラサル時是レナリ而ノ第一ハ其場合甚ダ少  
クシテ適用ス可キ極メテ稀ナリ今本條ヲ文字上ヨリ解釋スル時  
ハ第一ノ解釋ヲ適用セサル可カラサルカ如シト雖モ舊律ハ犯者ノ  
誰タルヤ知レサル時ニ付テ規定セリ故ニ此刑法モ亦第二ノ解釋ニ  
從フノ意ナラン

此刑法ノ自首減輕ハ悔悟ノ點ニ基カサルトハ發覺云々ノ文字ニ付  
テ見ルモ亦之ヲ証スルヲ得可シ如何トナレハ已ニ發覺シタル時ハ  
犯者如何ニ悔悟シテ自首スルモ減輕セサレハナリ是レ己ニ發覺シ  
タル時ハ假令自首スルモ社會ノ爲メ前ニ陳ヘタル利益ナキカ故減  
等セサルナリ

自首シテ減等ヲ得ルニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一 未タ發覺セサル事

(第八十五條)



第二 官ニ自首スル事

發覺セサルトハ官或ハ被害者ニ於テ犯者ノ誰タルヲ知ラサル時ニシテ自首ヲ有効タラシメシムルニハ必ス此時ニ於テ爲サ、ル可カラズ既ニ官或ハ被害者ニ於テ犯者ノ誰タルヲ知リタル時ハ假令犯者之ヲ知ラスシテ自首スルモ其効ナキナリ

又自首ノ有効ナルニハ必ス官ニ向テ爲スヲ要ス故ニ被害者ニ爲ス如キハ第八十七條ノ場合ヲ除クノ外其効ナキモノトス又必ス自ら爲サ、ル可カラズ夫ノ舊律ノ親屬代首スル者ノ如キハ其効ナキナリ但シ止ムヲ得サル場合ニ限り自ラ代理者ヲ立ツルカ或ハ書狀ヲ以テスルモ可ナルヘシ

舊律ニ於テハ自首スル時ハ刑ヲ全免スルノ場合アリシカ此刑法ニ於テハ只一等ヲ減スルノミ是レ之ヲ全免スル時ハ大ニ弊害ヲ來タ

スカ故ナリ如何トナレハ今詐欺取財ヲ爲シ其罪跡ヲ暗マシ而シテ其財物ヲ使用シ夥多ノ利益ヲ得タル後自首シテ全免ヲ得レハ其犯者ハ利益ヲ得ルノミニシテ刑ヲ受ケサルニ因リ斯ル奸計ヲ企ツル者累々タルニ至リ法律ヲ以テ犯罪ヲ誘導スルカ如キ結果ヲ生スルノ害アルヲ以テナリ

謀殺故殺ヲ例外トシテ減等セサル所以ハ此罪ハ他ノ犯罪ニ比スレハ情狀最モ重キ者ナリ而シテ他ノ強盜竊ノ如キ初メヨリ自首スルノ意ヲ以テ犯スナシト雖モ復讐等ノ爲メ初メヨリ自首スルノ意ヲ以テ人ヲ殺スナシハ往々之レアリ然ルニ之ヲ減輕シテ重刑ヲ科セサル時ハ隨テ此罪ヲ犯ス者多キニ至ルノ恐れアルニ因リシモノナリボアソナー博士先生ハ此謀殺故殺ヲ例外ニ置キシチ非難シタルカ如シト雖モ立法者ノ之ヲ例外ト爲セシハ甚々其當ヲ得タル者ト云フ

(第八十五條)



可シ

五百四十六

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

本條ニ至テ自首減輕ハ犯者ノ悔悟ニ基カスシテ社會ノ利益ノ爲メタルヲ益々明カナリトス如何トナレハ贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ社會ノ害減スルヲ以テ自首減等ノ外仍ホ二等ヲ減スレハナリ

本條ヲ單純ニ讀下スレハ自首シテ損害ヲ賠償シ贓物ヲ還給シタル以上ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ爲スモ常ニ本條ヲ適用セサル可カ

ラサルカ如シ即チ例ヘハ被害者ノ請求ヲ受ケ己ムヲ得スシテ還給賠償シタルモ又ハ官命ニ因リ身代限ノ處分ヲ以テ賠償シタル場合ニ於テモ尙ホ本條ニ從ヒ二等又ハ一等ヲ減セサル可カラサルカ如シ何トナレハ假令ヒ斯クノ如キノ方法ニヨルモ還給ハ常ニ還給ニシテ賠償ハ常ニ賠償ナレハナリ然レモ余ヲ以テ之ヲ觀レハ本條ノ精神ハ罪ヲ自首シテ尙ホ自ラ還給賠償ヲ爲シタル者ニ對シテノミ更ラニ二等又ハ一等ヲ減スルニアリテ自ラ進テ還給賠償ヲ爲スナリ以テ此寬典ヲ受ルヲ得ルノ一條件トナシタルモノナリ故ニ本條ニ適用スルニハ自首スル者其自首ト同時ニ還給賠償ヲ爲スカ又ハ少ナクモ之ヲ爲シ得ルノ位置ニアルヲ申立タルヲ要ス若シ然ラストモハ財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ甚ダシキ貧窮者ニ非サル以上ハ盡ク三等減又小ナクモ二等減ヲ爲サル可カラ

(第八十六條)

五百四十七



サルカ如キ奇怪ノ結果ヲ生スルニ至レン

財産ニ對スル罪トハ我刑法第二編第二章中ニ包含スル所ノ諸犯罪ナリ、然ルニ此諸罪ヲ犯ス爲メニ尙ホ他ノ罪ヲ犯シタルモ本條ヲ適用ス可キヤ如何ノ例ヘハ詐欺取財ノ罪ヲ犯ス爲メニ私文書ヲ偽造シ、後チ自首シテ損害ヲ賠償シタル時ハ本條ニ從ヒ二等又ハ一等ヲ減ス可キヤ如何ノ余ハ斯クノ如キ場合ニ於テモ他ノ罪若シ私罪ノ性質ヲ有スル限リハ本條ヲ適用スヘキモノト思考ス然レモ此點ハ第二編以下ヲ講シタル後ニ於テ之ヲ詳カニセン

茲ニ一問題アリ數人共犯ノ場合ニ於テ一人ハ自首シテ自己ノ分配ヲ受ケタル贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタルモ一人ハ只チ自首ノミヲ爲シテ還給賠償ヲ爲サ、ルモ本條ヲ如何カ適用スヘキヤ、余嘗テ劇チ新富座ニ觀シニ偶々其演スル所口甲乙二人ノ偷兒カ共謀シ

テ千圓金ヲ竊取シ各五百圓ツ、チ分チテ東西ニ別レ去リシカ其後甲ハ大ニ悔悟スル所アリ自首シテ刑ヲ受ケントスルモ嘗テ分テル五百圓ハ既ニ蕩盡シテ一金ノ貯蓄ナキチ患ヘ自ラ奮勵シテ專ラ正業ニ従事シ具サニ辛酸ヲ嘗メテ終ニ五百圓ノ金ヲ獲之チ持シテ將サニ自首セントシタルニ途ニシテ乙ニ邂逅セリ仍テ乙ニ説テ共ニ自首セシメントシタルノ事ニアリタリキ蓋シ本條ノ適用ニ關スル一箇ノ好問題ト云フ可シ故ニ余ハ其當時左ノ解チ與ヘタリ

甲ハ自首シテ且ツ自己ノ得タル五百圓金ヲ賠償シタルモノナレハ贓金全部ヲ還償シタルモノトシ本刑ヨリ三等ヲ減スヘキモノナル乎若シ甲チシテ三等減ノ恩典ニ與カルトチ得サルモノトナス時ハ甲ハ乙ノ所爲即チ乙カ自首セス且ツ贓物ヲ還給セサルカ爲メニ其不幸ヲ被フルモノニシテ甚ダ理論ニ適セサルカ如シ然リト雖モ



レ雷タニ皮相ノ論タルヲ免レサルナリ素ト甲乙二人ハ一体ノ犯者ニシテ之ヲ千圓ヲ盜ミタル一罪ト云フ可ク五百圓ツ、ヲ盜ミタルノ二罪ト云フ可ラス仍テ其一罪ノ全部ノ贓金即チ一千圓ヲ還給セサル以上ハ三等ヲ減スルヲ能ハサルナリ故ニ共犯者百人アリテ百人間ニ分派シタル時ト雖モ亦其全額ノ還償アラサル以上ハ三等減トナラサルモノトス

又更ニ場合ヲ變シテ之ヲ論センニ若シ乙カ甲ノ訓誨ニ服シタルモ贓金ハ既ニ費消シテ他ニ貯蓄ナキヲ以テ單ニ甲ノ有セル五百圓ノミヲ還償シ乙ハ唯タ自首セルニ止ル時ハ乙モ亦半數以上ヲ還償シタルモノトシテ甲ト共ニ自首減等ノ外更ニ一等ヲ減セラル可キヤ乙ハ毫モ還償セル處ナキヲ以テ甲ノ受クル利益ヲ受ケ得サルカ如シト雖モ決シテ然ラス既ニ前段ニ論シタルカ如ク甲乙共ニ一罪ノ

區域中ニ在ルモノナレハ其返還セシ五百圓金ハ連帶ノ關係ヲ有スルモノニシテ乙又甲カ還償ヨリ來ル利益ヲ受クルモノトス若シ然ラストセハ實ニ奇怪ナル論決ヲ爲サ、ル可カラサルニ至ル可シ例

ハ甲ハ其竊取セシ金員中更ニ分派ヲ受クル處ナク悉皆乙ノ掌握スル處トナリシニ甲後日其非ヲ悔テ獨リ自首シタル時ハ其分テル贓ナキヲ以テ亦タ還償ス可キモノナク隨テ一金ノ還償ナシト雖モ甲ハ三等減トナサ、ルヲ得サルカ如キニ至ル可シ如此ハ豈ニ奇怪ナル論決ト謂ハサルヲ得ンヤ故ニ一旦共ニ竊取セシ贓物ハ之ヲ分ツト否トニ論ナク連帶ノ性質ヲ有スルモノニシテ其返還ヨリ來ル利益ハ甲乙共ニ受ク可キモノナリ

或ハ曰ク果シテ然ラハ刑ハ連帶セサルノ原則ニ反スルナキヤト余之レニ應シテ曰ク其結果ヨリ見ル時ハ甚タ理論ニ適合セサル如シ



ト雖此亦タ己ムヲ得サルモノアリテ然ルナリ抑モ自首シテ刑ヲ減  
輕スルノ差等アルハ贓物ヲ還給スルト否ヤト及ヒ之ヲ還給スルノ  
多少ニヨルモノナリ然リ而シテ其贓物ニ關シテハ一般ニ犯人連帶ノ  
關係ヲ有スルモノナレハ之レト相繫累スルノ刑ハ即チ自然ニ連帶  
ノ性質ヲ含有セサルヲ得サルモノニシテ本條ハ即チ刑ハ連帶ナラ  
サルノ原則ノ例外ト見サル可カラサルナリ  
以上論スル處ニ由テ甲若シ其全部ノ贓金ヲ還償シ乙ト共ニ自首シ  
タル時ニ於テハ乙ハ一金ヲ返償スルナシト雖此亦タ甲ト同一ノ利  
益ヲ受ク可キモノトス

### 第八十七條

財產ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ自首シ

タル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ

### 處斷ス

本條ハ財產ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首ス  
ルト同ク處斷スルヲ示シタルモノニシテ別ニ説ク可キヲナシ

### 第八十八條

此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例

ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

自首ニ減等ト全免トアリ本條ニ所謂別ニ自首ノ例ヲ掲グル者トハ  
則チ全免ノ場合ニシテ第二百二十六條第百九十二條第二百二十六條  
是レナリ

(第二十六回)

### 第三節 酌量減輕

(第八十七條)(第八十八條)



前回ニ於テ講説シタル如ク宥恕減輕及ヒ自首減輕ハ法律自ラ減輕スル者ニシテ即チ立法者ノ意ニ因テ減輕スル者ナレモ酌量減輕ハ裁判官ヲシテ行ハシムルモノニシテ之ヲ行フト否ヤハ其權内ニ在ルモノトス、而シテ此減輕ノ一節ハ僅カニ二條ニ過キスト雖モ最モ緊要ノ法條ナリ

抑モ酌量減輕ハ如何ナル必要アリテ設ケタルヤヲ尋ヌルニ左ノ二理由アルカ故ナリ

第一 凡ソ犯者ニ對シテ刑ヲ科スルヤ宜ク罪ト刑トナシテ權衡ヲ得セシメサル可カラス而シテ其權衡ヲ得セシムルニハ事實ノ有罪ノ度ト犯者ノ有罪ノ度トナシテ適當ノ刑ヲ科スルニ在リ然リ而シテ事實ノ有罪ノ度ヲ計ルハ甚タ容易ニシテ例ヘハ謀殺ハ故殺ヨリ重ク竊盜ハ強盜ヨリ輕キノ類ニシテ這ハ立法者自ラ計テ之ヲ法律

上ニ明定スルヲ得ルト雖モ犯者ノ有罪ノ度ニ至テハ之ヲ豫知スル能ハス如何トナレハ人ノ罪ヲ犯スヤ假令其罪名ハ同一ナル時ニ於テモ其情狀ニ至テハ千差萬別ニシテ或ハ教育不充分ノ人アルヲアリ或ハ他人ヲ救フノ爲メナルヲアリ或ハ貧窶ノ爲メナルヲアリ其  
人ノ異ナルニ隨ヒ同シカラサルモノナレハナリ、例ヘハ爰ニ二人ノ竊盜  
アランニ一人ハ饑餓ニ迫リ殆ント餓死セントスルニ際シ命脈ヲ繋  
カンカ爲メ止ムヲ得スシテ人ノ財物ヲ盜ミ他ノ一人ハ快樂ヲ取ラ  
ンカ爲メニ盜ミタル如キ前者ハ實ニ原諒ス可キノ情狀アリト雖モ  
後者ハ毫モ之レナキノミナラス其所行甚タ惡ム可キナリ、夫レ斯ク  
ノ如ク犯者ノ有罪ノ度ハ各同シカラサルニ因リ犯者有テ而後定マル  
可キ者ニシテ立法者ノ豫知シ得可キ者ニ非ス故ニ立法者其權ノ一  
部ヲ殺テ裁判官ニ與ヘ裁判官ヲシテ時ニ臨テ此權ヲ左右セシメ以



テ罪ト刑トノ權衡ヲ得セシム是レ酌量減輕ノ設ケアル第一理由ナリ  
 第二 有期刑ハ犯者ノ情狀如何ニ因リ其刑ノ長短期ノ間ニ於テ斟酌スルトヲ得ルト雖モ死刑及ヒ無期刑ハ之ヲ爲ス能ハサルニ因リ止ムヲ得ス本刑ヲ科セサル可カラサルコトアリテ罪ト刑トノ權衡ヲ得ル能ハス故ニ酌量減輕ヲ用ヒテ其權衡ヲ得セシム是レ酌量減輕ノ設ケアル第二理由ナリ

酌量減輕ノ設ケサル可カラサルヤ如此然レモ之ヲ設ケル時ハ隨テ其弊ナキ能ハス請フ今之ヲ左ニ一言セン

夫レ酌量減輕ハ犯罪ノ情狀原諒ス可キ場合ニ於テ用ユ可キ者ナリ然リト雖モ之ヲ用ユルト否ヤトハ裁判官ノ權内ニ在ル者ナレハ假令原諒ス可キノ理由ナキモ亦之ヲ用ユルヲ得可シ於是乎遂ニ濫用

ノ弊ヲ生シ法律ニ定メタル刑ノ嚴ナリト思惟スルモ假令犯人ニ於テ別ニ原諒ス可キノ情狀ナキモ減輕シ法律ヲシテ充分ノ目的ヲ達セシムルコト能ハサラシムルニ至ルトアリ、既ニ佛國ニ於テハ酌量減輕ノ制ヲ次第ニ擴張シタルヨリ時ニ或ハ此弊ノ見ハル、アリテ學者ハ種々ノ方法ヲ提出シテ此弊ヲ防カントセリ而シテ其方法ハ或ハ犯人及ヒ辯護人ニシテ酌量減輕ヲ得ント欲セハ其原諒ス可キノ情狀ヲ仔細ニ明言スルノ義務アリトシ或ハ陪審官ヲシテ酌量ス可キノ事實ヲ明言セシメントスルニアリテ其要ハ皆ナ裁判宣告書ニ酌量ノ理由ヲ明記セシムルニアリ、然レモ是等ノ方法ハ既ニ佛國刑法ニ於テ酌量減輕ノ制ヲ置キタルノ主旨ト撞着スルノミナラス佛刑法酌量減輕ノ制ハ其初メハ我輩カ右ニ論シタル二箇ノ理由ヨリ出シモ後ニ至リ刑法ノ刑ノ嚴ニ過ル者ヲ減等セシメントスルノ



主旨ニ變シタリ尙ホ此方法ハ經驗上ヨリ右ニ所謂ル弊ヲ防クニ足ラストシテ排斥セラレタリ、而シテ其經驗トハ佛國舊時ノ刑法ニ於テハ酌量減輕ニ其理由ヲ明示ス可キノ制ナリシカ妥當ノ理由ナキハ種々牽強附會ノ理由ヲ附シテ減輕ヲ宣告シ弊ヲ防ク能ハサルノミナラス却テ裁判ノ尊嚴ヲ汚カスニ至リシコアル是ナリ、然ラハ則チ酌量減輕ハ其固有ノ弊アリテ其弊ハ到底防禦シ得ヘカテサルモノナレハ寧ロ之ヲ全廢スルヲ可トスヘキヤ、否ナ決シテ之ヲ廢スルヲ得ス、若シ之ヲ廢スルニ於テハ實際罪ト刑トノ權衡ヲ失スルヲ看ルニ至ル可ク且ツ此法ヲ設ケタル貴重ノ理由モ共ニ消滅スルニ至ル可シ、本來酌量減輕濫用ノ弊ハ法律ノ刑嚴酷ナルカ故ニ出ルモノナレハ若シ此刑ニシテ嚴ニ過クルナクンハ此弊モ亦存セサルヘキ筈ナリ、サレハ此弊ハ決シテ防キ得サルニ非ス、特ニ我邦ノ如キ

ハ舊律ノ刑甚タ嚴ニシテ今ノ刑大ニ寬ナルカ故ニ現時ニアリテハ必ス此弊ヲ看サルヘキナリ、只々現時ト將來トヲ論セス法ヲ解スル者ト裁判官ノ常ニ注目ヲ怠ルヘカテサルハ左ノ二件ニアリトス  
酌量減輕ヲ適施スルニ付キ注意スヘキ件

第一 酌量減輕ハ刑法規定ノ刑ノ嚴酷ナル故チ以テ用フ可カラス一既ニ前ニ論シタルカ如ク犯罪ニハ事實ノ罪ノ度ト犯人ノ罪ノ度トノ二個アリ而シテ事實ノ罪ノ度例ヘハ殺傷放火等ノ如キ事實ニ關スル罪ノ程度ハ立法者豫メ知ルヲ得ルヲ以テ之ヲ計テ其刑ヲ定ムル者ナリ然ルニ犯者ノ有罪ノ度ニ至テハ犯者ノ異ナルニ從テ同シカラサル者ナレハ立法者豫メ之ヲ知ル能ハス之ヲ知ルハ裁判官ナリトス故ニ裁判官ハ此犯者ノ有罪ノ度ヲ計ルニ付テ酌量減輕ヲ用フ可クシテ事實ノ有罪ノ度ニ關シテ用フル能ハサルナリ是レニ



由テ縦ヘ竊盜スル者ハ死刑ニ處ストノ法律アルモ是レ立法者ノ定メタルコトニシテ即チ事實ノ有罪ノ度ニ關スルコトナレハ此減輕ヲ用ユルコト能ハス之ヲ用ユルコトヲ得ルハ常ニ犯者ノ有罪ノ度ヲ計ル時ニ限ル可キモノトス

佛國ニ於テハ刑法ニ規定スル所ノ刑甚タ嚴ナレモ之ヲ改正スルハ刑法全體ニ關スル大事ニシテ一朝一夕ノ能ク辨ス可キ事ニ非サルヲ以テ千八百三十二年刑法修正ノ際起草者ハ刑法規定ノ刑ノ嚴ナルヲ矯正スル爲メニ酌量減輕ヲ用ヒントスルノ意ヲ明言シタリキ是レ實ニ止ムヲ得サルニ出テタル者ナリト雖モ裁判官ヲシテ此權ヲ行ハシムルハ司法權ヲシテ立法權ヲ行ハシムル者ニシテ甚タ不可ナリ我舊律ノ如キモ亦裁判官ヲシテ事實ノ有罪ノ度ニ關シ酌量減輕ヲ行ハシメタリ正理ニ適セサルコト云フ可シ

第二 酌量減輕ヲ行フニ付テハ裁判官其理由ヲ明示スルノ義務ナク又之ヲ明示セサルヲ以テ本則トス故ニ裁判宣告書ハ所犯情狀原諒ス可キカ故ニ減輕ストノミ載セテ其何故ニ原諒ス可キヤヲ明記セサルナリ然リト雖トモ裁判官ハ此理由ヲ其心ニ明記セサル可カラズ若シ裁判官ニシテ之ヲ心ニ明記セスハ其酌量減輕ハ偶然ノ結果ニシテ裁判ニ非ス寔トニ裁判官ノ眞面目ヲ汚スモノト云フ可シ

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒

ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得  
法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ  
其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

(第八十九條)



所犯情狀原諒ス可キトハ既ニ前ニ略說セシ如ク例ヘハ其罪ヲ犯ス  
 ヤ犯者ノ教育不充分ニシテ智識足ラサル所アルカ爲メナルカ或ハ  
 貧窶ニ逼リ饑寒ヲ救ハンカ爲メナルカ或ハ又罪ヲ犯シテ後頻リニ  
 悔悟スル者ノ如キ充分ノ知識ヲ具ヘテ犯シ或ハ快樂ヲ爲サンカ  
 爲メニ盜ミ或ハ恬トシテ後悔スルコトナキ者ニシテ大ニ憫察ス可キ  
 情狀アル者ヲ云フ此等ハ充分ノ知識ヲ具ヘテ犯シ或ハ快樂ヲ爲サ  
 ンカ爲メニ盜ミ或ハ恬トシテ後悔セサル者ト同一ニ論ス可カラサ  
 ルニ因リ裁判官ヲシテ其有罪ノ度ヲ計リテ刑ヲ減等セシムル者ナ  
 リ

第二項ノ法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ストハ再犯或ハ身分ニ  
 因テ加重シ宥恕或ハ自首ニ因テ減輕スルコト等ニシテ此場合ニ於テ  
 ハ其加重ス可キハ加重シ減輕ス可キハ減輕シ然ル後仍ホ酌量減輕

ヲ用ユルコトヲ得ルモノナリ這ハ是レ當然ノ理ニシテ法律ノ明文ヲ  
 要セサル事ナリ然ルニ此ニ之ヲ明記シタルハ人ヲシテ疑團ナカラ  
 シメンカ爲メナラン

### 第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等

ヲ減ス

裁判官ニ許スニ酌量シテ刑ヲ減輕ス可キコトヲ以テシタル以上又其  
 權限ヲ定ムルハ甚タ必要ノコトナリトス若シ其權ヲ甚タ廣大ニセン  
 カ是レ恰モ立法權ヲ裁判官ニ與フルナリ若シ之ニ反シ大ニ之ヲ狹  
 少ニセンカ遂ニ酌量減輕ヲ設ケタルノ旨趣ヲ貫カサルニ至ルヘシ、  
 於是乎我刑法ハ一等又ハ二等ヲ減スルヲ以テ裁判官ノ權限ト爲セ  
 リ蓋シ其單簡ニシテ且ツ精妙ナルヤ彼ノ佛國刑法ノ各刑名ニ就テ

(第九十條)



減等ノ法ヲ定メタルニ比スレハ其優レルヤ萬々ナリ

## 第五章 再犯加重

再犯ト數罪俱發トハ混同ス可カラス再犯トハ前罪既ニ判決ヲ經テ  
 裁判確定シタル後ニ再ヒ罪ヲ犯シタルヲ云ヒ數罪俱發トハ未ダ判  
 決ヲ經サル二個以上ノ罪ノ俱發シタル者ヲ云フ故ニ若シ前罪既ニ  
 判決ヲ經ルモ其裁判未タ確定セサル際ニ復タ罪ヲ犯シタルモノハ  
 再犯ニ非スシテ數罪俱發ナリ之レニ因テ再犯ト稱スルハ總テ前罪  
 ノ裁判確定シタル後ニ犯シタル罪ナルヲ要スルナリ  
 再犯ノ罪ニ對シ刑ヲ加重ス可キヤ否ヤノ問題ニ付キ加重スルヲ非  
 難スル論者ノ說ニ曰ク再犯ノ刑ヲ加重シテ罰スルハ大ニ道理ニ悖  
 戻スル者ナリ夫レ前罪ハ既ニ判決ヲ經至當ノ刑ヲ科シタル時ハ充  
 分其罪惡ヲ罰シタル者ナリ然ルニ後罪ヲ罰スルニ當リ再犯タルノ

故ヲ以テ加重スル時ハ後罪ニ前罪ヲ併セ罰スル者即チ前罪ヲ再罰  
 スル者ニシテ彼ノ萬古動カス可カラサル一事再理セス(ノン、ピス、イ  
 ン、イテム)ノ大原則ニ違背スル者ナリ豈ニ之ヲ道理ニ適シタル法律  
 ト云フヲ得ンヤト

歐洲諸國舊時ノ刑法中ニハ再犯アル時ハ前罪ノ刑期ヲ加重シタル  
 モノアリ故ニ當時ニ在テハ論者ノ說其當ヲ得タリト雖モ現今再犯  
 ヲ處スルノ法ハ之レニ反セリ然ルニ尙ホ此說ヲ以テ駁セントスル  
 ハ論者ノ說却テ反駁ヲ免レサルナリ如何トナレハ現今再犯ヲ加重  
 スルノ法ハ初犯ノ刑ヲ定ムルト同一ノ理由ヨリ出ツル者ニシテ決  
 ノ前罪ヲ再罰スル如キ不道理ノトニアラサレハナリ請フ詳ニ之ヲ  
 論セン夫レ立法者ノ罪トシ罰スルヤ道德ニ背キ併セテ社會ヲ害ス  
 ルノ所爲ヲ以テス然ラハ其道德ニ背キ社會ヲ害スルノ大小ニ因



テ刑ニ輕重アルヤ言テ俟タサルナリ今再犯者ヲ以テ初犯者ニ比スルニ再犯ハ其惡意大ニシテ道德ニ背ク甚ク又社會公衆ノ之ヲ畏懼スルコトモ甚クシテ社會ヲ害スルコト大ナリトス故ニ其罪初犯ヨリ重ク隨テ其刑ヲ同等ナラシムル能ハサルヤ明カナリ是レ我立法者ノ再犯ハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加重シテ罰スル所以ニシテ一事再理セスノ原則ニ違背スルコトナキヤ瞭然タリ

論者又曰ク再犯ヲ加重スルノ理由ハ可ナリ然レモ懲役ヲ加重シテ徒刑ト爲スカ如ク異質ノ刑ト爲ス可カラズ必ス同質ノ刑ニ於テ加重ス可キモノナリト此說亦非ナリ何トナレハ甲刑ヲ以テ懲戒スルニ足ラサル時ハ乙刑ヲ科シテ其欠ヲ補フハ重キ罪ニ重キ刑ヲ科シ輕キ罪ニ輕キ刑ヲ利スルノ理ト異ナル所ナケレハナリ

論者又曰ク再犯加重ノ法ハ前後同罪ニ非サレハ施ス可カラズ例ヘ

ハ前罪國事犯ニシテ後罪非國事犯ナル時或ハ前罪殺人ニシテ後犯竊盜ナル時ノ如ク前後同一ナラサル犯罪ニ付テハ加重ス可カラズ止メ前罪竊盜ニシテ後罪モ亦竊盜ナルカ如ク前後同一ナル場合ニ於テ施ス可キノミ何トナレハ前ニ殺傷ノ罪ヲ犯シタリト言テ今ノ竊盜ノ刑ヲ加重スル如キハ原因結果相貫カサルモノニシテ甚ク謂レナシ且ツ是レ刑ノ懲戒ノ目的ノ如キハ之ヲ度外ニテ徒ラニ刑ヲ嚴ニスルノ法トナルヘシト是レ古昔ヨリ學者ノ論辨ニテ止マサル所ナリ

論者ノ說ク所一理ナキニ非ス然レモ一ヲ知テ未タ其二ヲ知ラサル者ト云フ可シ今茲ニ暴行脅迫殺傷強姦等ノ罪ヲ犯ス者アリトセンニ其所爲各異ナルト雖モ人ヲ害セントスル惡意ヲ有スル點ニ至テハ皆異ナル所ナシ又盜テ爲シ詐欺取財ヲ爲スカ如キ其方法ハ異ナ



ルト雖凡人ノ財物ヲ取ラントスルノ目的ニ至テハ同一ナリ然ラハ何ソ前後同罪ニ非サレハ加重スルヲ得サルノ理アラシヤ、又一步ヲ進メテ社會公衆ノ遵奉ス可キ國法ヲ犯スノ點ヨリ論下スル時ハ何ソ罪ノ性質如何ヲ問フニ及ハンヤ身體ニ對スル罪ナルト財產ニ對スル罪ナルトヲ問ハス國法ヲ犯ス者ハ總テ加重ス可キノミ況ンヤ惡念ノ甚タシキ者ニ至テハ昨日竊盜ヲ爲シテ今日人ヲ殺シ明日又強盜ヲ爲スカ如キ機ニ臨ミ變ニ應シテ犯ス者アルニ於テチヤ然リト雖凡人ノ何タルト所犯ノ如何トヲ問ハス悉ク再犯ヲ以テ論シ之ヲ加重スルハ理論ノ許サ、ル所ナリ既ニ嘗テ論シタルカ如ク陸海軍刑法ハ特別ニ軍人軍屬ヲ檢束警戒スル爲メニ設ケタルノ法律ニシテ普通刑法トハ其性質全ク相異ナルモノナリ故ニ前罪軍事犯ニシテ後罪非軍事犯ナルカ或ハ前罪非軍事犯ニシテ後罪軍事犯ニ似タリ

ナルキハ再犯ヲ以テ論スル能ハス又國事犯非國事犯モ其性質大ニ異ニシテ共ニ日ヲ同フシテ語ル可カラサルモノナレハ國事犯ト非國事犯トヲ前後ニ犯シタル時モ亦再犯ヲ以テ論セサルヲ可トスルニ似タリ

再犯加重ハ期限ノ經過ヲ問ハサル者乎例ヘハ前罪ト後罪トハ數十年ノ離隔アルモ尙ホ加重ス可キ乎今余輩ノ看ヲ以テスレハ此場合ハ再犯ノ故ヲ以テ加重ス可カラス如何トナレハ時日ヲ經過スルト久シキニ至レハ人々皆前罪ヲ遺忘スルニ因リ再犯ノ故ヲ以テ後罪ヲ加重スルモ社會ニ益スル所ナケレハナリ然ラハ之ヲ處スル如何日ク刑ノ期滿免除ノ年限ヲ以テ再犯加重ノ年限トセハ或ハ其當ヲ得ルニ庶幾カラシ乎

外國ニ於テ罪ヲ犯シ外國ノ刑法ニ依テ處斷セラレタル後我國ニ於



テ罪ヲ犯スヲアルモ外國ノ刑法ハ我國ニ行フ可キ者ニアラサレハ再犯ヲ以テ論ス可カラズ  
三犯以上ヲ處スル方法如何再犯ノ例ニ從フ可キノミ何トナレハ犯數ノ増加スルニ從テ刑ヲ加重スル時ハ恰モ法律ト犯者ト其強弱ヲ爭フカ如クニシテ却テ法律ノ尊嚴ヲ欲クニ至レハナリ況ンヤ實際之ヲ行フ可カラサルニ至ルヘキヲヤ

(第二十七回)

前回ニ於テ再犯加重ニ關スル理論ヲ講究セリ本日ハ我刑法ノ正條ニ就キ其規定如何ヲ見ン  
再犯加重法ノ由來ヲ尋ヌルニ我舊時ノ新律綱領改定律例ニモ皆此設ケアリタリ然レモ止マ盜罪ニノミ之レアリテ他ノ犯罪ニハナカ

リシ而シテ盜三犯以上ハ終身懲役ト爲シ或ハ死刑ト爲スカ如ク苛酷ナリシカ此刑法ハ然ラス三犯以上幾何犯ト雖モ再犯ノ例ニ從フノミナラス輕罪ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス又重罪中ニ於テ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得サルカ如キ其舊律ヨリ寬ニシテ且ツ精密ナルヲ知ル可シ

歐洲各國モ亦古昔ヨリ此法ノ設ケアリテ或國ノ如キ盜罪數犯ナル時ハ加ヘテ死刑ニ至ラシメタリキ佛國ニ於テハ千八百十年刑法ノ改正アリシカ此改正法モ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得セシメタリ

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再

(第九十一條)(第九十二條)



犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯

違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ

其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非

サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

右三條ニ依テ見ルキハ再犯ノ故ヲ以テ加重スルノ場合四アリ

第一 初犯重罪ニシテ再犯重罪ナル時

第二 初犯重罪ニシテ再犯輕罪ナル時

第三 初犯輕罪ニシテ再犯輕罪ナル時

第四 初犯違警罪ニシテ再犯違警罪ナル時

此四個ノ場合ノ外ハ再犯タルノ故ヲ以テ加重スル能ハス故ニ初犯

輕罪ニシテ再犯重罪ナル時或ハ初犯重罪輕罪ニシテ再犯違警罪ナルカ若クハ初犯違警罪ニシテ再犯重罪輕罪ナル時ハ加重スル能ハス請フ左ニ其理由ヲ略陳セン

初犯重罪ニシテ再犯重罪輕罪ナル時ハ加重シ初犯輕罪ニシテ再犯重罪ナル時加重セサルモノハ此犯者ハ既ニ輕罪ノ刑ニ處セラレ其懲戒ヲ受ケタリト雖モ未タ重罪ノ刑ノ何物タルヤヲ知ラスシテ犯シタルノミナラス重罪ノ刑ハ自ラ重キヲ以テ自然ニ加重アルニ當レハナリ然レモ前ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタル以上ハ初犯ノ者ニ比スレハ其惡念多クシテ且ツ社會ノ危險モ大ナレハ裁判官ハ酌量減輕ヲ施スヲナク且ツ刑ノ長期ニ處ス可キヲ以テ其刑自ラ重カル可キナリ

初犯重罪輕罪ニシテ再犯違警罪ナルカ若クハ初犯違警罪ニシテ再

(第九十三條)



犯重罪輕罪ナル時加重セサル者ハ前ノ如キ理由ニ依テ然ルニ非ス  
 違警罪ハ土地風俗等ニ基キ規定シタル者ナルニ因リ土地ノ異ナル  
 ニ隨テ同シカラサル者ニシテ重罪輕罪トハ自ラ其性質ヲ異ニシ相  
 關係セサルヲ以テナリ而シテ違警罪ハ一年內ニ再ヒ其違警罪裁判所  
 ノ管轄內ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ加重セス是レ此罪ハ至テ輕  
 キヲ以テ時日ヲ經過スルニ隨ヒ世人ノ之ヲ遺忘スルヲ速ニシテ且  
 ツ土地風俗等ニ基キ規定スル者ナルヲ以テ土地ノ異ナルニ隨テ其  
 罰スル所ノ事モ亦同シカラサル故ナリ

茲ニ一ノ疑問アリ本條ニ所謂再犯重罪ニ該ル時或ハ輕罪ニ該ル時  
 本刑ニ一等ヲ加フトハ其犯シタル所爲ノ重罪或ハ輕罪ニ該ル時テ  
 指ス乎將タ其刑ノ重罪或ハ輕罪ノ刑ニ該ル時ヲ指ス乎例ヘハ爰ニ  
 人ヨリ暴行ヲ受ケ怒リニ乘シ暴行人ヲ殺傷シタル者アリトセシニ

ハ其刑ノ重罪或ハ輕罪ノ刑ニ該ル時ヲ指ス乎例ヘハ爰ニ

其人ヲ殺シタルノ所爲ハ重罪ナリ然レモ怒リニ乘シテ爲シタルノ  
 故ヲ以テ第三百九條第三百十二條ニ依リ三等減セラル、キハ其刑  
 ハ輕罪ノ刑トナルモノナリ又輕罪ヲ犯シタル時モ宥恕自首從犯未  
 遂犯等ノ理由ニ因テ減等アルキハ其刑違警罪ノ刑トナルコトアリ本  
 條ノ再犯重罪ニ該ル時或ハ輕罪ニ該ル時トハ二者何レヲ指スカ判  
 然タラスト雖モ其刑ノ重罪或ハ輕罪ノ刑ニ該ル時ト解セサル可カ  
 ラス如何トナレハ本條初犯ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者或ハ輕罪  
 ノ刑ニ處セラレタル者トシテ刑ニ就テ定メタルヲ以テ再犯モ亦刑  
 ニ就テ定ムルヲ至當ト爲セハナリ尙ホ此點ハ他日大ニ詳カニスル  
 所アラシ

第九十三條ニ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ストアリ此文意ニ依レハ再  
 犯ヲ以テ論セスシテ初犯ヲ以テ論スト云フ如クナレモ一タヒ罪ヲ

(第九十三條)



犯シテ後復タ犯スルハ其再犯タルコトハ争フ可カラサルノ事實ナレハ本條ノ再犯云々ハ再犯ノ故ヲ以テ加重セスト解スルヲ要ス然レモ是レ文字上ノ論ナレハ何レニ書スルモ事ニ害ナキナリ

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サ

レハ之ヲ論スルコトヲ得ス

再犯ノ故ヲ以テ加重スルニハ初犯ノ裁判確定シタルヲ要ス故ニ假令裁判宣告アルモ未タ確定セサル時ニ罪ヲ犯スモ加重スル能ハサレモ既ニ確定シタル時ハ刑ノ執行ナキモ加重スル者ナリ論者ノ説ニ曰ク刑ノ執行ナキハ未タ其刑ニ因テ實際ニ懲戒ヲ受ケサル者ナリ然ルニ其際再犯アルハ直ニ加重スルハ當テ得サルナリト然レモ再犯アルハ大概テ刑ノ執行後ニシテ其前ナルコトハ極メテ少ナ

キヲ以テ本條ハ一般ノ場合ニ就テ規定シタルモノナリ

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告

シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徴收ス

再犯ノキハ刑數幾個アルモ悉ク執行スルモノナリ然レモ先ニ無期徒刑ノ執行ヲ受ケタルハ他ノ刑ハ實際ニ執行スル能ハサルモノナリ

數刑アル時ハ其受ケタル刑ノ順序ニ因テ執行スルニ非ス定役ニ服

(第九十四條)(第九十五條)



ス可キ者ヲ先ニシ定役ニ服セサル者ヲ後ニス是レ定役ニ服スル刑  
 ハ定役ニ服セサル刑ニ比スレハ艱苦多キモノナリ然ルニ之ヲ後ニ  
 シテ定役ナキ者ヲ先ニスル時ハ其犯者大赦特赦或ハ假出獄書ニ因  
 テ放免ヲ受クル時ハ其艱苦多キ刑ハ終ニ執行スル能ハスシテ刑ノ  
 目的ヲ達スルヲ得サルヲ以テナリ又初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑  
 ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ其重キ者ヲ先ニ執  
 行スルモ亦同理由ナリ  
 罰金科料ハ何レヲ先ニスルモ右ノ如キ不都合ナキヲ以テ其前後ヲ  
 問ハサルナリ  
 茲ニ監獄則チ參照シテ平易ニ本條ヲ約解スレハ蓋シ左ノ如キノ意  
 ナル可キ歟  
 無期ノ刑ニ處セラレタル者再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣害シタル時

ハ死刑ヲ除クノ外左ノ區別ニ從テ刑ヲ執行ス  
 一先ニ無期徒刑ニ處セラレタル者ハ獄則ニ從テ懲罰スルニ止メ初  
 犯ノ刑減免ヲ得タル時ニ非サレハ再犯ノ刑ヲ執行セス  
 二先ニ無期流刑ニ處セラレタル者再犯定役ニ服スル刑ニ該ル時ハ  
 先ツ之ヲ執行シ初犯ノ刑ヲ後ニス若シ再犯定役ニ服セサル刑ニ  
 該ル時ハ獄則ニ從テ懲罰スルニ止メ初犯ノ刑減免ヲ得タル時ニ  
 非サレハ之ヲ執行セス  
 有期ノ刑ニ處セラレタル者刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣  
 告シタル時ハ死刑ヲ除クノ外先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ  
 定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ  
 該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行  
 ス



第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再

ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處  
斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

我刑法ハ犯罪ノ如何ヲ問ハズ再犯ハ一般ニ加重スト雖モ先ニ軍事  
犯ヲ以テ罰セラレタル者再犯普通刑法ニ依テ處斷ス可キ時ハ加重  
スルヲナシ是屢辨セシ如ク陸海軍刑法ハ將校兵士ヲ檢束スル爲メ  
ニ設ケタル特別ノ法律ニシテ通常人ヲ支配ス可キ者ニ非サレハナ  
リ本條ニ關スルヲハ嘗テ犯罪ノ區別ヲ講スルニ當リ詳説セシヲ以  
テ茲ニ贅セス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ

犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

大赦ハ社會全ク其罪ヲ忘レタル者トス即チ嘗テ罪ヲ犯シタルノ事  
實ナキ者ト看做スニ因リ其後罪ヲ犯スモ加重セサルナリ佛國刑法  
ノ如キモ大赦後ノ犯罪ヲ加重セサルハ我刑法ト異ナルヲナシ第七  
十九條ノ幼者ヲ懲治場ニ留置スル如キモ罪ニ非サルヲ以テ其後罪  
ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セサルモノトス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯

ノ例ニ同シ

既ニ前回ニ於テ論セシ如ク三犯以上犯數ノ増加スル毎ニ加重スル  
時ハ法律ト犯人ト相競争スルカ如ク終ニハ苛酷ニ失シ正理ニ悖戻  
スル所アルヲ以テ假令何犯ニ至ルモ再犯ト同シク論スルノミ舊律  
ノ盜三犯ニ至ルキハ終身懲役若クハ死刑ニ處スル如キ甚タ正理ニ

(第九十六條)(第九十七條)(第九十八條)



適セサル者ト云フ可シ

本章ノ講義ヲ終ルニ臨ミ茲ニ一言ス可キヲアリ夫レ再犯加重ヲ施スニ當テハ其初犯ノ有無如何ヲ知ラサル可カラス而シテ之ヲ知ル最モ難シ現今我國ニ於テハ犯者或ハ獄丁ニ問フテ之ヲ知レ犯者自白セサルカ或ハ獄丁ノ知ラサルキハ如何トモ爲ス能ハス殊ニ犯者自白スレハ已レノ不利トナルヲ以テ之ヲシテ自白セシムルハ期シ難キヲナリ故ニ犯罪アル毎ニ戶籍簿ニ記載セシメテ之ヲ知レ無籍人ニ付テハ記載ナキヲ以テ知ル能ハス加之犯罪ヲ戶籍簿ニ記載スル時ハ世人之ヲ見テ忘避擯斥シ遂ニハ婚姻養子等ノ妨害トナリ自ラ人ト交通スルヲ能ハサルニ至ラシムルヲアルヲ以テ完全ノ良法ト云フ可カラス

佛國ニ於テハ犯罪アル毎ニ全國ヨリ電信ヲ以テ司法省ト警視廳ト

ニ告知セシメ之ヲ簿冊ニ登記セシカ司法省ニ於テハ其煩雜ニ堪ヘス暫時ニシテ廢止セリ警視廳ニ於テハ常ニ登記シ來リシモ固ト全國ヨリノ告知ナレハ其簿冊堆積シテ數百万トナリ再犯タリヤ否ヤ之ヲ見ルニ由ナキニ至レリ然ルニ今ヲ距ルヲ三十年前ニ於テ警察官某一ノ分業法ヲ發明シ大ニ其煩劇ヲ省ケリ其方法ハ犯罪アル時ハ犯者住居ノ地ノ裁判所ニ知告シテ簿冊ニ登記セシメ再犯タルヤ否ヤハ其住居地ノ裁判所ニ照會シテ知ルノ方法ナリ然レモ是レ未ダ完全ノ法ト云フ可カラス如何トナレハ其照會ハ總テ電信ヲ用フルニ因リ誤謬ヲ生シ易ク且ツ我國ノ如ク電信ノ布設普カラサル國ニ於テ實施スル能ハサレハナリ

## 第六章 加減順序

本章ノ設ケアル所以ハ凡ソ裁判官ハ先ツ犯罪ノ事實ヲ審察シテ其

(第九十八條)



所爲ノ刑法ニ觸ル、ヤ否ヤヲ研究シ果シテ刑法ニ觸ル、時ハ刑ヲ言渡シ否ラサル時ハ無罪ヲ言渡サ、ル可カラス然リ而シテ其刑ヲ言渡スヤ加重減輕ヲ同時ニ爲ス可キ場合アリテ其之ヲ爲スヤ加重ヲ前ニシ減輕ヲ後ニスルト減輕ヲ前ニシ加重ヲ後ニスルトハ大ニ刑ニ輕重ノ差ヲ生スルモノナリ例ヘハ茲ニ幼者無期徒刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シ其罪再犯ニ係ル場合アリトセンニ宥減輕ト再犯加重トヲ爲サ、ル可カラス此時ニ當テ減輕ヲ先ニシ加重ヲ後ニセンカ結局無期徒刑ナリ然ルニ加重ヲ先ニシ減輕ヲ後ニセンカ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得サルヲ以テ有期徒刑トナル可シ又輕罪ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得サル場合ニ於テハ同一ノ結果ヲ生スルモノナリ如此順序ノ前後ニ因テ刑ニ輕重ノ差ヲ生スルヲ以テ之レカ規則ヲ設ケテ一定ナラシメサル可カラス是レ本章ノ設ケアル所以ナリ

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本

刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

- 一 再犯加重
- 二 宥恕減輕
- 三 自首減輕
- 四 酌量減輕

總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕スル順序ヲ定ムルニ當リ立法者

(第九十九條)